

JA岡山

営農振興 計画

平成28年度

平成30年度

岡山市農業協同組合

農家のために 地域のために！未来へつなぐ農業を目指して！



ごあいさつ

組合員の皆様方には益々ご清栄のことと心よりお喜び申し上げます。
JA岡山の運営及び事業活動の各般にわたり、平素から格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、我が国の農業を取り巻く環境につきましては、農業・地域を支える農業者の高齢化は一段と進み、担い手不足、耕作放棄地の増加、鳥獣害の深刻化に加え、TPP（環太平洋経済連携協定）の早期発効に向けた手続きが本格化するなど、かつてない厳しい状況に直面しております。

こうした情勢のもと、JAグループにおきましても、昨年12月、第33回岡山県JA大会を開催し、今後3か年において「持続可能な岡山県農業の実現」「豊かで暮らしやすい地域社会の実現」「協同組合としての役割発揮」を取り組みの柱として、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標とする「創造的自己改革」に取り組んでいくことを決議したところでございます。

これを受けて、JA岡山では、前回、平成26年に策定した「JA岡山営農振興計画」の成果と課題、「営農意向アンケート」の結果を踏まえ、今後3年間で取り組むべき営農振興の基本方針、営農センター別の具体的振興方策を「JA岡山営農振興計画～農家のために 地域のために！ 未来へつなぐ農業を目指して！～」として取りまとめいたしました。

本計画の実践にあたりまして、組合員皆様のさらなるご理解とご協力のもと、管内農業の活性化と生産基盤の拡大に役立つことを期待しております。


最後になりますが、アンケート調査へのご協力と貴重なご意見・ご提言をいただきましたことに対し、心より感謝申し上げますとともに、地域農業の発展と皆様方のご健勝をお祈り申し上げご挨拶いたします。

平成28年7月
岡山市農業協同組合

目次 Contents

p.4 **I**
営農活動の振り返り

1. 活動の成果
2. 今後の課題



p.6 **II**
JA岡山管内の概要と農業構造

1. 管内の概要
2. 管内の農業構造



p.11 **III**
計画策定にあたっての前提条件


1. 農家の身近なJAであること
2. 地域経済の基盤となる農業・JAであること
3. 生産から消費 営農から地域活性化に及ぶ多様な社会貢献
4. 時流に遅れない自己改革の実現

p.13 **IV**
計画策定の考え方

1. 計画策定の趣旨
2. 計画の構成と期間

p.14 **V**
農家意向調査結果

○営農全般について
○水田営農について
○農業、農政、農協に対する自由意見



p.23 **VI**
営農振興計画の基本方針と行動計画


p.24 1. 農畜産物の生産振興
・重点実施事項と年次別行動計画
米麦、野菜、果樹、花き、畜産、生産拡大支援対策等

p.33 2. 意欲ある担い手の確保・育成
・重点実施事項と年次別行動計画
新規栽培者の育成と部会活動の活性化、新規就農者の育成、集落営農組織の育成等

p.39 3. 販売戦略の強化
・重点実施事項と年次別行動計画
米直販体制の確立、園芸品目の首都圏出荷量の拡大、販売体制の確立、直売所の有効活用等

p.51 4. 営農指導体制の充実
・重点実施事項と年次別行動計画
職員研修の充実、指導体制の改善、担い手対策及び経営指導の強化、関係機関との連携強化等

p.56 5. 儲かる水田農業の確立
～水田農業ビジョンの策定と実践～
・重点実施事項と年次別行動計画
水田農業の担い手育成、水田農業経営モデルの作成と経営改善、労働支援対策及び農地流動化の推進



p.65 **VII**
営農センター別営農振興計画と年次別行動計画

p.68 ・沖田営農センター
1. センターの概況 2. 基本テーマ 3. 現状と課題
4. 目標と方策 5. 重点実施事項と年次別行動計画

p.73 ・西大寺営農センター
1. センターの概況 2. 基本テーマ 3. 現状と課題
4. 目標と方策 5. 重点実施事項と年次別行動計画

p.79 ・瀬戸内営農センター
1. センターの概況 2. 基本テーマ 3. 現状と課題
4. 目標と方策 5. 重点実施事項と年次別行動計画

p.85 ・藤田営農センター
1. センターの概況 2. 基本テーマ 3. 現状と課題
4. 目標と方策 5. 重点実施事項と年次別行動計画

p.89 ・備南営農センター
1. センターの概況 2. 基本テーマ 3. 現状と課題
4. 目標と方策 5. 重点実施事項と年次別行動計画

p.94 ・高松営農センター
1. センターの概況 2. 基本テーマ 3. 現状と課題
4. 目標と方策 5. 重点実施事項と年次別行動計画

p.99 ・建部営農センター
1. センターの概況 2. 基本テーマ 3. 現状と課題
4. 目標と方策 5. 重点実施事項と年次別行動計画

p.105 **付属資料**

1. 岡山市農業協同組合機構図
2. 組合員組織等
3. JA岡山 大型共同乾燥調製施設一覧
4. JA岡山 農産物加工施設一覧
5. JA岡山 店舗等一覧表



I 営農活動の振り返り



1.活動の成果（平成26～27年度）

● JA 出資型法人の麦作付面積の拡大

同法人を中心とした農地集積に取り組んだ結果、株式会社 JA アグリ岡山において、二条大麦の作付面積が 833ha から 889ha に、農事組合法人グリーンファーム岡山において、小麦・はだか麦の作付面積が 269ha から 341ha に拡大しました。

● 営農センターの集約と専門営農指導員の配置

地域特性・事業分量・エリア内の機動性等を考慮し、16 の営農センターを 7 か所に集約しました。同時に専門的な営農相談等に迅速に対応していくため、各営農センターに営農指導員を配置しました。

● 営農センター充実による出向く営農指導体制の整備

各営農センターに部門別の担当を配置し、営農指導、部会対応、各種推進など担当業務を明確にするとともに、相互に連携しながら組合員や部会等への専門的かつ迅速な対応が行える体制整備をすすめました。

● 経済事業改革に伴う肥料・農薬の価格低減対策

農業の省力化と生産コストの削減を図るため、JA 岡山プライベートブランド肥料の開発と普及拡大に取り組みました。併せて経済事業改革に伴う収支改善効果の組合員への還元方策として、肥料で 3 品目、農薬で 8 品目を対象に価格引下げを実施しました。

● 直売所のメール配信による集出荷体制の強化

直売所出荷者に対するメール配信サービスの内容を、より詳細でタイムリーな配信に変更し、効率的な出荷作業が行えるように改善しました。併せて商品の品薄情報等の提供を行い、人気商品等の品揃えの充実に取り組みました。



麦作付面積の拡大



営農指導体制の整備

2.今後の課題

- 売れる岡山米の生産と麦作付面積の更なる拡大
- 大型共同乾燥調製施設のサテライト化と施設整備の推進
- 青果物の高品質安定生産と出荷期間の拡大
- 農業の担い手の育成
- 米および青果物の有利販売体制の確立
- 消費者ニーズに対応した直売所の改革
- 農産物加工品の開発・販売と食品産業との連携強化
- 営農指導体制の整備、強化
- 水田農業ビジョンの策定と実践
- 労働支援対策および農地流動化の推進



農業の担い手育成（集落営農組織等）



水田農業ビジョンの策定の実践

II JA岡山管内の概要と農業構造



1. 管内の概要

1 地域の概要

JA岡山は、平成12年7月1日に岡山市内14JA（岡山市、岡山市三幡、高島、岡山一宮、足守町、津高、岡山市高松、吉備町、興除、妹尾町、岡山市福田、岡山市藤田、西大寺、上道町）が合併して新生岡山市農業協同組合として発足して以来、平成15年（玉野灘崎、備南、みつ、加茂川町、長船町）、17年（福浜）および20年（せとうち）の合併を経て、現在では、組合員数5万1千人超の全国でも有数の広域JAとなっています。

当管内は、県の南部に位置し、岡山県の三大河川のうち旭川と吉井川が瀬戸内海に注いで開けた岡山平野を中心に、北は吉備高原から南は瀬戸内海に至る約55キロメートル、東は備前市、西は倉敷市に接するまで約40キロメートル、総面積1,118平方キロメートルで、岡山県面積の15.7%を占めています。

地形は、南部は沖積平野及び江戸時代から拓かれた広大な干拓地で、ほぼ平坦な地形からなっています。一方、北部はなだらかな丘陵地（標高200～300m）からなり、吉備高原につながっています。

気候は温暖で、年平均気温15～17℃、年間降雨量1,000～1,500mmであり、特に冬の降水量は少なく、降雪はまれであり、典型的な瀬戸内式気候です。

交通は、山陽新幹線、JR山陽本線ほかJR5支線、国道2号線その他4国道、高速道路は山陽自動車道、岡山自動車道がそれぞれ管内を走り、京阪神、中国、四国、そして山陰への交通の要衝となっています。

2 組合員・役員・職員数

JA岡山の組合員・役員・正職員の数はこちらのとおりです。

組合員		役員		正職員
正組合員数 (正組合員戸数)	30,704人 (22,821戸)	経営管理委員	45人	795人 (内営農指導員 100人)
准組合員数 (准組合員戸数)	20,926人 (15,070戸)	理事	5人	
合計	51,630人 (37,891戸)	監事	9人	

(平成28年4月1日現在)

2. 管内の農業構造

1 専業・兼業別農家数等の推移(表1)

農林業センサスによるとJA岡山管内の平成27年総農家数は13,291戸で、その内販売農家は約65%の8,584戸ですが、平成17年から平成27年の10年間にそれぞれ24.6%、30.4%減少しています。

販売農家の内訳においても専業農家は9.5%、第1種兼業農家は24.4%、第2種兼業農家は39.6%の減少となっています。また、自給的農家は4,707戸で年々減少しており、今後この傾向は続くものと考えられます。

表1 専業・兼業別農家数等の推移

単位：戸

	総農家数	販売農家				自給的農家数	自給的農家割合
		合計	専業農家数	第1種兼業農家数	第2種兼業農家数		
平成17年	17,619	12,333	3,234	1,067	8,032	5,286	30.0%
平成22年	15,805	10,615	3,293	901	6,421	5,190	32.8%
平成27年	13,291	8,584	2,928	807	4,849	4,707	35.4%
増減 (H17→H27)	▲4,328 (▲24.6%)	▲3,749 (▲30.4%)	▲306 (▲9.5%)	▲260 (▲24.4%)	▲3,183 (▲39.6%)	▲579 (▲11.0%)	5.4%
岡山県(H27)	62,592	36,077	11,476	2,844	21,757	26,515	42.4%
県全体に占める割合(H27)	21.2%	23.8%	25.5%	28.4%	22.3%	17.8%	—

(2005年、2010年、2015年農林業センサス)

注) 農林業センサスにおける定義

「農家」：経営耕地面積が10a以上又は年間農産物販売金額が15万円以上の世帯をいいます。

「販売農家」：経営耕地面積が30a以上又は年間農産物販売金額が50万円以上の農家をいいます。

2 耕地面積・耕作放棄地面積の推移(表2)

JA管内の経営耕地面積（販売農家）は11,071haで、田が89.8%を占め、畑が6.3%、樹園地が3.9%となっており、耕作放棄地面積は9.1%を占めています。また、平成17年から平成27年の10年間の推移を見ると、耕作放棄地面積は51ha減少していますが、経営耕地面積に対する耕作放棄地面積の割合は増加しており、経営耕地面積全体では2,126haが減少していることから、転用もしくは原野化した農地と合わせ年々、農用地として利用されなくなった耕作放棄地が拡大していると考えられます。

表2 耕地面積・耕作放棄地面積等の推移

単位：ha

	経営耕地面積（販売農家）				耕作放棄地面積 （経営耕地面積に 対する割合）
	計	田	畑	樹園地	
平成 17 年	13,197 (100.0%)	11,739 (88.9%)	931 (7.1%)	527 (4.0%)	1,056 (8.0%)
平成 22 年	12,653 (100.0%)	11,328 (89.5%)	862 (6.8%)	463 (3.7%)	1,005 (7.9%)
平成 27 年	11,071 (100.0%)	9,946 (89.8%)	697 (6.3%)	428 (3.9%)	1,005 (9.1%)
増 減 (H17→H27)	▲ 2,126 (▲16.1%)	▲ 1,793 (▲ 15.3%)	▲ 234 (▲ 25.1%)	▲ 99 (▲ 18.8%)	▲ 51 (▲ 4.8%)
岡山県 (H27)	37,585	31,582	4,168	1,836	5,691
県全体に占める割合 (H27)	29.5%	31.5%	16.7%	23.3%	17.7%

(2005年、2010年、2015年農林業センサス)

注) 農林業センサスにおける「耕作放棄地」の定義

1年以上作付していない土地のうち、今後も作付する考えのない土地をいいます。すでに原野化している土地は含めていません。

3 経営規模別販売農家数の推移 (表3)

JA岡山管内の経営規模別販売農家数を見ると、1ha未満の農家が6割以上を占め、2ha以上の大規模農家は11.9%となっています。JA岡山管内の1戸当たりの平均経営耕地面積は1.29haで、平成17年に比べて20a以上拡大しています。また、規模別農家数の推移を見ると、2ha未満の農家の減少率が高く、この10年間で約3,700戸が減少しています。反面、5ha以上の大規模農家の増加率は35.4%と高くなっており、農地の集積が進んでいることが伺えます。

表3 経営規模別販売農家数の推移

単位：戸

	農家数計	～0.3ha	0.3～ 0.5ha	0.5～ 1.0ha	1～2ha	2～5ha	5ha～	1戸当たり 平均経営耕 地面積 (a)
平成 17 年	12,333 (100.0%)	196 (1.6%)	2,895 (23.5%)	4,929 (40.0%)	3,238 (26.3%)	897 (7.3%)	178 (1.4%)	107
平成 22 年	10,615 (100.0%)	134 (1.3%)	2,255 (21.2%)	4,246 (40.0%)	2,872 (27.1%)	888 (8.4%)	220 (2.1%)	119
平成 27 年	8,584 (100.0%)	156 (1.8%)	1,787 (20.8%)	3,277 (38.2%)	2,346 (27.3%)	777 (9.1%)	241 (2.8%)	129
増 減 (H17→H27)	▲ 3,749 (▲30.4%)	▲ 40 (▲ 20.4%)	▲ 1,108 (▲ 38.3%)	▲ 1,652 (▲ 33.5%)	▲ 892 (▲ 27.5%)	▲ 120 (▲ 13.4%)	63 (35.4%)	22
岡山県 (H27)	36,077	435	9,668	15,301	7,837	2,192	644	104
県全体に占める 割合 (H27)	23.8%	35.9%	18.5%	21.4%	29.9%	35.4%	37.4%	-

(2005年、2010年、2015年農林業センサス)

4 販売品販売高等 (表4)

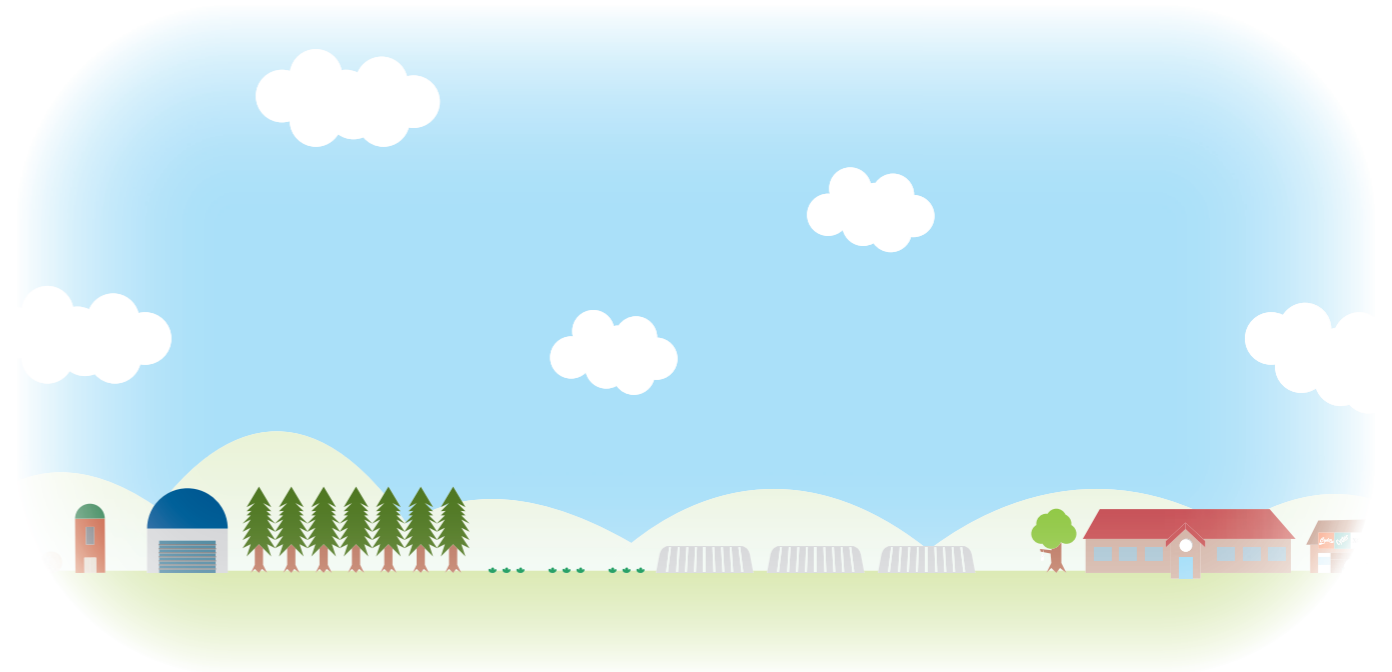
JA岡山における農産物等の品目数は50品目を超え、まさに、農畜産物の総合供給産地となっています。平成27年度の総販売額は約113億6千万円ですが、近年の米価低下、天候不順や生産者の高齢化による野菜の出荷量の減少等により、平成22年度と比べると92.0%となっています。品目別に見ると、米が全体に占める割合は32.1%、野菜が32.4%となっており、全体の3分の2の割合を占めています。また、販売高としては直売所における販売額がこの5年間で大きく増加しています。

表4 販売品販売高等

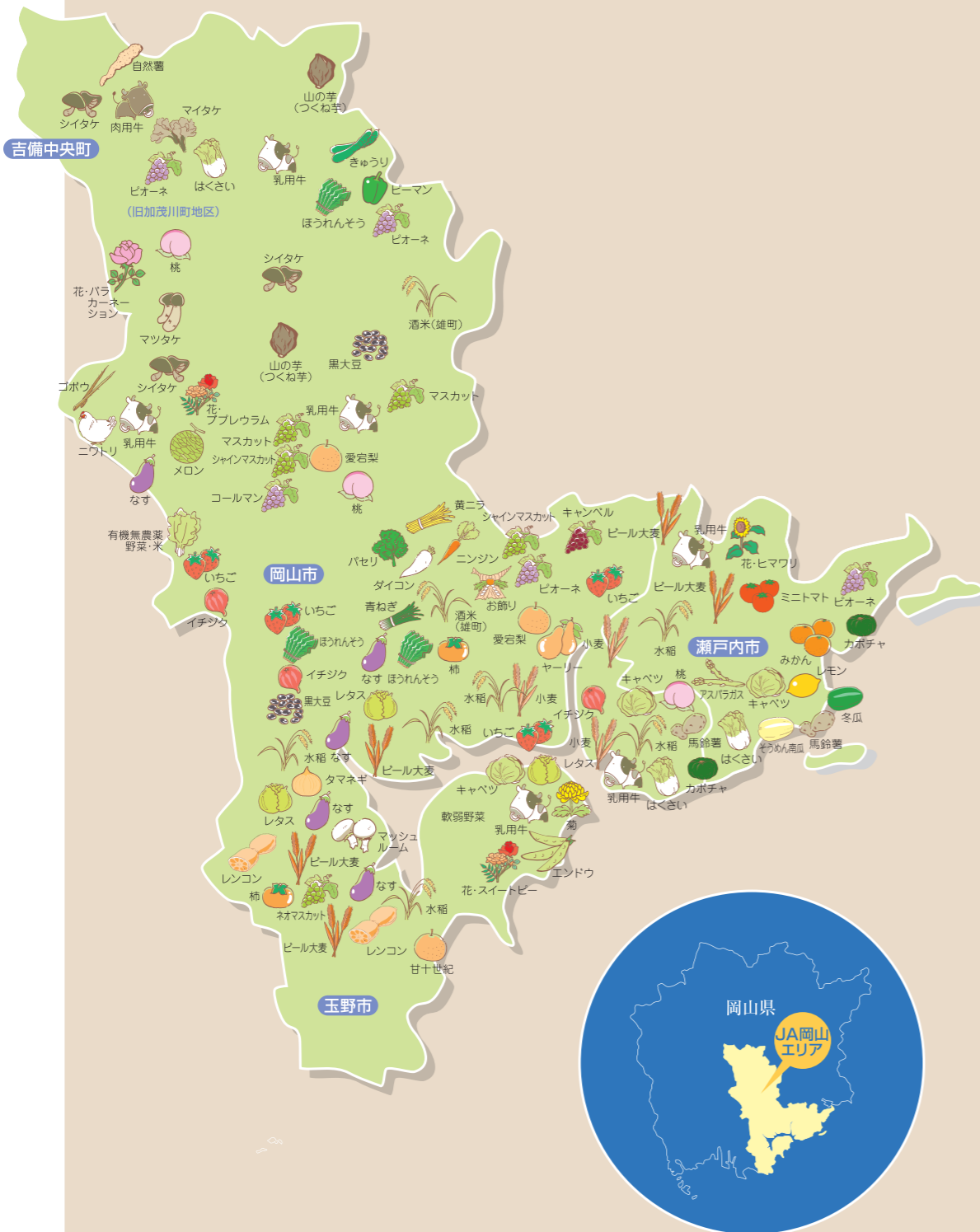
単位：千円、%

品 目	販 売 高				割 合		伸び率 (H27/ H22)
	H 22	H25	H26	H27	H22	H27	
米	4,189,542	3,647,068	3,476,242	3,644,082	33.9	32.1	87.0
麦類	516,591	505,471	669,880	462,398	4.2	4.1	89.5
雑穀・大豆	23,651	25,116	34,668	36,817	0.2	0.3	155.7
野菜	4,297,568	3,743,472	3,510,703	3,686,829	34.8	32.4	85.8
果実	1,479,137	1,459,103	1,410,246	1,504,690	12.0	13.2	101.7
花き花木	202,944	175,777	154,245	144,881	1.6	1.3	71.4
畜産	108,680	113,033	136,255	189,667	0.9	1.7	174.5
直売所	1,317,103	1,442,342	1,411,892	1,496,287	10.7	13.2	113.6
その他	218,615	400,801	216,327	198,726	1.8	1.7	90.9
合 計	12,353,831	11,512,183	11,020,458	11,364,377	100.0	100.0	92.0

(平成 23・26～28 年度総代会資料)



JA岡山のエリアと主な農産物



III 計画策定にあたっての前提条件



1. 農家の身近なJAであること

- 地域農業の振興を目的とした現場力の高い営農指導体制により、「対話とふれあい」を深め、地域、組合員から信頼される営農活動を展開します。
- 万全な経営基盤の確立に努め、組合員・利用者から信頼される組織づくりと安心してご利用いただける事業活動を展開します。
- 生産部会員、担い手農家、新規就農者等、意欲ある農業者の意向を十分に反映できる体制を構築します。
- 産地づくりや地域づくりを通じて社会や地域、組合員に貢献できる事業活動を展開します。

2. 地域経済の基盤となる農業・JAであること

- 従来の内向きの視点から、地域や農業を核とした外向きの戦略的経営に徐々にシフトしていきます。
- 農家と共に地域社会を構成する准組合員の方々にも、JAにしかできないサービスの提供を進め、地域の活性化に努めます。
- 全役職員が農業に関心を持ち、営農への理解を深める機会を増やしながら、JA全体で農業振興に取り組みます。
- JAグループ担い手サポートセンター等と連携し、大規模経営者や大規模志向農家の方々を対象とした担い手総合支援に取り組み農業生産基盤の維持・拡大を図ります。
- 現状維持または小規模志向農家の方々には、引き続き産地を支えていただく重要な担い手として、生産から販売に渡り計画的な支援を継続します。
- 営農指導員を各営農センターに適正に配置し、現場力の高い営農指導を実践します。また、本所機能の充実を図り、営農指導員の早期育成や経営管理指導、担い手育成対策への取組みを強化します。



3. 生産から消費、営農から地域活性化に及ぶ多様な社会貢献

- 農産物の生産から販売までを洗い直し、生産販売方針を基に青果物集荷場を集約し、生産量に見合った流通チャンネルの選択や市場の開拓（販売戦略）に重点的に取り組み、農畜産物販売高の拡大を図ります。
- 地域農業の活性化と生活向上に資するため、農業振興、地産地消、食農教育、6次産業化を展開し、農産物直売所「はなやか店」をベースに、「食と農の拠点づくり」を推進します。
- 近年は営農や信用・共済だけに限らず、生活用品販売、地域コミュニティ活動および高齢者福祉活動への支援等、農村地域のJAに対するニーズは多様化しており、農家の両輪である営農と生活・経済のバランスのとれた支援を目指します。

4. 時流に遅れない自己改革の実現

- 農業の担い手育成、多様化する市場流通、水田農業の改革など多くの課題に対し、関係機関との連携を強めるとともに、本所・支所・営農センターとの情報共有を図り、組織的に取り組んでまいります。
- 広域合併農協のメリットを活かし、大型共同乾燥調製施設の効率的運用、青果物集荷場の集約、遊休資産を活用した6次産業化の取り組みなど施設の有効活用を進めます。
- 農家のためのJAであるべく、現場の意見・要望や動きは、JA内部で共有し、的確な農家対応と地域の活性化、事業体としての自立を目指します。
- 岡山の農業を代表する組織体として、その振興と伝承、文化としての価値向上に向けて積極的に情報発信を行います。

IV 計画策定の考え方



1. 計画策定の趣旨

JA岡山の管内では瀬戸内沿岸から吉備高原に至る恵まれた自然条件と都市近郊という社会・経済的条件のもと、先人から蓄積されてきた優れた技術、文化等を活かし、組合員の多様な営農を通じて、農産・園芸等、多彩な農畜産物の生産と安全・安心な食料の安定供給に努めてまいりました。

しかしながら、近年の農業を取り巻く情勢は、生産者の高齢化や担い手不足、耕作放棄地の増大など農業生産基盤の弱体化に加え、輸入農産物との競合やTPPの発効による農業分野への影響等多くの課題を抱えています。

国は、国民全体の取組みの指針として「新たな食料・農業・農村基本計画」を策定し、食料・農業・農村に関する施策を総合的かつ計画的に推進するとともに、岡山県では「21おかやま農林水産プラン」を策定し、本県農林水産物の強みを活かしたマーケティング戦略やブランディングの推進、次代を担う担い手の育成等、攻めの農林水産業を支える施策を推進することとしています。

このような中、JA岡山では、農業を取りまく情勢の変化と政策変更に鑑み、今後の営農振興の指針となるべき「JA岡山営農振興計画」を策定し、その実現に向けて具体的な施策を実践してまいります。

2. 計画の構成と期間

この計画は、JA岡山が組合員とともに取り組むべき営農振興の基本方針と行動計画、営農センター別の振興方針と行動計画を示したものであります。

平成28年度から30年度までの3か年計画

私たちはこの計画に沿って組合員の自主性と創意工夫を基本に、農業者の所得増大と農業生産の拡大に取り組みながら、新たなJAづくりを進めてまいります。

IV 計画策定の 考え方



1. 計画策定の趣旨

JA岡山の管内では瀬戸内沿岸から吉備高原に至る恵まれた自然条件と都市近郊という社会・経済的条件のもと、先人から蓄積されてきた優れた技術、文化等を活かし、組合員の多様な営農を通じて、農産・園芸等、多彩な農畜産物の生産と安全・安心な食料の安定供給に努めてまいりました。

しかしながら、近年の農業を取り巻く情勢は、生産者の高齢化や担い手不足、耕作放棄地の増大など農業生産基盤の弱体化に加え、輸入農産物との競合やTPPの発効による農業分野への影響等多くの課題を抱えています。

国は、国民全体の取組みの指針として「新たな食料・農業・農村基本計画」を策定し、食料・農業・農村に関する施策を総合的かつ計画的に推進するとともに、岡山県では「21おかやま農林水産プラン」を策定し、本県農林水産物の強みを活かしたマーケティング戦略やブランディングの推進、次代を担う担い手の育成等、攻めの農林水産業を支える施策を推進することとしています。

このような中、JA岡山では、農業を取りまく情勢の変化と政策変更に鑑み、今後の営農振興の指針となるべき「JA岡山営農振興計画」を策定し、その実現に向けて具体的な施策を実践してまいります。

2. 計画の構成と期間

この計画は、JA岡山が組合員とともに取り組むべき営農振興の基本方針と行動計画、営農センター別の振興方針と行動計画を示したものであります。

平成28年度から30年度までの3か年計画

私たちはこの計画に沿って組合員の自主性と創意工夫を基本に、農業者の所得増大と農業生産の拡大に取り組みながら、新たなJAづくりを進めてまいります。

V 農家意向調査結果

農家アンケートによる調査報告

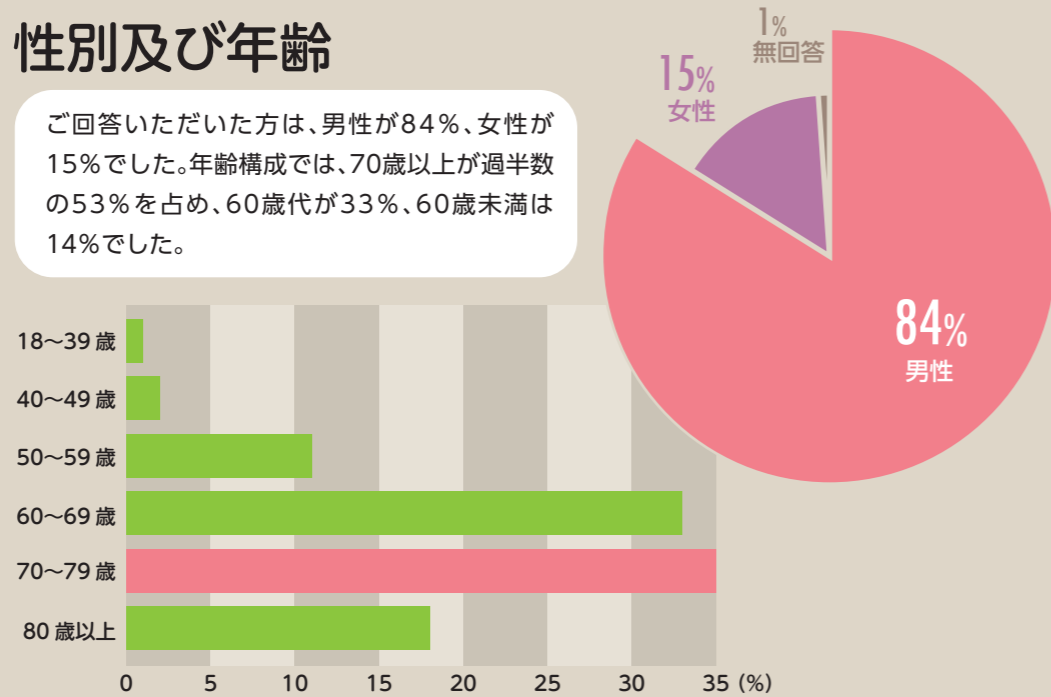
調査 ①調査対象／正組合員世帯23,104戸 ②調査期間／平成27年10月～11月
 概要 ③回収結果／有効回収数7,428票 有効回収率32.1%



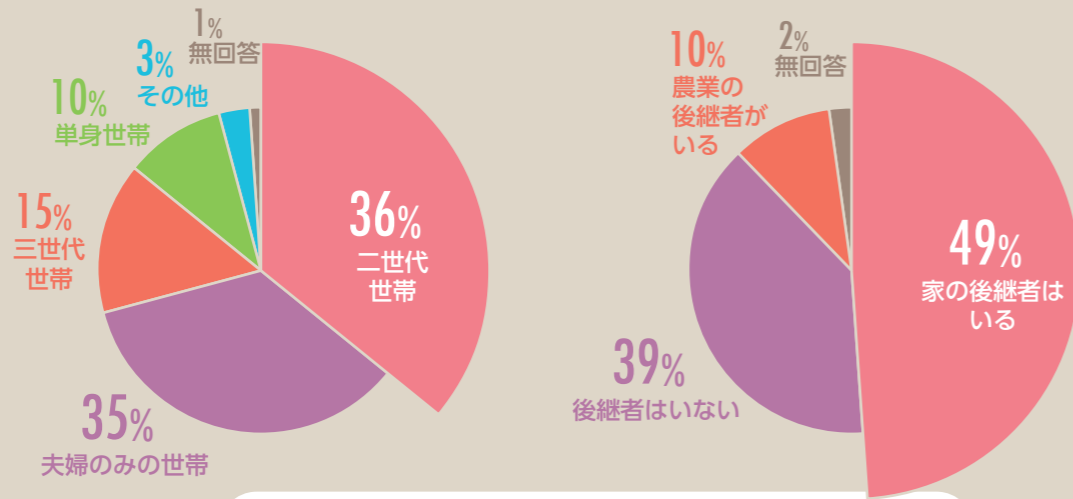
○ 営農全般について

1. 性別及び年齢

ご回答いただいた方は、男性が84%、女性が15%でした。年齢構成では、70歳以上が過半数の53%を占め、60歳代が33%、60歳未満は14%でした。

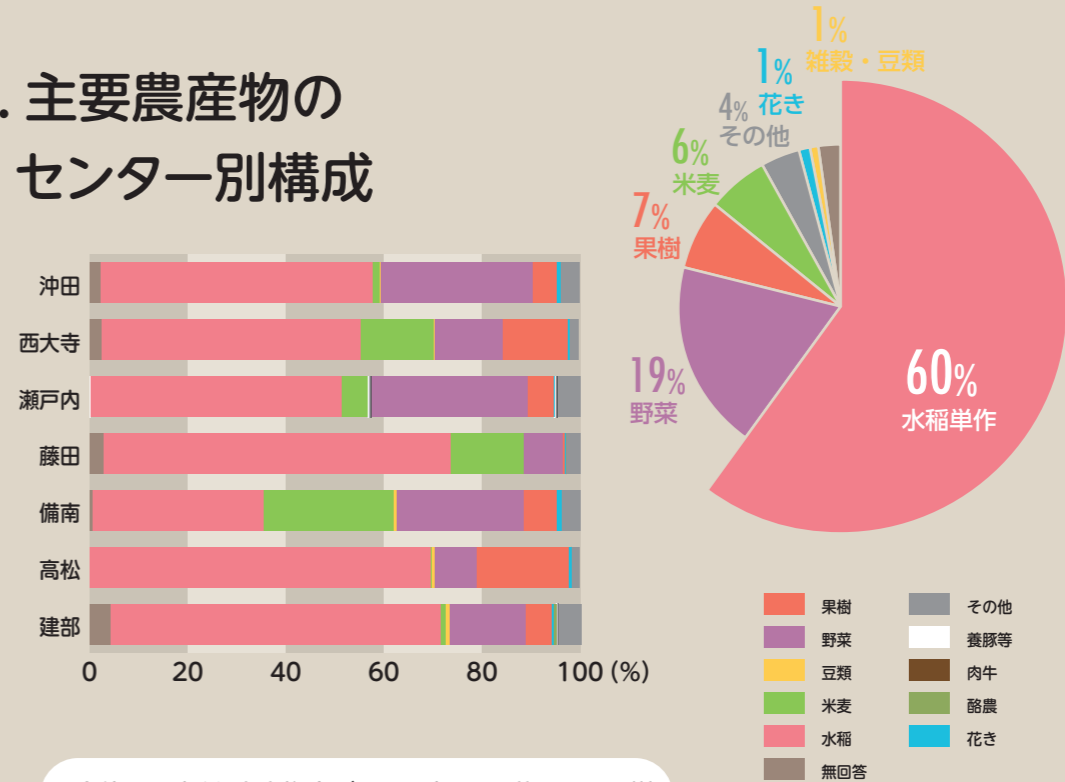


2. 家族構成および後継者



家族構成では「二世世代」または「夫婦のみの世帯」が全体の71%「単身世帯」が10%を占めました。また「家の後継者がいる」と答えた方は49%「農業後継者がいる」と答えた方は10%でした。

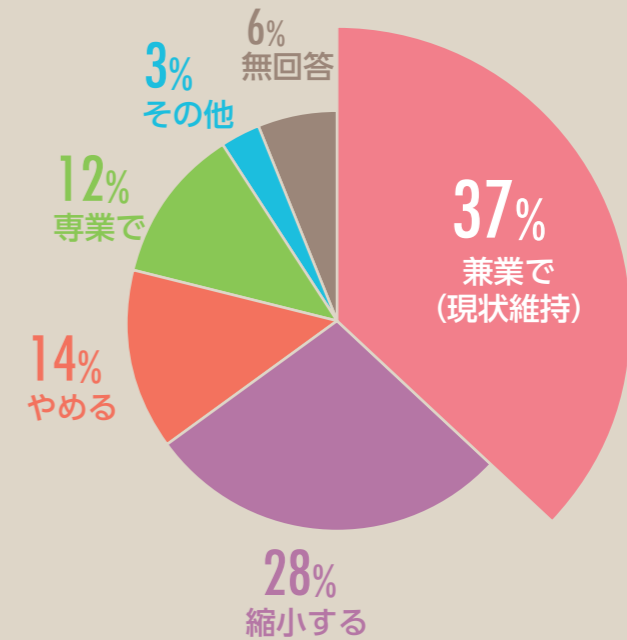
3. 主要農産物のセンター別構成



全体では水稲、米麦複合が2/3を占め、野菜19%、果樹7%と続きます。センター別では、沖田、瀬戸内、備南で野菜、西大寺、高松で果樹の割合が高くなっています。

4. 今後、農業経営をどうしますか？

「現状維持」が37%「縮小する」あるいは「やめる」と答えた方が42%「専業または拡大する」は12%でした。

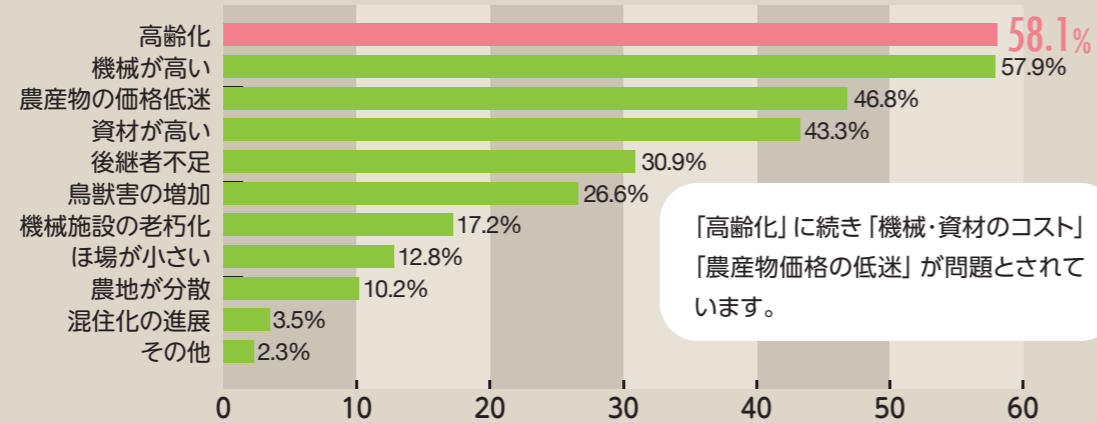




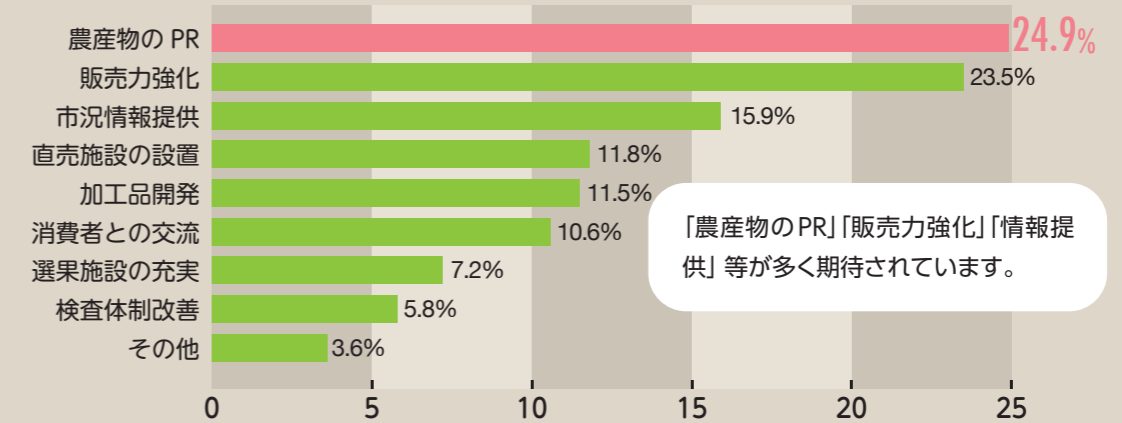
農家意向調査結果

農家アンケートによる調査報告

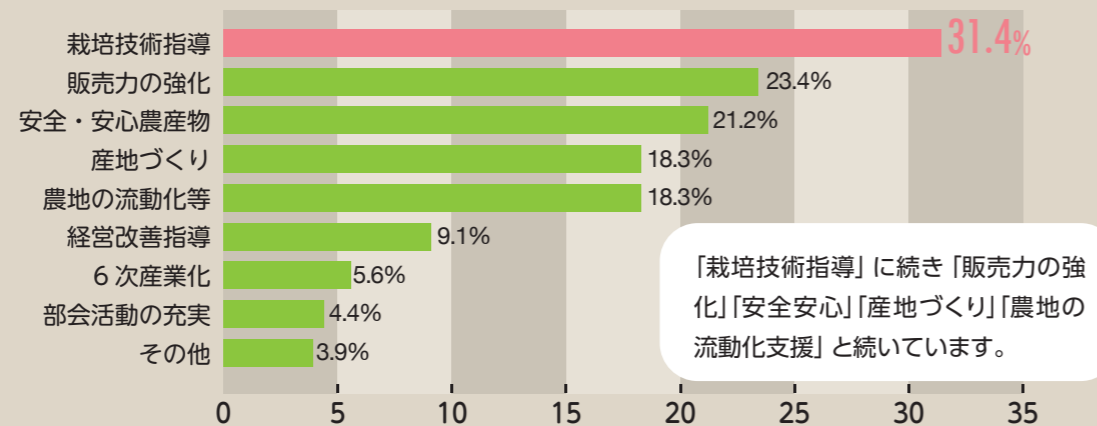
5. 農業経営上の問題点



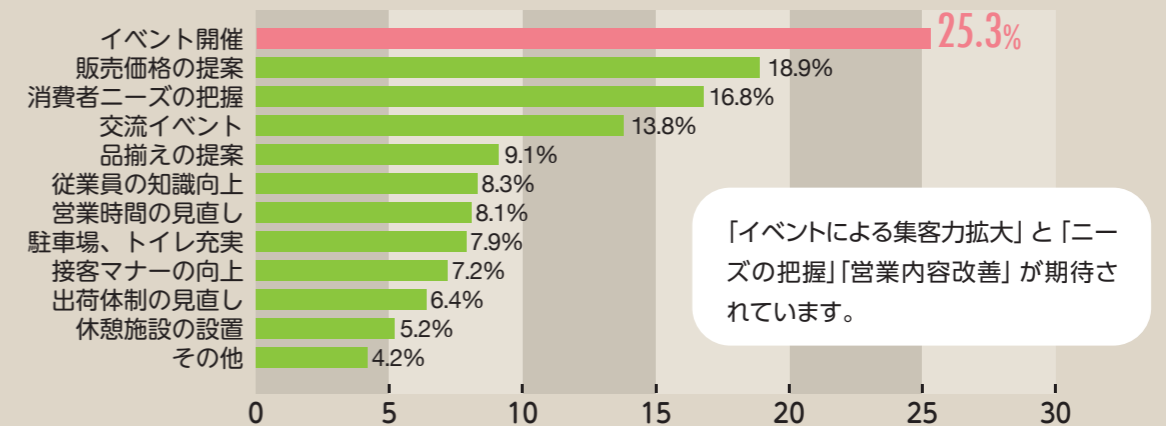
8. 販売事業についての要望



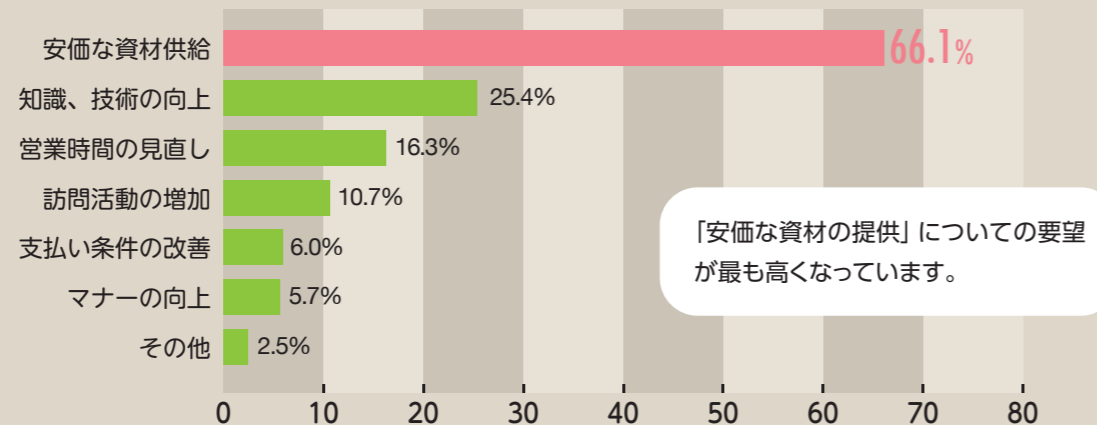
6. 営農指導事業への要望



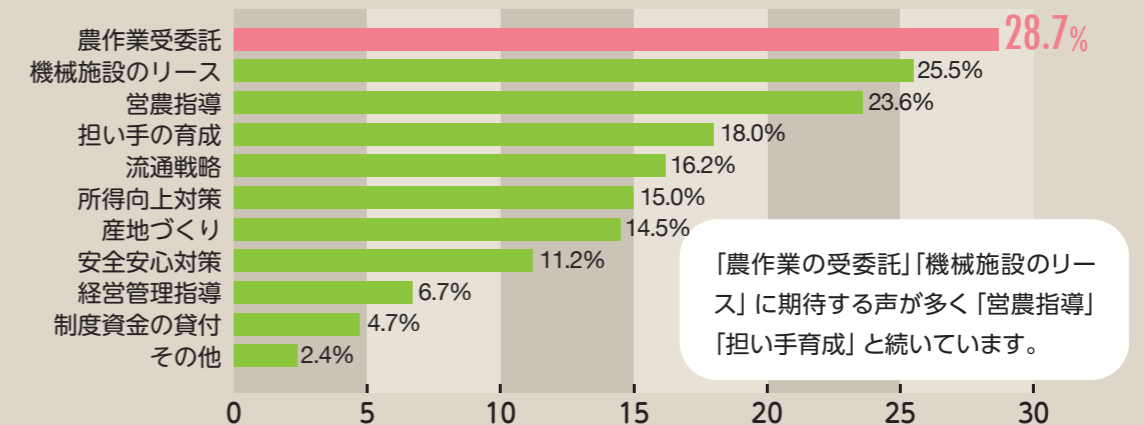
9. 農産物直売所への要望



7. 購買事業についての要望



10. JA 岡山に期待することは何ですか？



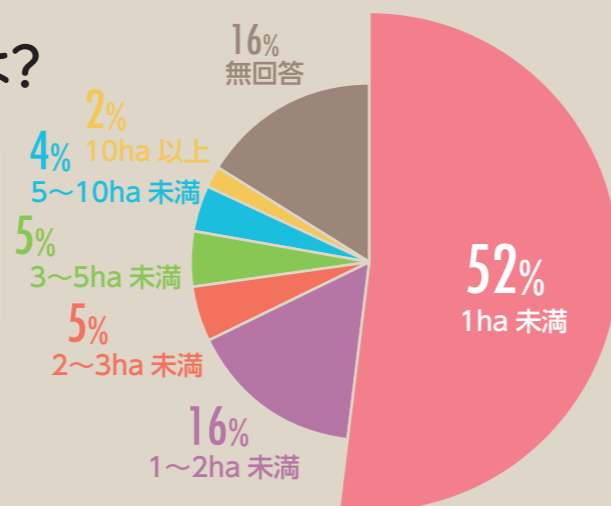
○水田営農について



農家意向調査結果 農家アンケートによる調査報告

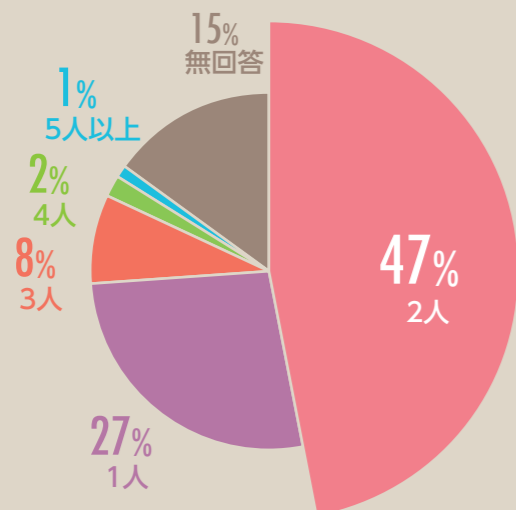
11. あなたの 水稲作付面積は？

「1ha未満」が52%「1～2ha」が16%「2～3ha」が5%と順に少なく「5ha以上」と回答された方は6%でした。



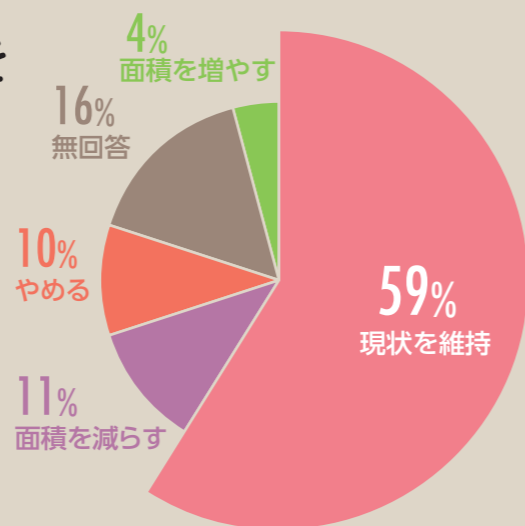
12. あなたの家族労働力は？

家族労働力は「二人」が最も多く47%を占め「一人」が27%「三人」が8%「四人以上」と回答された方は3%でした。



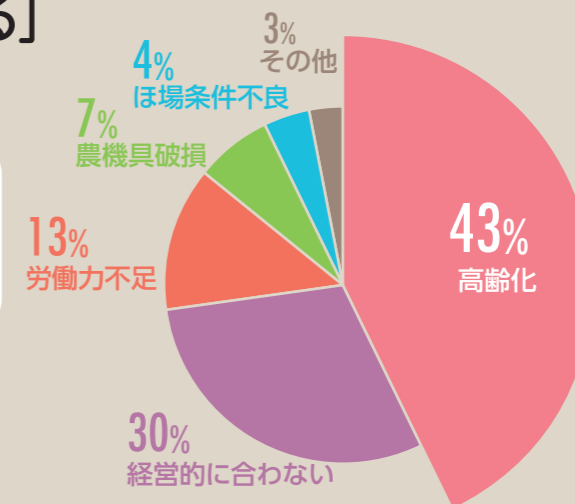
13. 今後、水稲栽培を どうする？

「現状維持」が59%で「増やす」は4%「減らす」または「やめる」と回答された方は21%となりました。



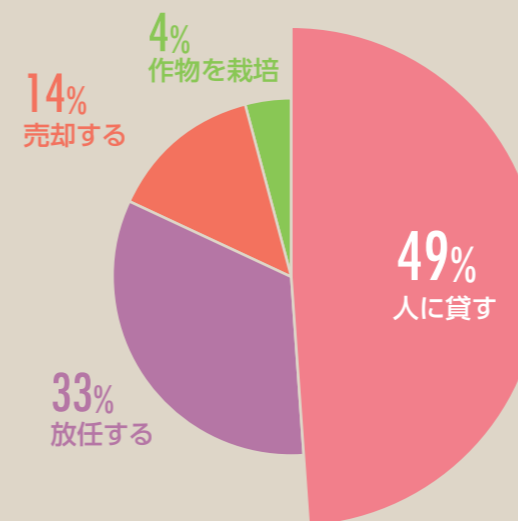
13-1. 「減らす」「やめる」 理由は？

「高齢化」が最も多く43%「経営的に合わない(30%)」「労働力不足(13%)」と続いています。



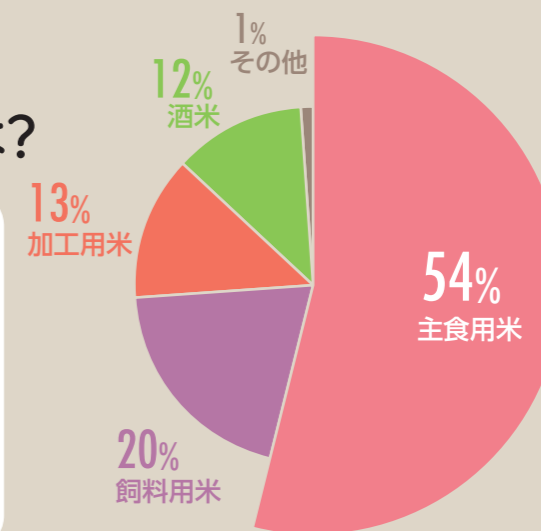
13-2. その場合水田は どうする？

「人に貸す(49%)」「放任する(33%)」「売却する(14%)」で「作物栽培」は4%でした。人に貸す場合近所の農家や大型稲作農家へが主体(66%)となっています。



14-1. 「増やす」場合 米の用途と品種は？

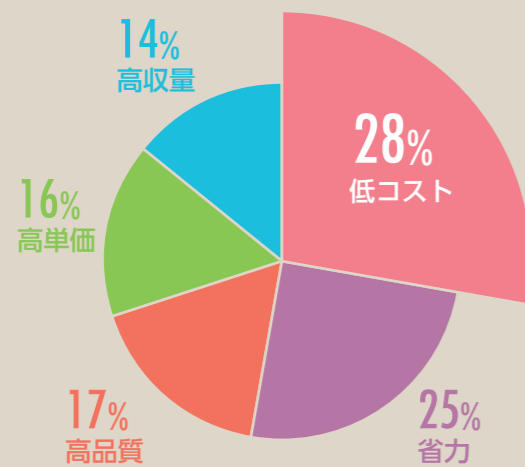
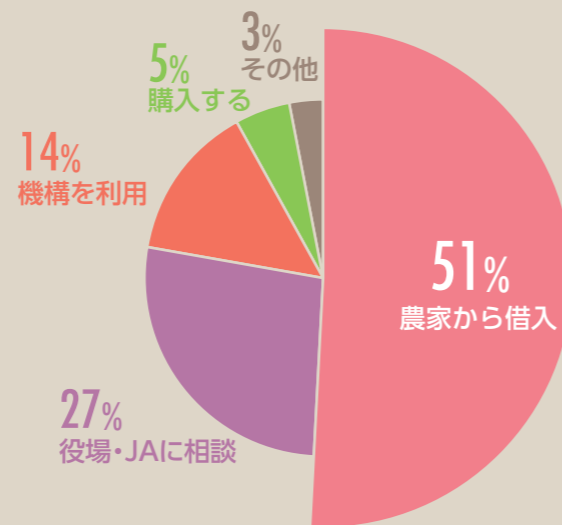
米の用途は「主食用」が54%「飼料用」が20%「加工用」が13%「酒米」が12%でした。主食用品種としては、アケボノ、朝日、ヒノヒカリが三本柱でした。また、飼料用は、アケボノ、中生新千本、加工用はアケボノ、酒米は山田錦、雄町でした。





14-2. 「増やす」場合 農地の確保は?

「農家からの借入」が51%「役場・JAに相談」が27%「中間管理機構を利用」は14%でした。借りる対象は、近所の農家が80%を占めています。

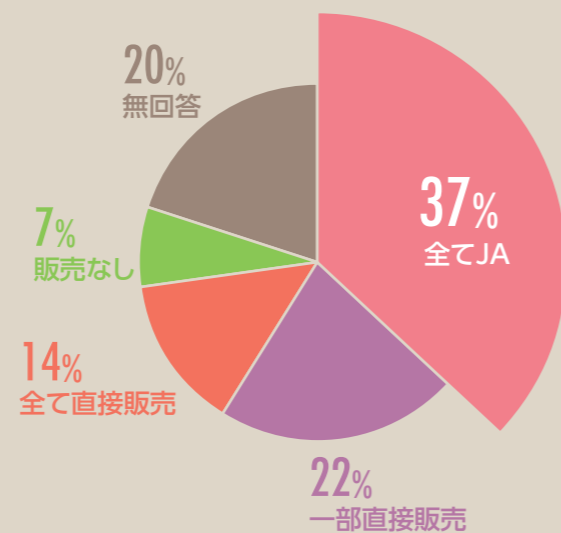


14-3. 増反する際の対策は?

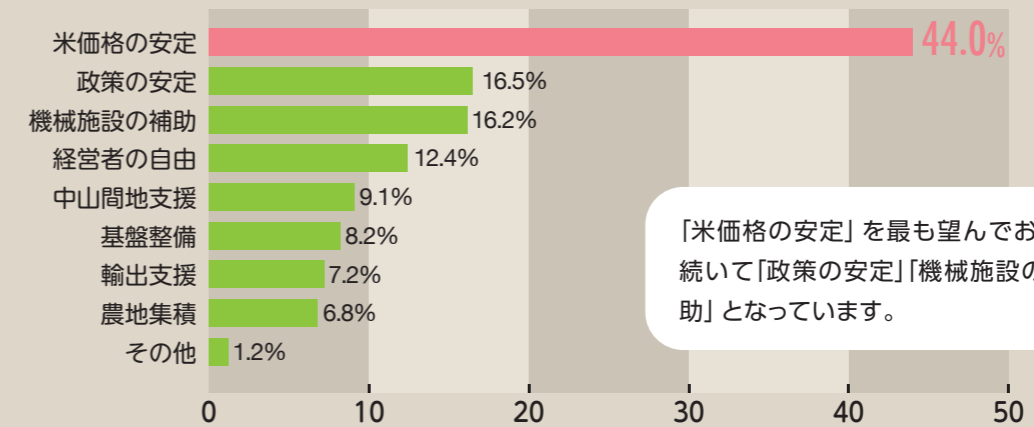
増反する際の技術対策は「低コスト」「省力」が高くなっていますが、「高品質」「高単価」「高収量」にも高い意識が見受けられました。

15. 米の販売の 現状について

米の販売は「全てJA」が37%「一部直接販売」が22%と多く「全て直接販売」は14%でした。

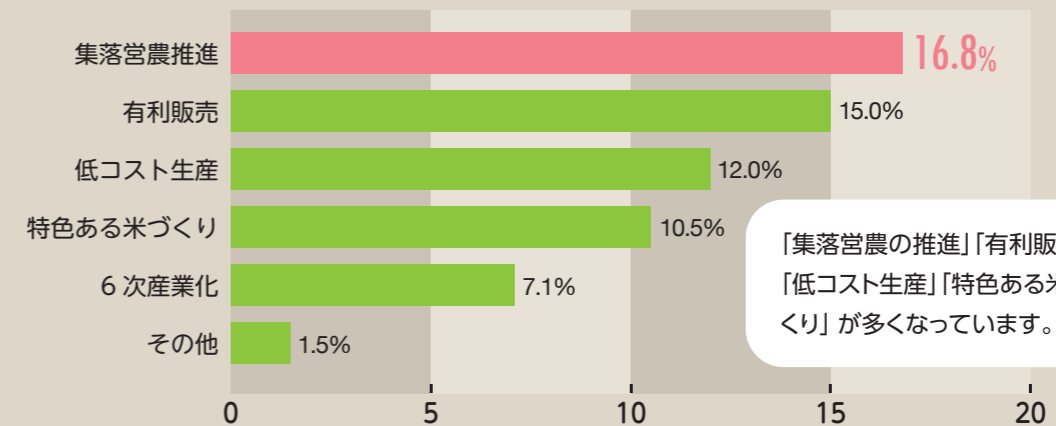


16-1. 水田営農の行政的対策



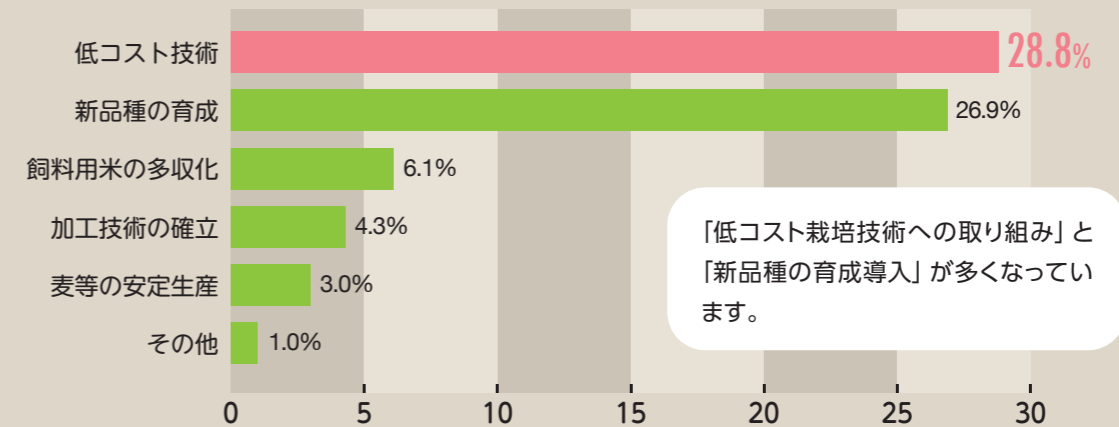
「米価格の安定」を最も望んでおり、続いて「政策の安定」「機械施設の補助」となっています。

16-2. 水田営農の経営面での対策



「集落営農の推進」「有利販売」「低コスト生産」「特色ある米づくり」が多くなっています。

16-3. 水田営農の技術面での対策



「低コスト栽培技術への取り組み」と「新品種の育成導入」が多くなっています。



○農業、農政、農協に対する自由意見（抜粋）

- 担い手不足・高齢化で放棄地・荒れ地が増加してくる不安がある。これらを集積・有効利用する対策が必要。
- 組合員・農家の実態に合わせ繁忙期、特に田植、稲刈り期は土日等を休日とせず営業する必要がある。JAは、農家組合員、消費者のための責務を全うする必要があると考える。
- 経営面積は年々、増えて行きますが小區画な田んぼが多く、コスト高になり、現在の米価では利益が出しにくく後継者を引き入れる事ができない。
- JA 岡山として、マーケティング力の強化、6次産業化による高付加価値化により農産物の有利販売を推進し、農家もJA岡山も利益の向上を目指して前進してもらいたい。
- 働いて汗を流した結果が報われる取り組みを一刻も早く見つけてもらいたい。若者や後継ぎに喜んでもらえる農家や組合員になれるよう指導してもらいたい。目に見える成果のある結果を期待して待っています。
- 地区・ブロック別に地域特産物を定め、生産～販売（加工）について腰を据えた営農指導をお願いしたい。
- JA は、農業振興・支援という使命を忘れてはならない！農業に明るく、経営感覚に優れたリーダーシップの発揮に期待します。
- 水稲作りに使用する機械が高価な為買い替えが困難です。使いたい時にリース出来る様にして欲しいです。
- 安全、安心の食べ物をこれからも作り続けたいです。農業が少しでも明るいことになれば、また農村も活気づくと思います。JAのご活躍を期待します。
- 所得が確保できるよう、再生産可能な価格維持対策等、JA が主体的に指導力を発揮して欲しい。JA の独自戦略も必要ではないか。
- 岡山県産米のアケボノ・朝日米等について、もっと行政が全国へアピールするべき。付加価値の高い米品種を作るべき。
- 組合員ともっとコミュニケーションを取り、情報を発信しながら、情報を持ち帰るような動きが、今の JA には必要だ。飼料米、契約野菜等の今後の取り組みに期待している。
- 水稲においては、大型化のできる環境をつくること。大型化により、十分やっていける産業であることを広めていくこと。
- 技術指導による生産向上と 上手に消費者を導くように、流通戦略を考えていく必要がある。農業について指導員の勉強と指導力向上を要望する。
- 今後は大農業（企業及び個人）が主体となるが、中小規模農家あってこそ村、町の自然を守り、文化も守り又、家族の絆も太くなることを忘れてはならない。
- 農協は、農家経営に直接つながる様な農家対応をしてもらいたい。農協は農家の所得向上のための一番身近な組織であると思えるので、生産、販売部門をはじめ、中核的な機能を発揮しがんばってもらいたい。
- 今後は JA の方が、農地や農機具等の買取り、農作業受委託等の相談に乗って下さればと思います。



VI

営農振興計画の 基本方針と行動計画

JA岡山では「計画策定の考え方」に基づき、
次の5項目を営農振興計画の基本方針として掲げ、
取組みを進めてまいります。

- 1** 農畜産物の生産振興
- 2** 意欲ある担い手の確保・育成
- 3** 販売戦略の強化
- 4** 営農指導体制の充実
- 5** 儲かる水田農業の確立
～水田農業ビジョンの策定と実践～

農業振興対策のスタンス



- JAグループは、自己改革の基本目標として「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を決定した。
- 基本目標を踏まえ、農家（現場）のJA岡山に対する要望等を鑑み、独自目標を設定する。
- JA岡山の独自目標は、農業情勢、地域農業の課題や緊急性を考え、上記の5項目とする。

基本方針 - ①

農畜産物の生産振興



「作ったモノを売る（プロダクトアウト）」から「売れるモノを作る（マーケットイン）」への転換を基本とし、作物別の生産振興に取り組みます。

重点実施事項 ①

米の安定生産

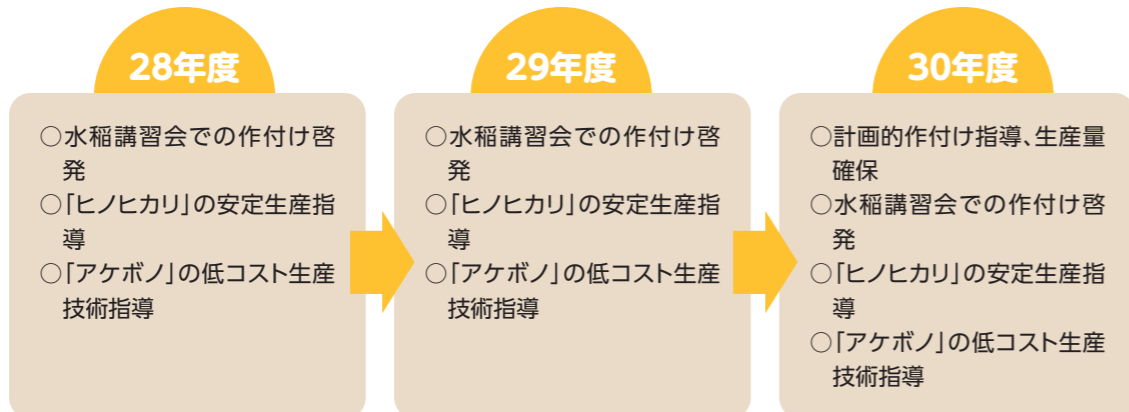


具体的方策 — 1

主食用米として需要のある「ヒノヒカリ」、業務用・加工用米として需要のある「アケボノ」の生産拡大

数値目標等 (3ヶ年)	作付面積 (JA岡山管内作付面積)	担当部署 米穀課 指導課
	ヒノヒカリ / 1,946 ha → 2,350ha アケボノ / 3,272 ha → 3,600ha	

【各年度の行動計画】

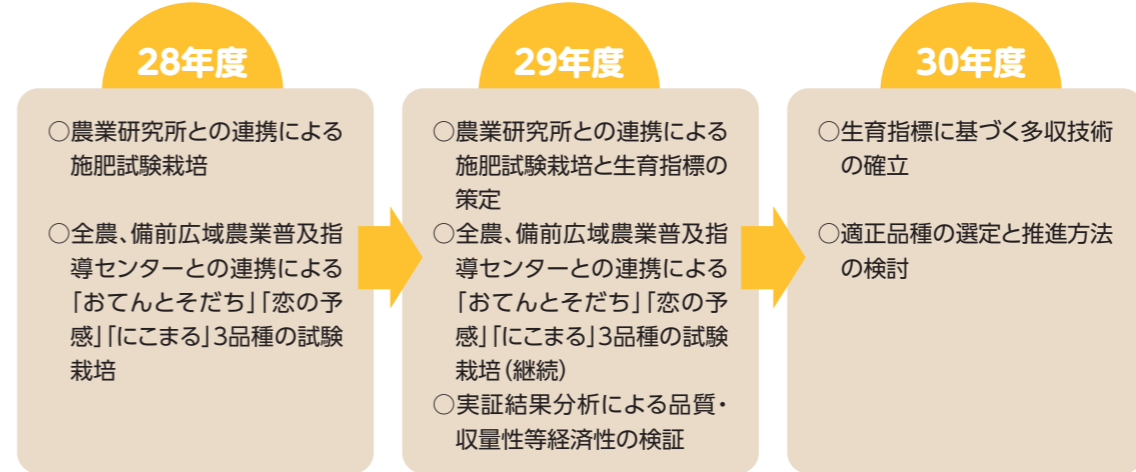


具体的方策 — 2

「アケボノ」の安定多収生産技術確立に向けた取組みと高温耐性品種の実証試験による適正品種の選定

数値目標等 (3ヶ年)	・多収目標 660kg/10a ・高温耐性品種の選定	担当部署 米穀課 指導課

【各年度の行動計画】

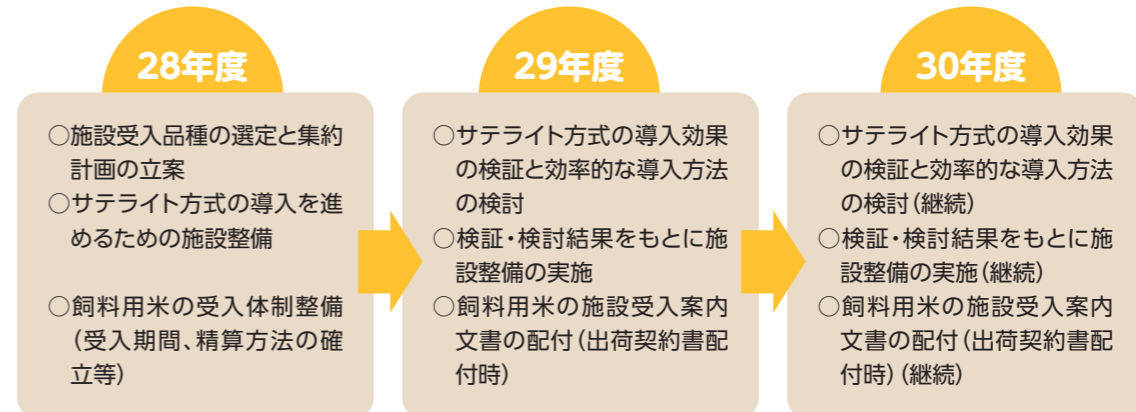


具体的方策 — 3

・大型共同乾燥調製施設の処理能力、地域性等を考慮した受入品種の集約とコンタミ等のリスク軽減による効率的かつ安全安心な米づくりの実施
・生産数量目標配分の廃止を見越した飼料用米の受入拡大

数値目標等 (3ヶ年)	飼料用米扱い量 148t → 300t	担当部署 米穀課

【各年度の行動計画】



重点実施事項 ②

麦類の作付拡大と 施肥改善による 品質・収量性向上



具体的方策

- ・ JAアグリ岡山、グリーンファーム岡山との連携による麦類の作付面積拡大
- ・ 適正な施肥指導を行うための土壌診断の実施（各地域）
- ・ 排水対策や土壌改良材投入による麦作の適地化
- ・ 麦類の高品質・多収性に向けた基肥一発型肥料の改良試験の実施

数値目標等
(3ヶ年)

作付面積(JA岡山管内作付面積)
小麦 / 480ha → 600ha
二条大麦 / 1,820ha → 2,000ha

担当部署
米穀課
指導課

【各年度の行動計画】

28年度

- 麦類収支試算表の作成と麦類作付説明会、栽培講習会等の実施
- 基肥一発型肥料の実証試験(3カ所)

29年度

- 麦類収支試算表の作成と麦類作付説明会、栽培講習会等の実施(継続)
- 基肥一発型肥料の実証試験(3カ所)(継続)

30年度

- 麦類収支試算表の作成と麦類作付説明会、栽培講習会等の実施(継続)
- 基肥一発型肥料の実証試験(3カ所)(継続)

重点実施事項 ③

和牛繁殖経営の 安定



具体的方策

各関係機関との連携による子牛の生産技術向上と「おかやま四ツ☆子牛」の出荷頭数増大(四ツ☆子牛出荷の現状:H27.実績138頭出荷中16頭)

数値目標等
(3ヶ年)

おかやま四ツ☆子牛の出荷頭数
16頭 → 30頭(30年度)(出荷率11.6% → 21.7%)

担当部署
米穀課

【各年度の行動計画】

28年度

- 「おかやま四ツ☆子牛育成マニュアル」に基づく飼養管理技術指導
- イネWCSの繁殖牛への給与推進

29年度

- 「おかやま四ツ☆子牛育成マニュアル」に基づく飼養管理技術指導(継続)
- イネWCSの繁殖牛への給与推進(継続)

30年度

- 「おかやま四ツ☆子牛育成マニュアル」に基づく飼養管理技術指導(継続)
- イネWCSの繁殖牛への給与推進(継続)

重点実施事項 ④

JA岡山園芸重点振興品目の生産振興並びに契約野菜(契約加工・業務用向け含む)の生産面積拡大



具体的方策

- ・夏秋なすの産地化と生産面積拡大
- ・収穫支援隊の利用促進による重量野菜(はくさい・キャベツ)の生産面積拡大
- ・水田フル活用及び備南育苗施設の利用促進による契約野菜(レタス・キャベツ・はくさい等)の作付推進

数値目標等(3ヶ年)

夏秋なす / 3.6ha→5.6ha
 はくさい / 61.6ha→66.6ha
 ミニ白菜 / 1ha→3ha
 キャベツ / 77.9ha→87.9ha
 非結球レタス / 3.7ha→6.7ha
 レタス / 38.1ha→42.1ha
 カリフラワー / 1.6ha→5.6ha
 ブロッコリー / 17.5ha→21.5ha
 タマネギ / 22.3ha→26.3ha
 アスパラガス / 3.6ha→5.6ha
 スナップエンドウ / 0.5ha→2.5ha
 その他野菜 / 8ha→16ha
 計50haの面積拡大

担当部署

園芸課
指導課

【各年度の行動計画】

28年度

- 品目別収支試算表の作成
- 広報誌等を活用し、新規栽培者の募集
- 新規栽培者圃場を用いて現地見学会並びに新規栽培候補者向け栽培講習会の開催
- 対象地区・品目の選定と集中推進
- 備南育苗施設における契約野菜苗の生産供給と収穫支援隊の有効活用により栽培面積の確保
- 農作業支援策の検討
- JA所有作業機械の利用実態調査
- 地下水位制御システム「FOEAS」の展示圃の設置

29年度

- 広報誌等を活用し、新規栽培者の募集(継続)
- 新規栽培者圃場を用いて現地見学会並びに新規栽培候補者向け栽培講習会の開催(継続)
- 対象地区・品目の選定と集中推進(継続)。
- 備南育苗施設における契約野菜苗の生産供給と収穫支援隊の有効活用による栽培面積の確保(継続)
- 定植機械・出荷コンテナの導入検討
- 農作業支援策の確立
- JA所有作業機械の利用拡大
- 地下水位制御システム「FOEAS」の展示圃の実地検証

30年度

- 新規栽培者圃場を用いて現地見学会並びに新規栽培者向けの栽培講習会を開催(継続)
- 備南育苗施設における契約野菜苗の生産供給と収穫支援隊の有効活用による栽培面積の確保。(継続)
- 定植機械・出荷コンテナの導入
- 農作業支援策の確立(継続)
- JA所有作業機械の利用拡大(継続)
- 地下水位制御システム「FOEAS」の推進・導入



重点実施事項 ⑥

施設花卉並びに露地花卉の生産振興

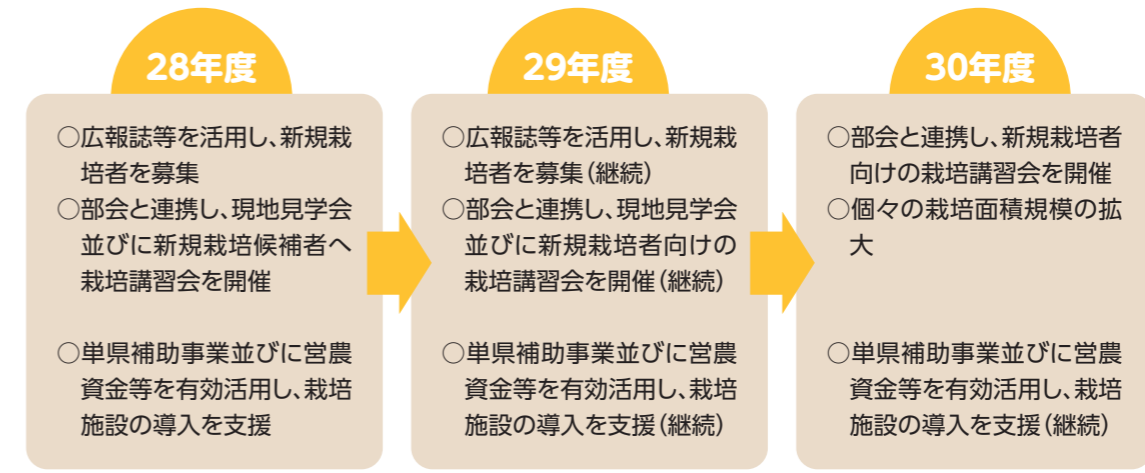


具体的方策

- ・施設花卉「ブプレウラム」、「スイートピー」の産地規模の維持・拡大
- ・露地花卉「小菊」の産地規模の維持・拡大
- ・新規品目「おかやまオリジナルりんどう」、「切り花葉ボタン」の生産拡大並びに産地化
- ・各生産部会への加入推進

数値目標等 (3ヶ年)	施設花卉 / 3.5ha→4.5ha	担当部署 園芸課 指導課
	露地花卉 / 1.6ha→4.6ha 計 4ha の面積拡大	

【各年度の行動計画】



重点実施事項 ⑤

もも、ぶどうの生産規模の維持・拡大及びおかやま次世代フルーツの生産振興

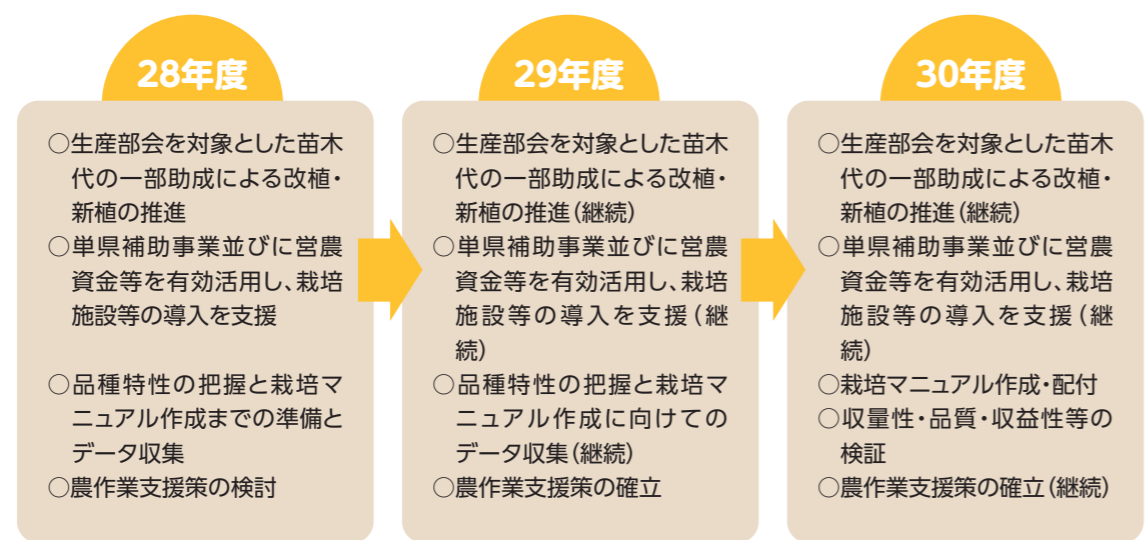


具体的方策

- ・もも「清水白桃」の改植推進
- ・ぶどう「ピオーネ」の改植推進
- ・おかやま次世代フルーツ「おかやま夢白桃」、「シャインマスカット」、「オーロラブラック」、「紫苑」の作付推進並びに高品質安定生産に向けた栽培技術の確立
- ・ももの晩生品種の計画的導入並びに長期安定出荷の確立
- ・なし晩生品種の安定生産

数値目標等 (3ヶ年)	清水白桃(改・新) / 58.8ha→74.8ha	担当部署 園芸課 指導課
	おかやま夢白桃(新) / 10.9ha→12.9ha	
	桃:岡山 PEH7号 8ha(新)	
	桃:岡山 PEH8号 2ha(新)	
	ピオーネ(改・新) / 54.5ha→62.5ha	
	シャインマスカット(新) / 7.1ha→15.1ha	
	オーロラブラック(新) / 6.0ha→8.0ha	
	紫苑(新) / 1.2ha→2.2ha	
	なし / 31ha→33ha	
	計 49ha の新改植	

【各年度の行動計画】



重点実施事項 ⑦

JAの生産拡大支援対策

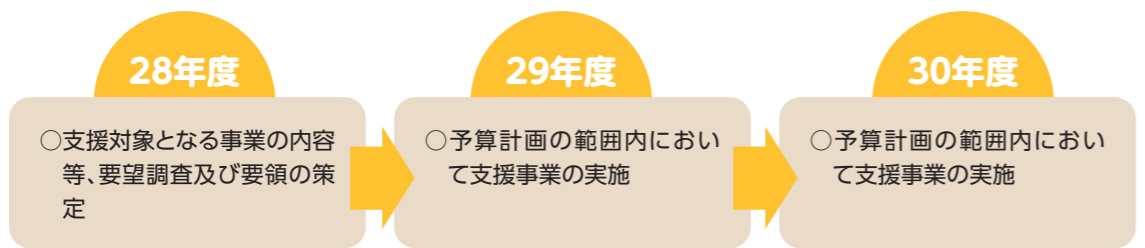


具体的方策——1

「農業生産拡大支援事業」の創設による、生産規模拡大や新規作物導入にかかる農家の負担軽減

数値目標等 (3ヶ年)	支援対象先／100経営体	担当部署 指導課 園芸課 米穀課
----------------	--------------	---------------------------

【各年度の行動計画】

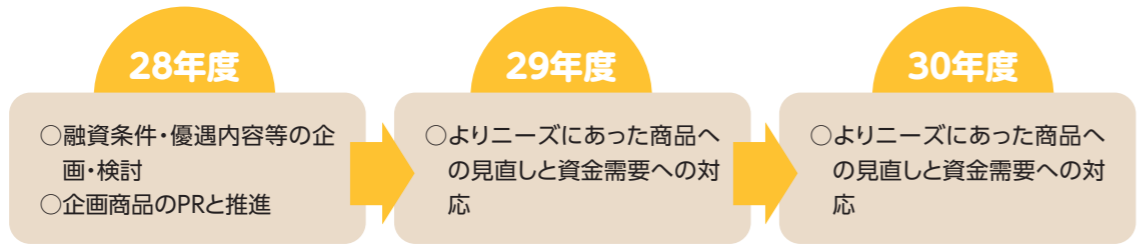


具体的方策——2

農業者が利用しやすい融資条件・優遇措置による農業関連融資商品の企画・推進と設備投資などのニーズにあった資金需要への対応

数値目標等 (3ヶ年)	利用者／50経営体	担当部署 信用課 指導課 営業課
----------------	-----------	---------------------------

【各年度の行動計画】



基本方針 - ②



意欲ある担い手の確保・育成

総合事業体としてJAの強みを活かした事業展開により、農家の後継ぎを含めた就農希望者への就農支援に取り組むとともに、農地集積や経営の複合化など担い手経営体への支援や事業提案を積極的に行い、意欲ある担い手の確保・育成に取り組みます。

重点実施事項 ①

新規栽培者の育成と生産部会員の確保

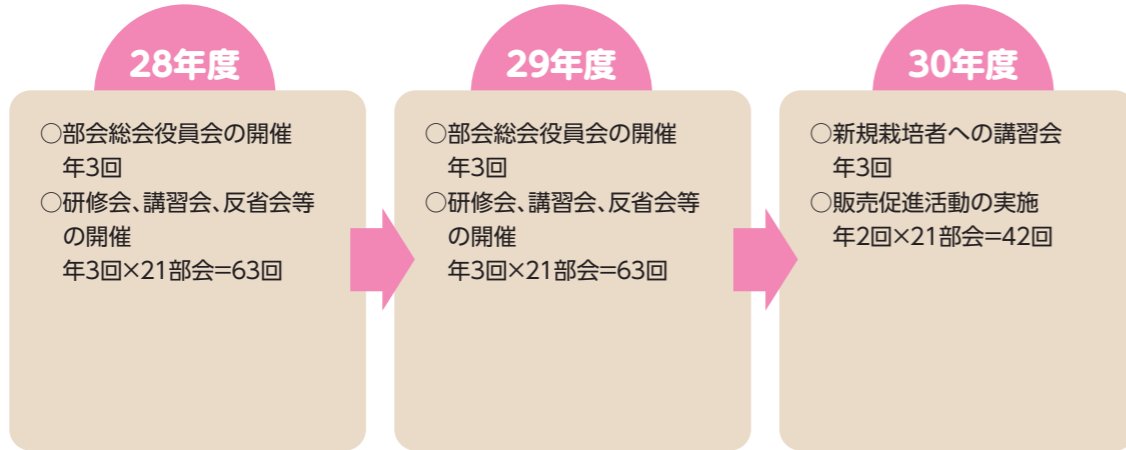


具体的方策——1

JA部会活動の活性化
生産部会、青壮年部、女性部会員を増やすための声掛け運動や市場に向けた産地のPR活動（ノボリ等を作成し、部会や産地の連帯強化・機運の向上）

数値目標等 (3ヶ年)	モデル部会数／21部会(各営農センター3部会)	担当部署 指導課
----------------	-------------------------	-------------

【各年度の行動計画】



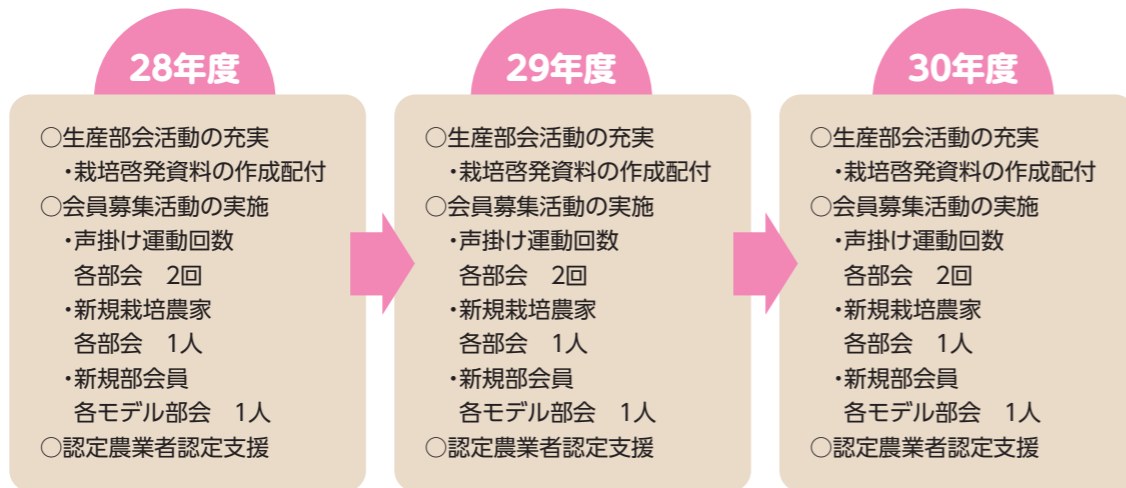
具体的方策—2

JA生産部会と連携し、会員確保のための活動を展開し、新規栽培者の確保

数値目標等 (3ヶ年) 新規栽培者 / 150名
 新規部会員 / 63名

担当部署
園芸課 指導課

【各年度の行動計画】



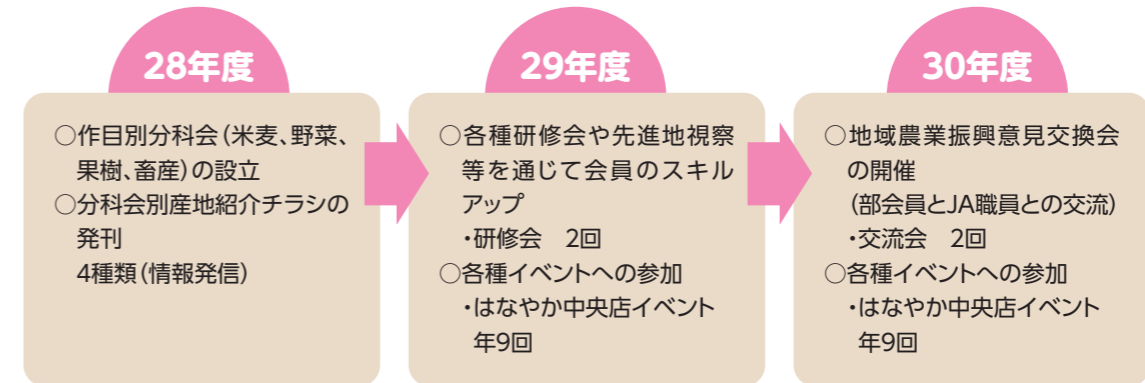
具体的方策—3

JA岡山青壮年部作目別分科会の設立と各種研修会やイベントの開催による部会員の拡大と活動の活性化

数値目標等 (3ヶ年) 新規部会員 / 30名 (現会員148名)

担当部署
指導課

【各年度の行動計画】



具体的方策—4

野菜や果樹の農業塾（実習と座学を交えた講座）の拡充による、生産部会員や直売所出荷者の確保

数値目標等
（3ヶ年）

農業塾参加者／180名（野菜、果樹各90名）

担当部署
指導課

【各年度の行動計画】

28年度

- 野菜、果樹の農業塾の開催（退職者、就農希望者向け）
・塾生 各30名

29年度

- 野菜、果樹の農業塾の開催（退職者、就農希望者向け）
・塾生 各30名
- 就農相談

30年度

- 野菜、果樹の農業塾の開催（退職者、就農希望者向け）
・塾生 各30名
- 就農相談

重点実施事項 ②

新規就農者の育成



具体的方策

関係機関と連携し、野菜や果樹の就農相談や就農研修の充実、就農支援体制の整備等を行い、農家の後継ぎを含めた就農希望者の円滑な就農支援

数値目標等
（3ヶ年）

農家体験研修生／5人
体制整備組織数／3組織

担当部署
指導課

【各年度の行動計画】

28年度

- 県や市との連携による相談会への参加や研修指導の実施
・年1人
- 生産組織や行政と連携し、農家の意向や農地情報を把握
・実態調査

29年度

- 県や市との連携による相談会への参加や研修指導の実施
・年2人
- 生産組織や行政と連携し、受入体制を整備
・1組織

30年度

- 県や市との連携による相談会への参加や研修指導の実施
・年2人
- 生産組織や行政と連携し、受入体制を整備
・2組織



重点実施事項 ③

集落営農組織の育成



具体的方策

集落営農組織の育成と設立

数値目標等
(3ヶ年)

新規集落営農組織/5組織
新規品目導入組織/4組織

担当部署
指導課

【各年度の行動計画】

28年度

- 新規集落の掘起こしと巡回の実施
 - ・候補集落 3集落 (実態調査)
- 既存集落の活動活性化
 - ・リーダー研修会への参加 5組織

29年度

- 集落営農組織の設立
 - ・新規集落営農組織 2組織
- 既存集落の生産性向上
 - ・新規園芸品目の導入 2組織
- 鳥獣害対策の推進

30年度

- 集落営農組織の設立
 - ・新規集落営農組織 3組織
- 既存集落の生産性向上
 - ・新規園芸品目の導入 2組織
- 鳥獣害対策の推進



基本方針 - ③



販売戦略の強化

専任担当者設置をはじめ販売体制の機能強化に取り組みながら、新たな販売流通経路の拡大を図り、農畜産物販売高123億円の目標達成を目指します。

重点実施事項 ①

農畜産物販売高123億円の達成



具体的方策

品目ごとに掲げた具体的方策に基づき農畜産物販売高拡大

数値目標等
(3ヶ年)

米麦4,247百万円
野菜4,198百万円
果実1,625百万円
花卉 224百万円
その他2,006百万円

担当部署
営農部
営農センター

【各年度の行動計画】

28年度

米 麦 4,113百万円
野 菜 3,698百万円
果 実 1,575百万円
花 卉 174百万円
そ の 他 1,955百万円

29年度

米 麦 4,219百万円
野 菜 3,838百万円
果 実 1,595百万円
花 卉 184百万円
そ の 他 1,962百万円

30年度

米 麦 4,247百万円
野 菜 4,198百万円
果 実 1,625百万円
花 卉 224百万円
そ の 他 2,006百万円

重点実施事項 ②

米直販体制の確立、 酒米・飼料用米等への 的確な対応



具体的方策

- ・用途に応じた実需先への直接販売の拡大
- ・需要に応じた適正な品種への集約
- ・市場で販売されている商品紹介等、流通の明確化による、生産意欲の高揚とJA出荷率の向上

数値目標等
(3ヶ年)

直接販売40%→50%

担当部署
米穀課

【各年度の行動計画】

28年度

- 米販売専任担当者の設置
- 米PRパンフレットの作成
- 実需者への訪問営業活動
- 栽培講習会等において、販売先、販売商品の紹介と需要に応じた品種の作付推進

29年度

- 米販売専任担当者による実需者への訪問営業活動(継続)
- 栽培講習会等において、販売先、販売商品の紹介と需要に応じた品種の作付推進(継続)

30年度

- 米販売専任担当者による実需者への訪問営業活動(継続)
- 栽培講習会等において、販売先、販売商品の紹介と需要に応じた品種の作付推進(継続)

重点実施事項 ③

園芸主要品目の出荷市場の 集約と関東・関西圏市場への 販路拡大



具体的方策

- ・主要園芸品目の市場集約による出荷ロットの確保とパートナー市場との販売強化
- ・桃・ぶどうの輸出向けの販路拡大(市場経由)
- ・岡山白桃の関東圏市場への安定供給と販路拡大
- ・シャインマスカット「晴王」の出荷品質の高位平準化と関東・関西圏市場へ安定供給と販路拡大

数値目標等
(3ヶ年)

抜本的な市場集約:野菜・果実全体で3割程度の集約
輸出向け出荷:全出荷量の1割
岡山白桃(関東圏市場):全出荷量の3割
シャインマスカット(関東・関西圏市場):全出荷量の4割

担当部署
園芸課

【各年度の行動計画】

28年度

- 主要品目の出荷市場と販売情勢の情報収集と分析
- 関東・関西圏市場への営業活動・販売対策会議の開催(野菜・果実)
- 岡山白桃の新規ギフト需要の販路拡大並びにシャインマスカット「晴王」の関東・関西圏市場への営業活動(ギフト商談等)

29年度

- 主要品目の出荷市場と販売情勢の情報収集と分析(継続)
- 関東・関西圏市場への営業活動・販売対策会議の開催(野菜・果実)(継続)
- 岡山白桃の新規ギフト需要の販路拡大並びにシャインマスカット「晴王」の関東・関西圏市場への営業活動(ギフト商談等)(継続)

30年度

- 主要品目の出荷市場と販売情勢の情報収集と分析(継続)
- 関東・関西圏市場への営業活動・販売対策会議の開催(野菜・果実)(継続)
- 岡山白桃の新規ギフト需要の販路拡大並びにシャインマスカット「晴王」の関東・関西圏市場への営業活動(ギフト商談等)(継続)



販売体制の機能強化並びに 多様化する販売流通経路 への対応

具体的方策

- 本所における園芸販売専任担当者の養成並びに営農センターの園芸販売担当者のスキルアップ
- 主要園芸品目のスケールメリットを活かした販売機能の強化
- 主要品目の産地概況、生産販売状況等の情報収集・分析による販売方針の明確化
- 市場との産地情報の共有に向けた体制づくり

数値目標等
(3ヶ年)

販売専任担当者の養成: 2名(野菜1名、果樹・花卉1名)

担当部署

園芸課
営農センター

【各年度の行動計画】

28年度

- 営農センター販売担当職員向け主要品目別販売対会議の開催
- 園芸販売専任担当者の配置(野菜1名、果樹・花卉1名)
- 主要品目の産地概況、生産販売状況等の情報収集と分析
- パートナー市場への定期的な情報発信(本所→市場)

29年度

- 営農センター販売担当職員向け主要品目別販売対会議の開催(継続)
- 主要品目の産地概況、生産販売状況等の分析結果のもと販売方針(案)の作成
- パートナー市場への定期的な情報発信(本所→市場)(継続)

30年度

- 営農センター販売担当職員向け主要品目別販売対会議の開催(継続)
- 関係営農センター・産地との協議を行い、販売方針を決定・周知
- パートナー市場への定期的な情報発信(本所→市場)(継続)



岡山ブランド力の強化

具体的方策

地産地消並びに大消費地での園芸主要品目の販促PR活動の強化

数値目標等
(3ヶ年)

販売促進イベント開催

岡山: 20回/年
関東: 3回/年
関西: 2回/年

担当部署

園芸課
直売課

【各年度の行動計画】

28年度

- 岡山: 13回/年開催(量販店・はなやか中央店等)(1部会1品目)
- 関東: 2回/年開催(関東市場出荷品目:百貨店・アンテナショップ等)
- 関西: 1回/年開催(関西市場出荷品目:量販店等)

29年度

- 岡山: 15回/年開催(量販店・はなやか中央店等)(1部会1品目)
- 関東: 2回/年開催(関東市場出荷品目:百貨店・アンテナショップ等)
- 関西: 1回/年開催(関西市場出荷品目:量販店等)

30年度

- 岡山: 20回/年開催(量販店・はなやか中央店等)(1部会1品目)
- 関東: 3回/年開催(関東市場出荷品目:百貨店・アンテナショップ等)
- 関西: 2回/年開催(関西市場出荷品目:量販店等)

重点実施事項 ⑥

青果物の1次加工品の開発と販売



具体的方策

果実（もも・ぶどう・レモン等）の1次加工品の開発と販売先の確保

数値目標等
(3ヶ年)

商品アイテム数/5品目

担当部署

園芸課
直売課

【各年度の行動計画】

28年度

- 品目の選定
- 加工業者の選定と商品開発に向けた企画提案と販売先の検討
- 商品開発に向けた試作品の検討
- 1次加工品の販売先への営業活動(商談等)

29年度

- 品目の選定(継続)
- 加工業者の選定と商品開発に向けた企画提案と販売先の検討(継続)
- 商品開発に向けた試作品の検討(継続)
- 1次加工品の販売先への営業活動による販路拡大(継続)

30年度

- 品目の選定(継続)
- 加工業者の選定と商品開発に向けた企画提案と販売先の確保
- 商品開発に向けた試作品の開発
- 1次加工品の販売先への営業活動による販路拡大(継続)



重点実施事項 ⑦

販売流通経路多様化への対応



具体的方策—1

インターネット販売システムの構築による、販路拡大と販売高向上

数値目標等
(3ヶ年)

販売高1,000万円

担当部署

直売課

【各年度の行動計画】

28年度

- インターネット販売・ギフト販売を中心に展開(桃・ぶどう・野菜等) 年間販売高 500万円

29年度

- インターネット販売・ギフト販売を中心に展開(桃・ぶどう・野菜等) 年間販売高 700万円

30年度

- インターネット販売・ギフト販売を中心に展開(桃・ぶどう・野菜等) 年間販売高 1,000万円

具体的方策—2

学校給食等への営業活動による販路拡大と地産地消の推進

数値目標等
(3ヶ年)

新規契約6件

担当部署

直売課

【各年度の行動計画】

28年度

- 行政や関係機関と連携を取り新規取引先の拡大・新規契約2件

29年度

- 行政や関係機関と連携を取り新規取引先の拡大・新規契約2件

30年度

- 行政や関係機関と連携を取り新規取引先の拡大・新規契約2件

具体的方策—3

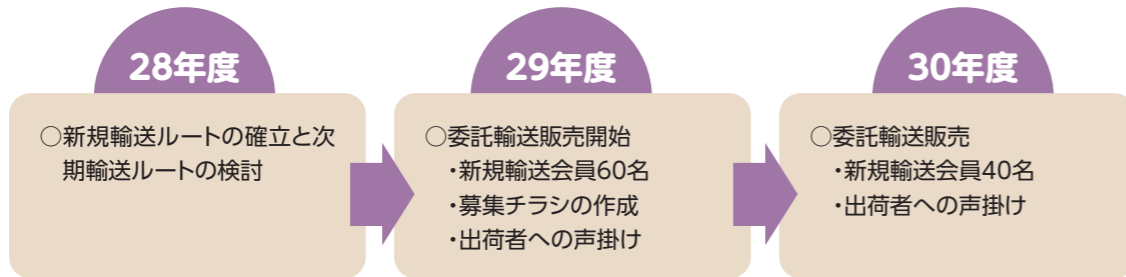
委託輸送ルートの拡充による直売所の品揃えの充実と販売高拡大

数値目標等
(3ヶ年)

新規委託輸送会員／100名

担当部署
直売課

【各年度の行動計画】



重点実施事項 8

JA 岡山農産物直売所の有効活用



具体的方策—1

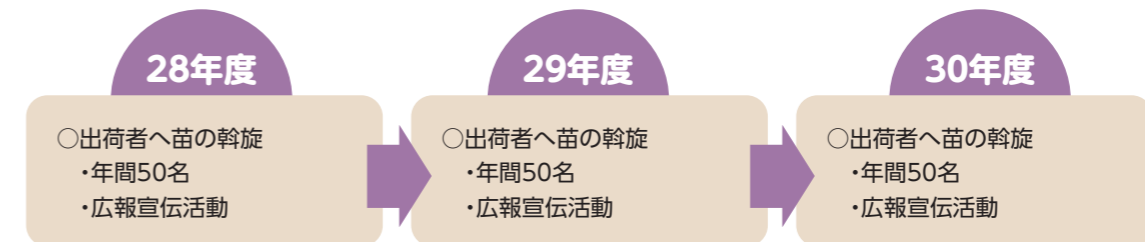
栽培講習会の開催・苗の斡旋・広報宣伝活動等による新規出荷者の確保

数値目標等
(3ヶ年)

新規出荷者150名の確保

担当部署
直売課

【各年度の行動計画】



具体的方策—2

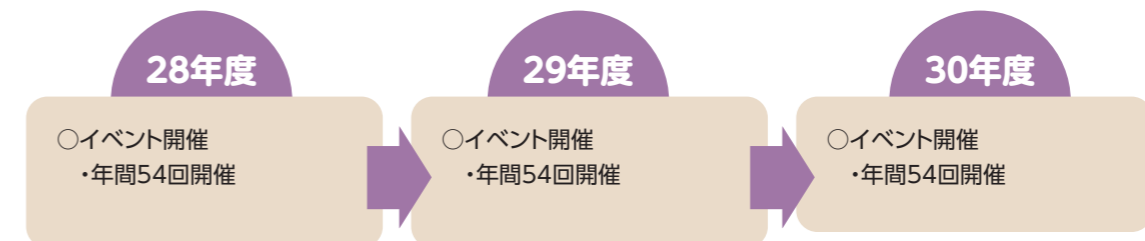
記念イベント等の開催による集客および販売高の向上

数値目標等
(3ヶ年)

イベント開催162回

担当部署
直売課

【各年度の行動計画】



具体的方策—3

出荷会員への「10a・100万円・周年出荷運動」の推進
〔推奨品目〕

トマト（大玉・中玉・ミニトマト）、ほうれん草、きゅうり、ネギ、茄子、ブロッコリー、タマネギ、大根、小松菜

数値目標等
（3ヶ年）

栽培講習会の開催／36回
農産物直売所年間販売所得100万円以上／100名

担当部署
指導課

【各年度の行動計画】

28年度

- 推奨品目の栽培講習会開催
・年間12回開催
- 農産物直売所年間販売高100万円以上
・年間30名

29年度

- 推奨品目の栽培講習会開催
・年間12回開催
- 農産物直売所年間販売高100万円以上
・年間30名

30年度

- 推奨品目の栽培講習会開催
・年間12回開催
- 農産物直売所年間販売高100万円以上
・年間40名

具体的方策—4

出荷農産物引取り品の有効活用方法の検討（はなやか中央店）

数値目標等
（3ヶ年）

引取り品の50%を販売

担当部署
直売課

【各年度の行動計画】

28年度

- 引取り品の実態調査・現状把握
- 引取り品の買取り方法・業者への販売方法の確立
- 買取り業者の選定

29年度

- 引取り品の買取り・業者への販売開始
・広報宣伝活動

30年度

- 引取り品の買取り・業者への販売の検証

具体的方策—5

直売所全店へレシピ配置による旬野菜の調理方法・食べ方等の情報発信

数値目標等
（3ヶ年）

農産物直売所へレシピの配置／100品目

担当部署
直売課

【各年度の行動計画】

28年度

- レシピ作成
・レシピ作成資料収集・品目選定
・農産物直売所全店舗へレシピの配置 年間60品目

29年度

- レシピ作成
・レシピ作成資料収集・品目選定
・農産物直売所全店舗へレシピの配置 年間20品目

30年度

- レシピ作成
・レシピ作成資料収集・品目選定
・農産物直売所全店舗へレシピの配置 年間20品目


重点実施事項

9

農産物の安全安心について



具体的方策

- ・栽培管理日誌の記帳・回収・確認の徹底・指導
- ・米のDNA分析および農産物の残留農薬検査の実施
- ・マーク青果物の残留農薬自主検査率の向上
- ・直売所出荷会員の栽培管理日誌確認、残留農薬検査の実施

数値目標等
(3ヶ年)

<米>
栽培管理日誌の回収 100%
DNA分析26点→44点
残留農薬検査21点→56点

<園芸品目>
栽培管理日誌の記帳・回収率100%(継続実施)
生産部会の残留農薬自主検査実施率100%

<直売所>
栽培管理日誌の確認6回
残留農薬検査72品目

担当部署

米穀課
指導課
園芸課
直売課

【各年度の行動計画】

28年度

- 米出荷契約書の配付と同時に栽培管理日誌を配布し、米検査申込時、大型共同乾燥調製施設への搬入時に回収
- 栽培講習会において栽培管理日誌の記帳と提出を促す
- 実需者ニーズの説明を行い栽培管理日誌の回収の徹底
- OCR導入に向けた検討
- 大型共同乾燥調製施設ごとに扱い品種のDNA分析を実施
- 検査場毎(施設を除く)に主要品種の残留農薬検査の実施
- JA岡山園芸生産組織運営協議会活動を通じて栽培管理日誌の記帳・回収の徹底
- 残留農薬自主検査の未実施部会への指導
- 栽培管理日誌の確認 年2回
- 残留農薬検査 年24品目

29年度

- 米出荷契約書の配付と同時に栽培管理日誌を配布し、米検査申込時、大型共同乾燥調製施設への搬入時に回収(継続)
- 栽培講習会において栽培管理日誌の記帳と提出を促す(継続)
- 実需者ニーズの説明を行い栽培管理日誌の回収の徹底(継続)
- OCR導入に向けた検討(継続)
- 大型共同乾燥調製施設ごとに扱い品種のDNA分析を実施(継続)
- 検査場毎(施設を除く)に主要品種の残留農薬検査の実施(継続)
- JA岡山園芸生産組織運営協議会活動を通じて栽培管理日誌の記帳・回収の徹底(継続)
- 残留農薬自主検査の未実施部会への指導(継続)
- 栽培管理日誌の確認 年2回
- 残留農薬検査 年24品目

30年度

- 米出荷契約書の配付と同時に栽培管理日誌を配布し、米検査申込時、大型共同乾燥調製施設への搬入時に回収(継続)
- 栽培講習会において栽培管理日誌の記帳と提出を促す(継続)
- 実需者ニーズの説明を行い栽培管理日誌の回収の徹底(継続)
- OCRの導入
- 大型共同乾燥調製施設ごとに扱い品種のDNA分析を実施(継続)
- 検査場毎(施設を除く)に主要品種の残留農薬検査の実施(継続)
- JA岡山園芸生産組織運営協議会活動を通じて栽培管理日誌の記帳・回収の徹底(継続)
- 残留農薬自主検査の未実施部会への指導(継続)
- 栽培管理日誌の確認 年2回
- 残留農薬検査 年24品目

基本方針-④



営農指導体制の充実

農家組合員のニーズに応える活動を実践するため、営農指導員の配置・拡充とあわせ、人材育成をすすめ、担い手経営体の経営発展を支え、組合員満足度の向上と事業利用の拡大を目指します。

重点実施事項 ①

営農指導体制の見直し



具体的方策—1

本所および営農センターの営農指導体制の見直しと専任担当者の配置・拡充

数値目標等
(3ヶ年)

指導課8名
営農センター21名(3名×7センター)

担当部署

人事部
営農部
営農センター

【各年度の行動計画】

28年度

- 活動方針・要領の制定
- 指導課配置指導員の拡充
- 営農センターへ作目別指導員の配置

29年度

- 活動内容の検証
- 配置要員の検証
- 適正な人事ローテーションの実施

30年度

- 活動内容の検証
- 配置要員の検証
- 適正な人事ローテーションの実施

具体的方策—2

地域営農振興並びに営農指導に特化した活動の実践と検証

数値目標等
(3ヶ年)

業務時間の50%以上

担当部署
指導課
営農センター

【各年度の行動計画】

28年度

- 活動計画の策定および管理・運営
- 活動実績のとりまとめ、報告および検証

29年度

- 活動計画の見直しと管理・運営
- 活動実績のとりまとめ、報告および検証

30年度

- 活動計画の見直しと管理・運営
- 活動実績のとりまとめ、報告および検証

具体的方策—3

JAグループ岡山担い手サポートセンターとの連携による経営改善指導体制の確立

数値目標等
(3ヶ年)

連携会議/年4回

担当部署
指導課
営農センター

【各年度の行動計画】

28年度

- 経営指導方針の作成
- 経営指導計画の策定および管理
- 指導実績のとりまとめ、報告および検証

29年度

- 経営指導計画の策定および管理
- 指導実績のとりまとめ、報告および検証

30年度

- 経営指導計画の策定および管理
- 指導実績のとりまとめ、報告および検証

重点実施事項 ②

営農指導員の育成



具体的方策—1

農家への派遣研修や先輩指導職員による専門技術研修およびOJT(職場内研修)の実施

数値目標等
(3ヶ年)

営農指導員9名(3名×3年)

担当部署
指導課
営農センター

【各年度の行動計画】

28年度

- 指導員研修体系の確立
- 研修受入れ先農家の選定・実習
- カリキュラムによる専門技術研修の開催
- 活動報告会の開催

29年度

- 研修受入れ先農家の選定・実習
- カリキュラムによる専門技術研修の開催
- 活動報告会の開催

30年度

- 研修受入れ先農家の選定・実習
- カリキュラムによる専門技術研修の開催
- 活動報告会の開催



具体的方策—2

各種研修会への参加、資格取得等による専門営農指導員の計画的育成

数値目標等
(3ヶ年)

営農センター指導員のレベルアップ

担当部署

指導課
園芸課
米穀課
直売課

【各年度の行動計画】

28年度

- 関係機関による研修会への優先的参加
- 必要知識習得にかかる資格取得
- 農業金融トレーナー制度への優先的参加
- 先輩指導員による実践指導

29年度

- 関係機関による研修会への優先的参加
- 必要知識習得にかかる資格取得
- 農業金融トレーナー制度への優先的参加
- 先輩指導員による実践指導

30年度

- 関係機関による研修会への優先的参加
- 必要知識習得にかかる資格取得
- 農業金融トレーナー制度への優先的参加
- 先輩指導員による実践指導

具体的方策—3

関係機関との連携による意欲ある担い手育成手法の習得

数値目標等
(3ヶ年)

会議および研修会への参加一人当たり年2回

担当部署

指導課
営農センター

【各年度の行動計画】

28年度

- 備前地域技連担い手部会への参加
- 集落営農推進研修会への参加
- JA青壮年部活動への参加、指導
- その他関係会議、研修会への参加

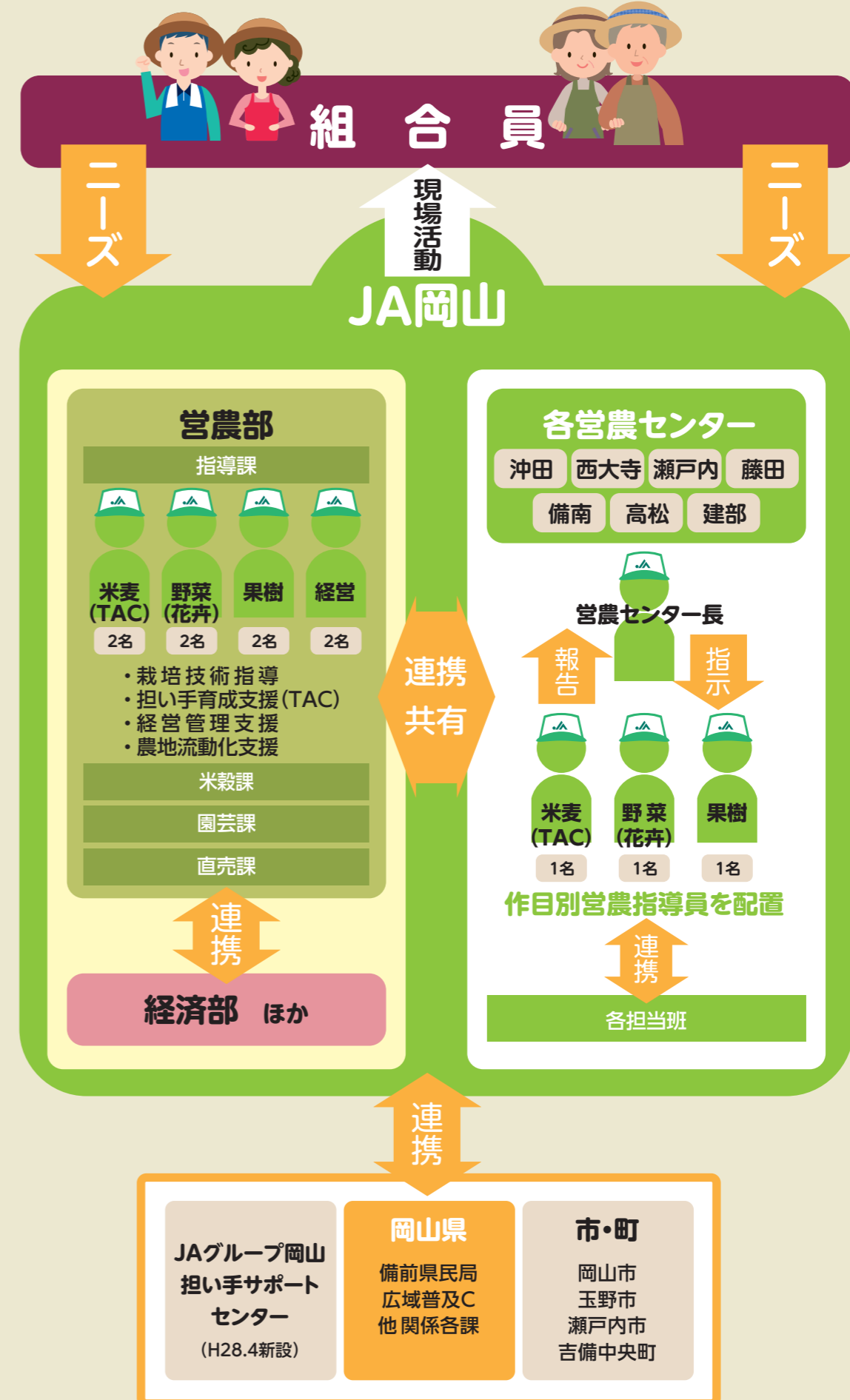
29年度

- 備前地域技連担い手部会への参加
- 集落営農推進研修会への参加
- JA青壮年部活動への参加、指導
- その他関係会議、研修会への参加

30年度

- 備前地域技連担い手部会への参加
- 集落営農推進研修会への参加
- JA青壮年部活動への参加、指導
- その他関係会議、研修会への参加

JA岡山 営農指導体制図



基本方針-⑤



儲かる水田農業の確立 ～水田農業ビジョンの策定と実践～

当JA管内において最も大きな耕作面積を占める水田について、現状の課題や問題点などをふまえ、農家・JA・関係機関が一体的に取り組む方策を「水田農業ビジョン」として取りまとめ、その実践を通じて水田農業の活性化を目指します。

重点実施事項 ①

売れる岡山米の生産と 麦類の生産拡大

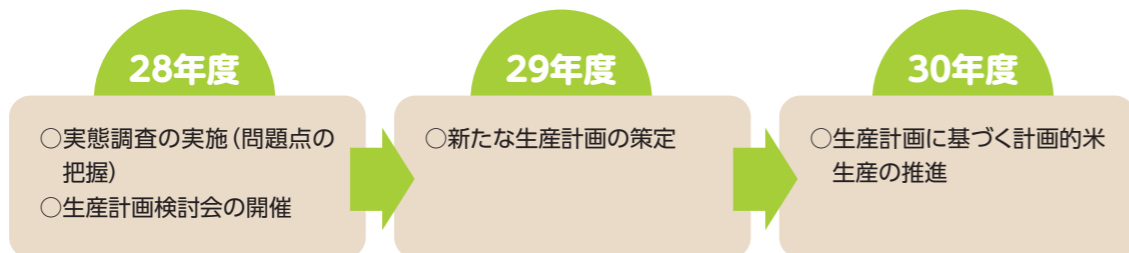


具体的方策—1

米の生産調整見直しに伴う関係機関と連携した生産振興対策の検討

数値目標等 (3ヶ年)	米生産計画の策定	担当部署 米穀課 指導課
----------------	----------	--------------------

【各年度の行動計画】

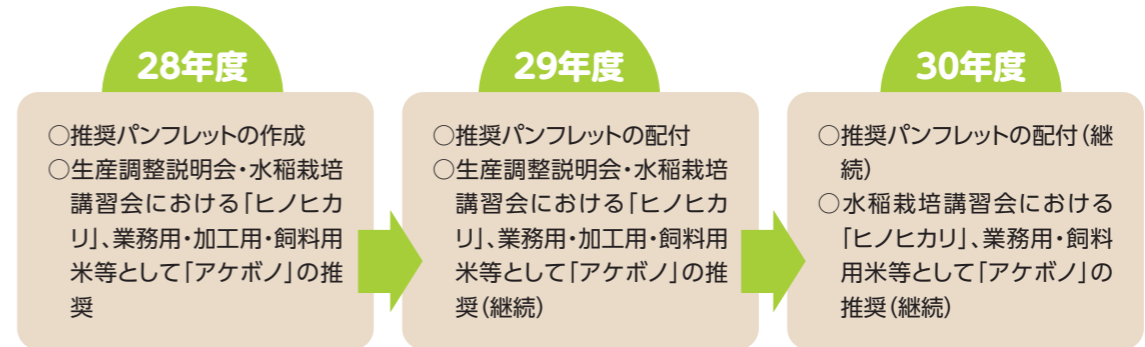


具体的方策—2

主食用米として需要のある「ヒノヒカリ」、業務用・加工用・飼料用米等としても需要のある「アケボノ」の生産拡大

数値目標等 (3ヶ年)	作付面積(JA岡山管内作付面積) ヒノヒカリ/1,946ha→2,350ha アケボノ/3,272ha→3,600ha	担当部署 米穀課 指導課
----------------	---	--------------------

【各年度の行動計画】

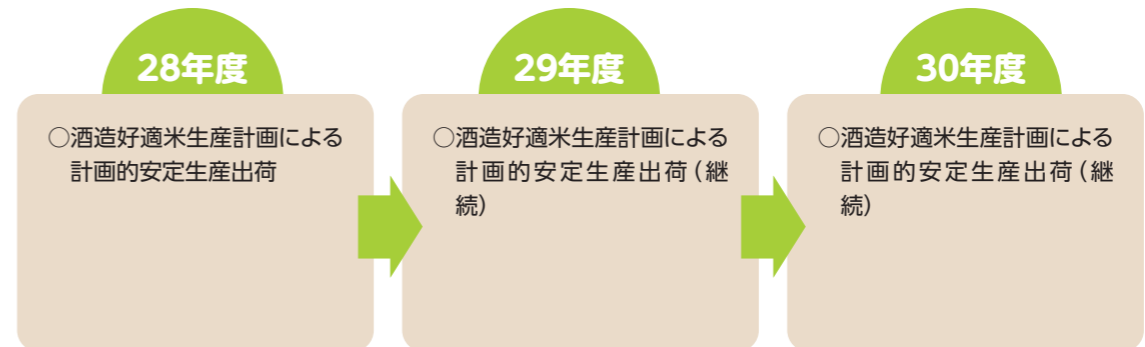


具体的方策—3

需要に応じた酒造好適米の計画的生産と価格維持

数値目標等 (3ヶ年)	雄 町12,000俵 山田錦10,000俵(規格外米を除く)	担当部署 米穀課 指導課
----------------	-----------------------------------	--------------------

【各年度の行動計画】

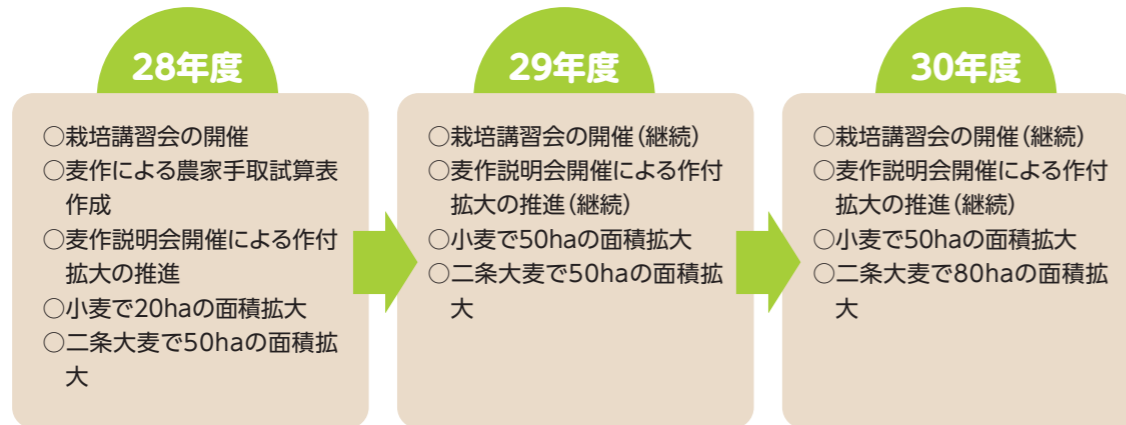


具体的方策——4

- ・小麦：うどん・菓子・味噌などの加工原料としての市場拡大と計画的な作付面積の拡大
- ・二条大麦：粗タンパク含量の改善による品質向上と作付面積の拡大

数値目標等 (3ヶ年)	作付面積(JA岡山管内作付面積)	担当部署
	小麦 / 480ha → 600ha	米穀課
	二条大麦 / 1,820ha → 2,000ha	指導課

【各年度の行動計画】

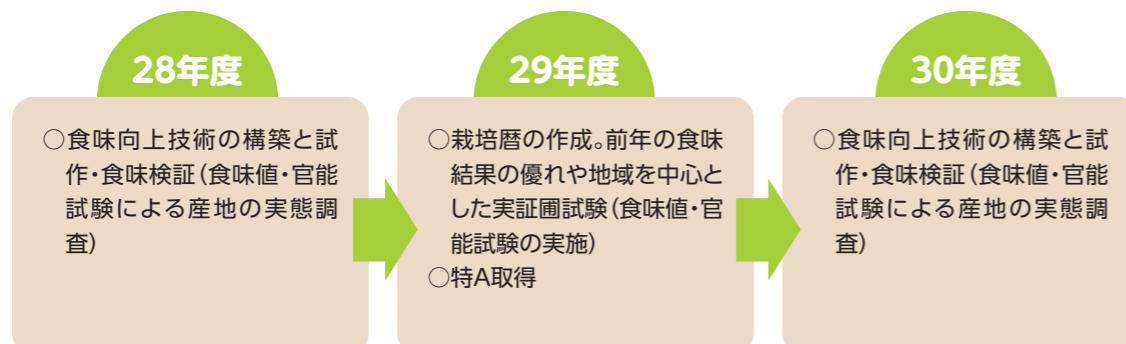


具体的方策——5

主食用米「ヒノヒカリ」の特A獲得に向けた取り組み(ブランド化)

数値目標等 (3ヶ年)	管内10カ所で実証	担当部署
		米穀課
		指導課

【各年度の行動計画】



重点実施事項 ②

経営改善指導と担い手の確保・育成

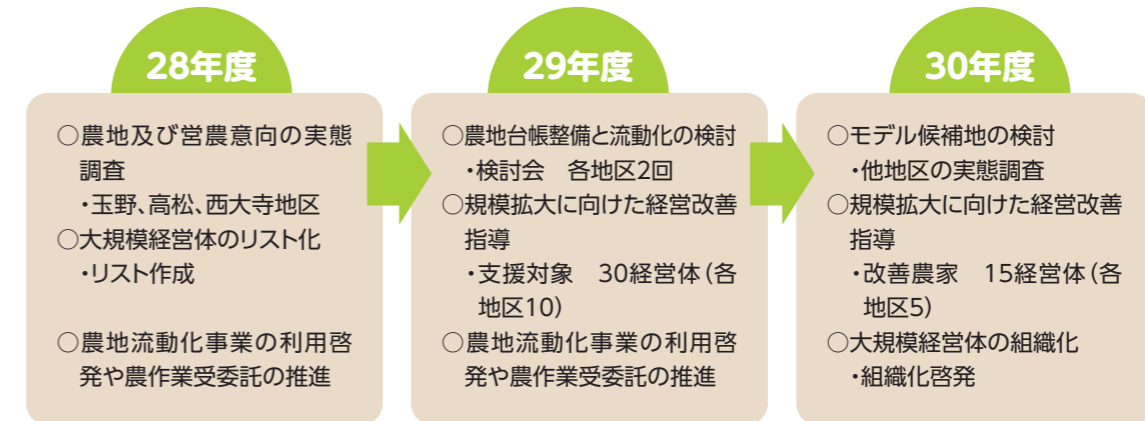


具体的方策——1

農地台帳の整備と農地流動化による大規模水田経営体の育成と組織化(モデル地区対象)

数値目標等 (3ヶ年)	農地台帳整備 / モデル地区3地区	担当部署
	経営改善農家数 / 15経営体	指導課

【各年度の行動計画】



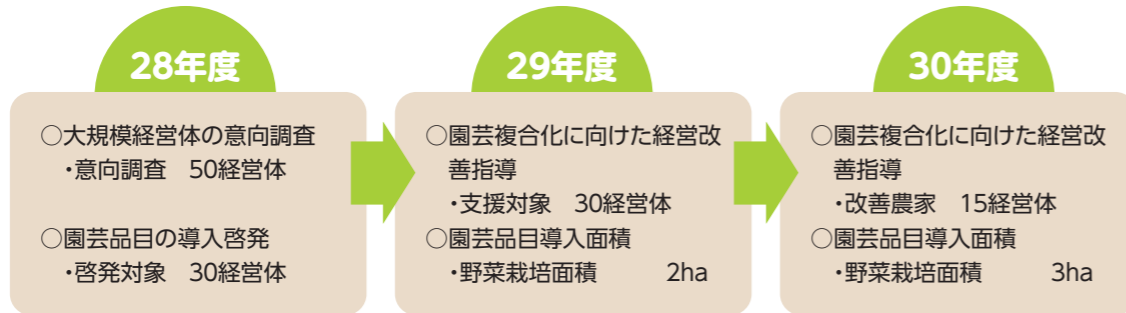
具体的方策—2

大規模水田経営体の露地野菜等による複合経営を支援し、経営基盤の強化による農業所得向上（全域）

数値目標等
（3ヶ年）
複合化経営体数／15経営体
新規野菜栽培面積／5ha

担当部署
指導課

【各年度の行動計画】



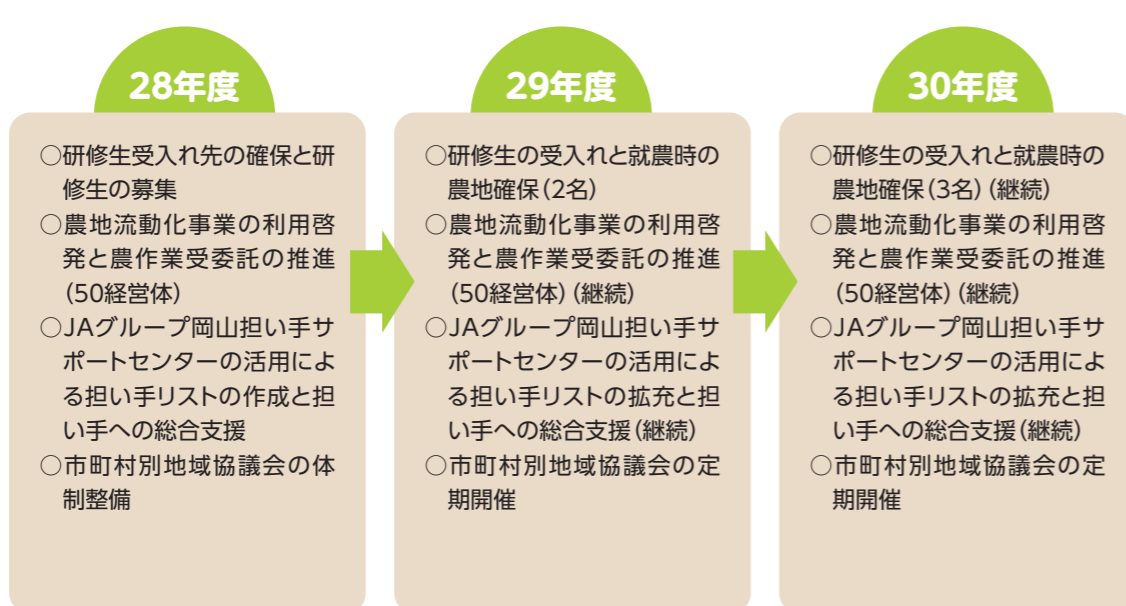
具体的方策—3

- ・関係事業を活用した労働力確保と育成
- ・農地利用集積円滑化事業等を活用した担い手農家への農地集積
- ・各地域協議会における組織活動の活性化

数値目標等
（3ヶ年）
新規就農希望者／5名
農地集積／150経営体

担当部署
指導課

【各年度の行動計画】



水田農業経営モデル

ここでは、農林水産省がH27年3月に「食料・農業・農村基本計画」に示した経営モデルから、JA岡山管内で適用可能と考えられる事例を紹介しています。JA岡山では、今後3年間で農家の経営診断等に基づき、これらモデルの検証を行い、地域色豊かで管内農業に適した経営モデルの確立をすすめてまいります。

1 米麦専作経営

多様な米の導入等による水稻の規模拡大、麦・飼料用米等の収量の高位安定化を図る



経営規模	水田25ha（主食用米15ha、飼料用米5ha、小麦5ha、大豆5ha）		
経営形態	家族経営（家族労働力2名、臨時雇用1名）		
経営収支	農業粗利益 3,130万円	経営費 1,950万円（雇用労賃20万円）	農業所得 = 1,190万円
主たる従事者の労働時間	1,420時間		

2 米麦野菜複合経営

施設園芸の導入により、限られた規模の中で所得の向上を図る



経営規模	水田7.6ha（水稻4.45ha、加工用米3ha、いちご0.15ha）		
経営形態	家族経営（家族労働力2名、臨時雇用1名）		
経営収支	農業粗利益 1,900万円	経営費 960万円（雇用労賃30万円）	農業所得 = 930万円
主たる従事者の労働時間	2,000時間		

3 集落営農組織（中山間地適用）

集落営農の広域化、作業の効率化とともに野菜作や加工・直販などの導入により多角化を図る



経営規模	水田80ha（主食用米45ha、飼料用米等15ha、麦類15ha、大豆15ha、そば・野菜5ha）		
経営形態	集落営農法人経営（構成員63名、うち主たる従事者9名）		
経営収支	農業粗利益 1億4,540万円	経営費 9,770万円	農業所得 = 4,770万円
主たる従事者の労働時間	1,820時間		
米粉パン加工販売売上高	2,640万円		

*数値は一致しない場合があるが、農林水産省提示の値をそのまま引用した。

農作業受委託や 労働支援及び 農地流動化の推進



具体的方策

- ・水田農業の再編や耕作放棄地の発生防止
- ・関係機関との連携による農地利用集積円滑化事業を活用した農地集積
- ・農作業受委託作業部会の設立と作業受委託作業に必要な人材の確保と育成による農作業支援体制の確立

数値目標等
(3ヶ年)

農地利用集積円滑化事業の拡大 / 330ha→380ha
 農作業受委託作業の拡大 / 80ha→100ha
 農作業受委託作業部会 / 2組織20ha
 集落営農組織設立 / 2件

担当部署

指導課
米穀課
園芸課

【各年度の行動計画】

28年度

- 農作業委託の希望農家と地域の担い手との連携強化による農地集積(10ha)
- 農作業受委託部会設立に向けた人材の育成を図る。
- 農作業支援体制の作業メニューの検討と収支試算表の作成
- 労働支援・農作業支援策の検討
- JA所有作業機械の利用実態調査
- 新規集落の掘り起し、相談会の実施

29年度

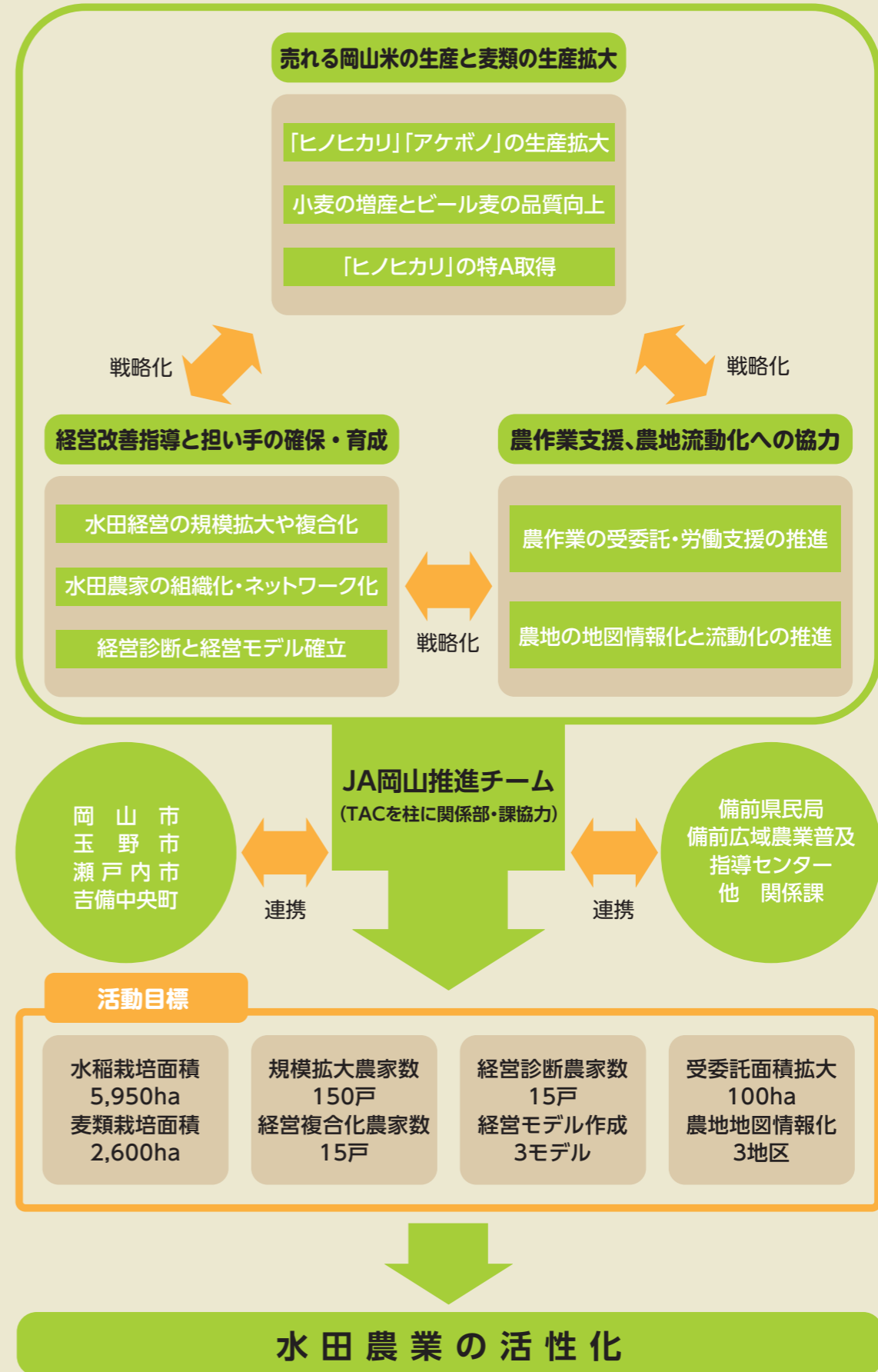
- 農作業委託の希望農家と地域の担い手との連携強化による農地集積(20ha)
- 農作業受委託部会(1組織10ha)
- 農作業支援体制の作業メニューの検討と収支試算表の作成(継続)
- 農作業支援体制の拡充
- 労働支援・農作業支援策の確立
- JA所有作業機械の利用拡大
- 集落営農の設立(1件)

30年度

- 農作業委託の希望農家と地域の担い手との連携強化による農地集積(20ha)
- 農作業受委託部会(1組織10ha)
- 農作業支援体制の作業メニューの検討と収支試算表の作成(継続)
- 農作業支援体制の拡充(継続)
- 労働支援・農作業支援策の確立(継続)
- JA所有作業機械の利用拡大(継続)
- 集落営農の設立(1件)

水田農業ビジョンの課題と進め方

○水田農家・JA・関係機関が一体的に取り組む3つの柱



メモ

VII



営農センター別 営農振興計画と 年次別行動計画

- 1 沖田営農センター
- 2 西大寺営農センター
- 3 瀬戸内営農センター
- 4 藤田営農センター
- 5 備南営農センター
- 6 高松営農センター
- 7 建部営農センター

営農センター 管内図



1 沖田営農センター
住所/岡山市中区桑野 291-6



2 西大寺営農センター
住所/岡山市東区西大寺中野 377-1



3 瀬戸内営農センター
住所/瀬戸内市邑久町豊原 101-1



4 藤田営農センター
住所/岡山市南区藤田 441



5 備南営農センター
住所/岡山市南区北七区 61-1



6 高松営農センター
住所/岡山市北区高松 210-3

資材店



8 西大寺資材店
住所/岡山市東区西大寺中野 377-3



9 備南資材店
住所/岡山市南区北七区 61-1



10 高松資材店
住所/岡山市北区高松 210-3



11 加茂川資材店
住所/加賀郡吉備中央町下加茂 22-1



12 御津資材店
住所/岡山市北区御津金川 345-1



13 鉾立資材店
住所/玉野市北方 529-1

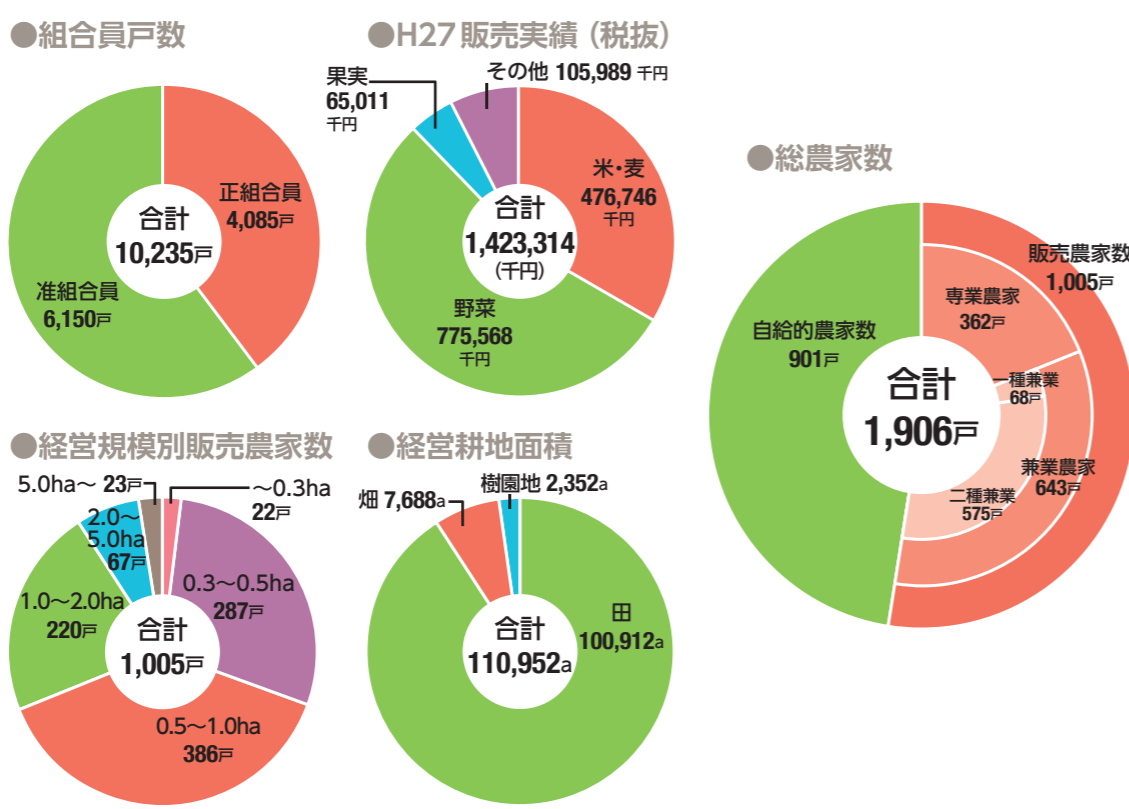


14 興除資材店
住所/岡山市南区中畦 548



沖田 宮農センター

1. センター管内の概況



2. 基本テーマ



岡山市の台所

3. 現状と課題

当センター管内は、岡山市の市街化区域を中心に、南部の干拓地域に広がる穀倉地帯および伝統的な園芸地帯からなるセンターです。市街化区域は、宅地化が進み農業を営むことが難しくなっています。穀倉地帯については、農業者の高齢化による後継者不足。園芸地帯においても、一部後継者育成がすすんでいる地域はあるものの、農業者の高齢化による後継者不足により遊休地が年々増加していることが大きな課題となっています。当センターでは岡山市中心部を管内に持つ点を今後の農業振興の基本とし、「岡山市の台所」をキャッチフレーズに市街地においては、直売所出荷会員の推進、生産性の向上、穀倉地帯においては、大型農家と連携した農地の集約を推進し、園芸地帯においては、労働力減をカバーする加工向け農業、軽量野菜への転換を図り、農業者の所得拡大、農業生産の拡大を進めていきます。

4. 基本方針別 目標と方策

- 1. 農畜産物の生産振興**
 - 生産部会と連携した取組みによる「軽量野菜」の作付面積拡大を図ります。
- 2. 意欲ある担い手の確保育成**
 - 大規模水田農家等との意見交換会開催によるニーズに基づく担い手農家の育成に取り組めます。
 - 新規品目、新規作型、新規販売流通経路等の提案による部会活動の活性化を図ります。
 - 農地利用集積円滑化事業等を活用し、労働力不足の農家から意欲ある担い手への農地集積を図ります。
 - 農産物直売所を利用した出荷会員の育成・拡大を図ります。
- 3. 販売戦略の強化**
 - 加工・業務用向けを含めた多様な販売を展開します。
- 4. 営農指導体制の充実**
 - 本所専任担当との連携による大型農家等への訪問活動の充実及び研究会の実施強化を図ります。
 - 専門営農指導員、販売担当者との連携による圃場巡回の充実及び生産部会会議の実施強化を図ります。
- 5. 儲かる水田農業の確立**
 - 管内遊休農地の調査実施と担い手農家への圃場集約に取り組めます。



5. 重点実施事項と年次別行動計画

重点実施事項 ① 「軽量野菜」の作付面積拡大

●具体的方策
既存部会を活用した栽培講習会、部会検討会の開催

数値目標等 (3ヶ年)	展示圃設置 6カ所	軽量野菜栽培面積 10ha (累計)
-------------	-----------	--------------------

●各年度の行動計画

28年度	29年度	30年度
<ul style="list-style-type: none"> ○軽量野菜の展示圃設置 (3カ所) ○作付面積拡大 (3ha) 	<ul style="list-style-type: none"> ○商談提示品目の展示圃設置 (3カ所) ○作付面積拡大 (3ha) 	<ul style="list-style-type: none"> ○展示圃の栽培時期等を再検討 ○作付面積拡大 (4ha)

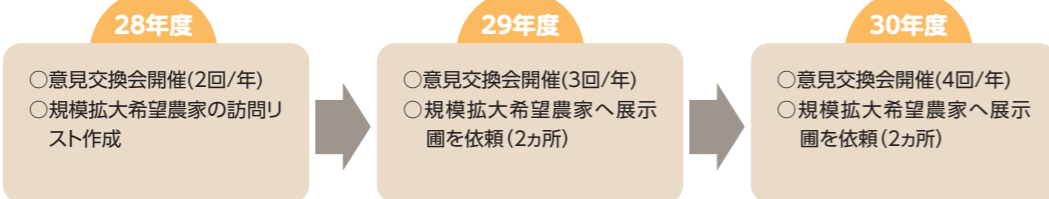
重点実施事項 ② 大規模水田農家の育成

●具体的方策

大規模水田農家との意見交換会の開催

数値目標等 (3ヶ年) 4回/年

●各年度の行動計画

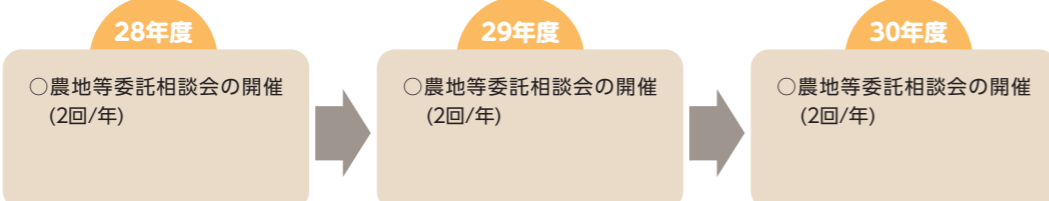


●具体的方策

農地利用集積円滑化事業を活用した相談、締結手続の開催

数値目標等 (3ヶ年) 2回/年

●各年度の行動計画



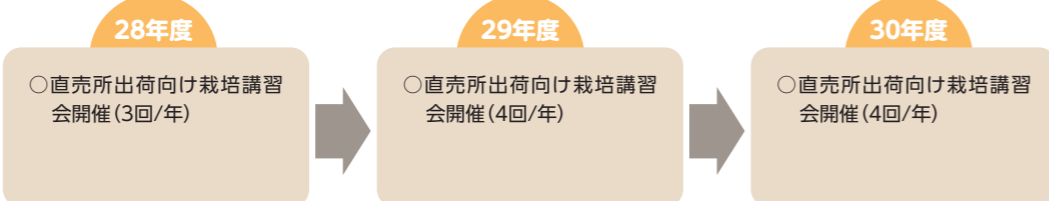
重点実施事項 ③ 農産物直売所出荷会員の育成

●具体的方策

野菜栽培講習会の開催による会員募集

数値目標等 (3ヶ年) 4回/年

●各年度の行動計画



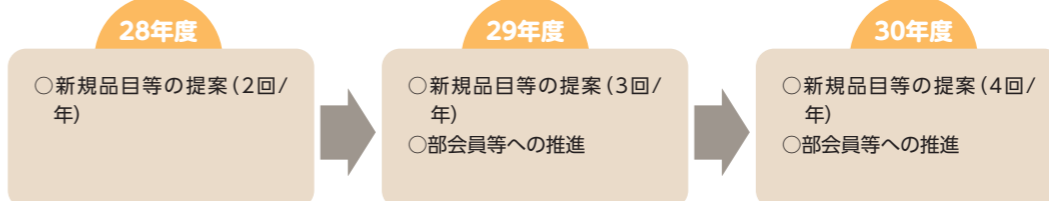
重点実施事項 ④ 部会活動の活性化

●具体的方策

既存部会での栽培講習会、部会検討会開催を通じた、新規品目、新規作型、新規販売チャンネル等の提案等による部会活動の活性化

数値目標等 (3ヶ年) 4回/年

●各年度の行動計画



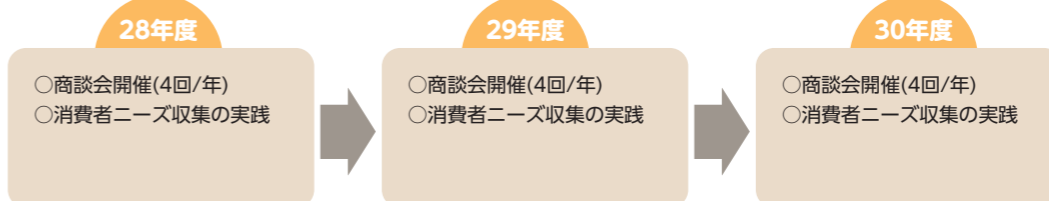
重点実施事項 ⑤ 加工・業務用向け野菜販売を含めた多様な販売

●具体的方策

既存部会を活用した加工・業務用向け野菜の販売と契約販売体制の確立

数値目標等 (3ヶ年) 4回/年

●各年度の行動計画



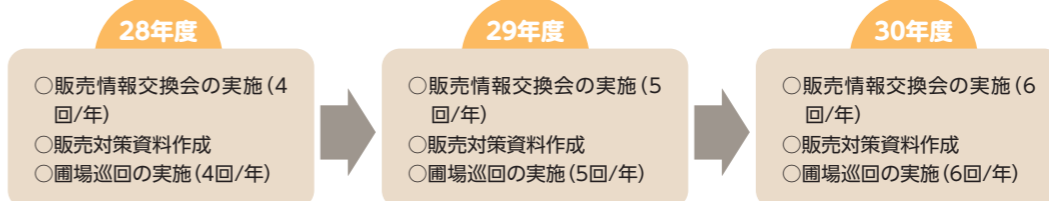
重点実施事項 ⑥ 園芸部門における部会会議、圃場巡回の充実

●具体的方策

本所専任指導員、販売担当者と連携を図り、部会会議、圃場巡回の実施拡大

数値目標等 (3ヶ年) 6回/年

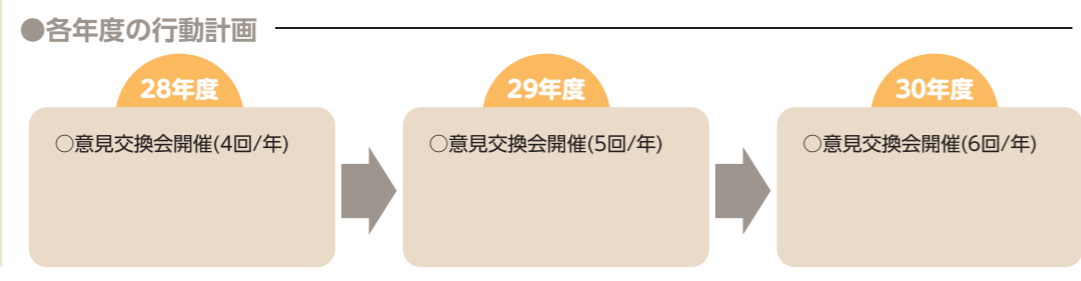
●各年度の行動計画



重点実施事項 **7** 大規模水田農家等への訪問活動、研究会の充実

●具体的方策
大規模水田農家との意見交換会開催

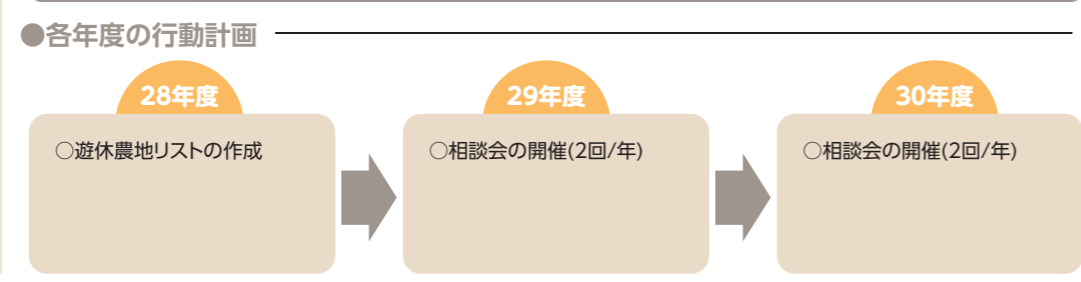
数値目標等 (3ヶ年) **6回/年**



重点実施事項 **8** 農地利用集積円滑化事業等を活用した農地集積

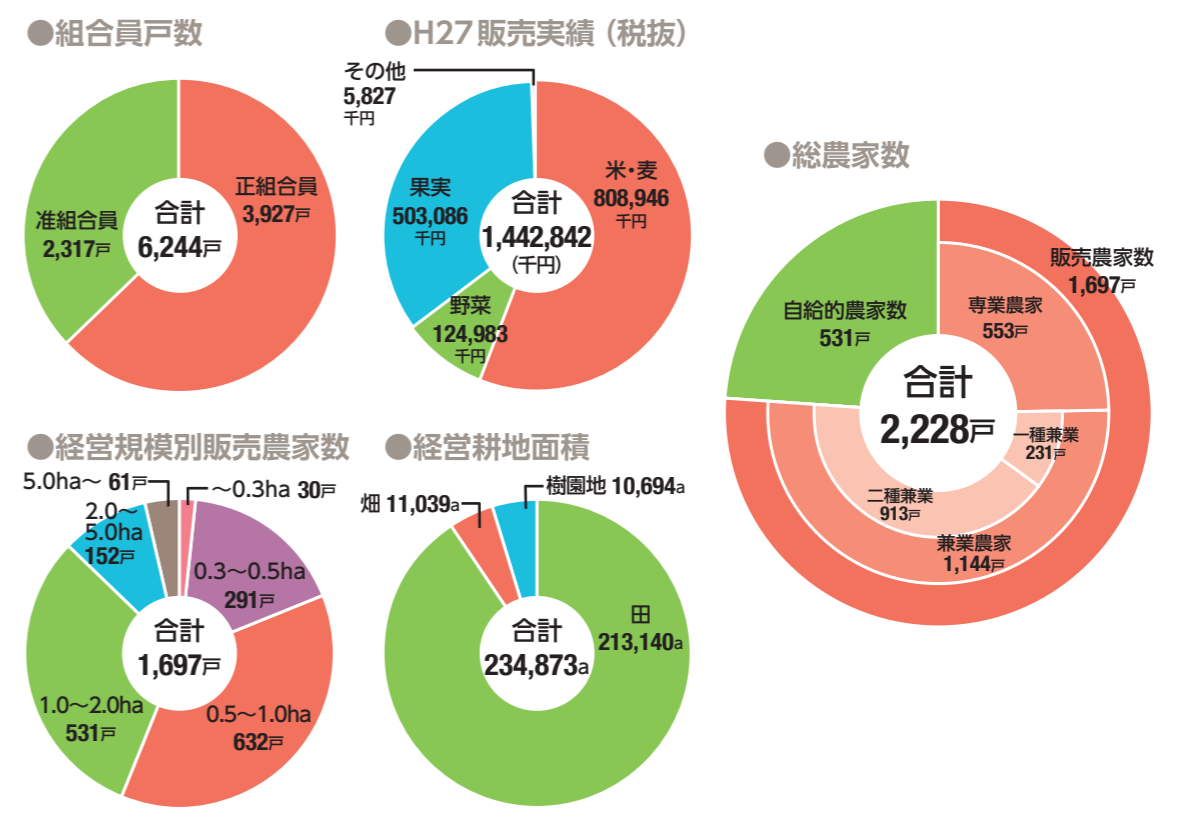
●具体的方策
遊休農地の調査と担い手農家への農地集積

数値目標等 (3ヶ年) **2回/年**



西大寺
宮農センター

1. センター管内の概況



2. 基本テーマ

「晴れの国」おokayama 活力ある農業の発展と消費者に安全で安心な「食」を目指す

3. 現状と課題

当センター管内では、高齢化による生産量の減少・農地の荒廃化が進んでいます。地域特産であるぶどう・なし・いちご部会は、担い手の育成・新規就農者の確保が難しい状況ではありますが、重点市場を選定し有利販売及び生産量の維持に努めています。水田作については、兼業農家の比率が高くなり、経営規模が比較的小さく農業所得も減少し、大型農家への土地集積が進んでいます。また、野菜など園芸作物については高齢化による規模縮小で生産量が減少し、ロット数量がまとまりにくく有利販売が困難になりつつあります。しかし、地域によっては若手の生産者が中心となり、栽培技術の向上・経営の改善に取り組んでいる組織等もあり、今後の担い手対策と若手の生産者に対する農協の関わり方が重要な課題となっています。

4. 基本方針別 目標と方策

1. 農畜産物の生産振興

- ・園芸重点振興品目である夏秋なす・契約野菜を中心とした品目の生産規模拡大に取り組みます。
- ・部会組織の整備と機能強化を図ります。
- ・オリジナル商品の原材料開発と販売力の強化を図ります。

2. 意欲ある担い手の確保育成

- ・部会、行政と連携し、新規就農者の確保に取り組みます。
- ・重点振興品目栽培を提案し、担い手の確保に取り組みます。
- ・既存組織（各生産部会、青壮年部等）の活動を活発にし、情報交換、意識統一することで組織の強化を図ります。
- ・農地の集約に取り組みます。

3. 販売戦略の強化

- ・安全、安心な農産物の生産と品質保証システムの確立に取り組みます。
- ・重点市場に対する対応拡大、安定継続出荷に取り組みます。
- ・新規販売先の洗い出しや積極的な販売に努めます<<商物分離販売（契約販売）の強化>>。
- ・野菜、果樹の品目間協力・支援を生かした効率的な市場販売の強化を図ります。
- ・量販店、百貨店等での試食会、イベント開催による消費宣伝の強化に取り組みます。
- ・首都圏に対する地域特性を生かした販売戦略の強化を図ります。

4. 営農指導体制の充実

- ・産地の要望を細かく把握するため、定期的に農家との話し合える機会を設けます。
- ・営農指導員の相互研修を実施します（現場の声を聴く）。
- ・農業所得の向上に繋がる技術指導に取り組みます。
- ・関係機関と連携し、就農相談や就農実務研修の強化を図ります。

5. 儲かる水田農業の確立

- ・地域の栽培環境に適した水稻優良品種の選定に取り組みます。
- ・水田フル活用への取組みに対して農家所得向上につながるよう積極的な推進に取り組みます。
- ・JA岡山プライベートブランド肥料の普及推進により、生産コストの低減に取り組みます。
- ・農用地利用調整事業等を活用し、農地の集約に取り組みます。



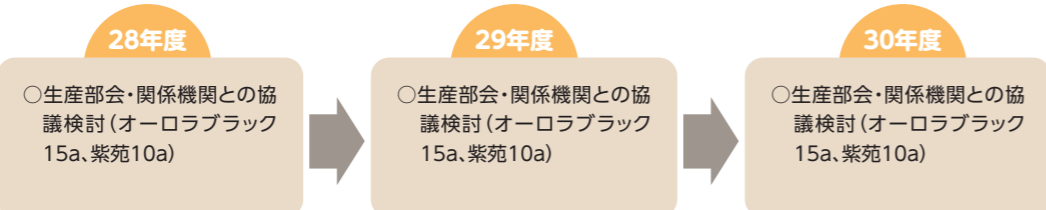
5. 重点実施事項と年次別行動計画

重点実施事項 ① 次世代フルーツ生産振興

- 具体的方策
オーロラブラック・紫苑等有望品種の産地化と面積拡大

数値目標等 (3ヶ年) 栽培面積増加 オーロラブラック45a 紫苑30a

●各年度の行動計画

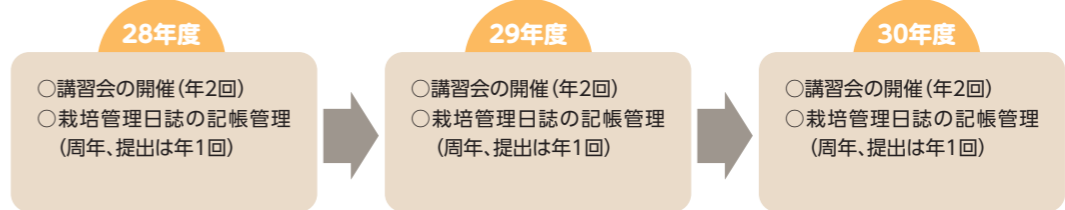


重点実施事項 ② 水田農業経営の安定

- 具体的方策
米の品質向上と安全安心な農産物振興

数値目標等 (3ヶ年) 3カ年継続

●各年度の行動計画

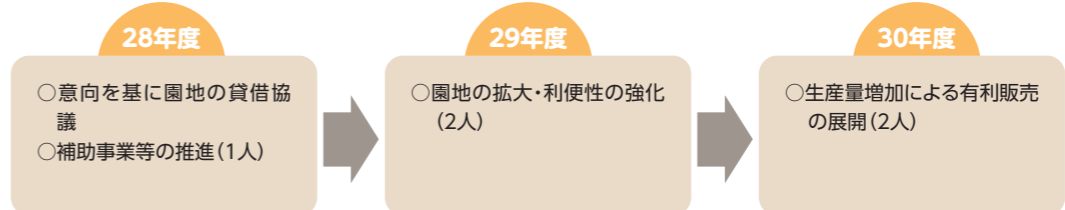


重点実施事項 ③ 西大寺ぶどう部会の若手育成

- 具体的方策
面積拡大のため情報交換と栽培技術伝承および技術向上

数値目標等 (3ヶ年) 新規就農者を中心に5人

●各年度の行動計画

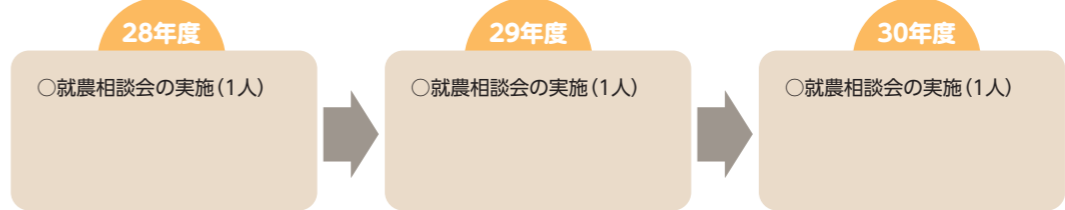


重点実施事項 ④ 多様な(女性・高齢者等)担い手の育成確保

- 具体的方策
就農支援体制の整備等を行い、就農希望者の円滑な就農支援

数値目標等 (3ヶ年) 新規就農者3人

●各年度の行動計画

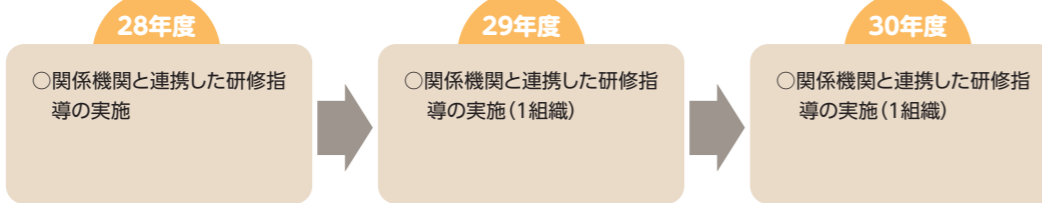


重点実施事項 5 集落営農組織の育成

●具体的方策
集落営農組織の育成

数値目標等 (3ヶ年) 集落営農組織 / 2組織

●各年度の行動計画

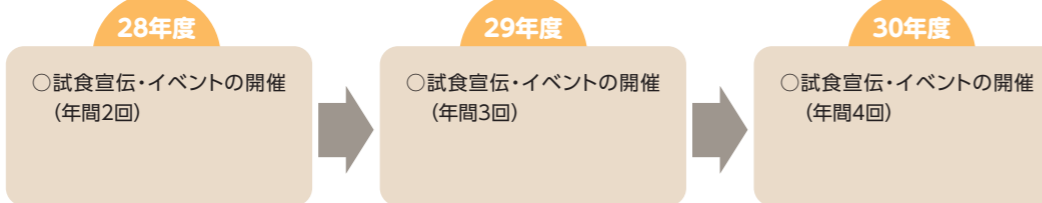


重点実施事項 6 量販店・百貨店等での消費宣伝の強化

●具体的方策
県内外の量販店・百貨店等での試食会・イベントの開催によるPR活動の実施

数値目標等 (3ヶ年) イベント等開催 / 年間4回

●各年度の行動計画

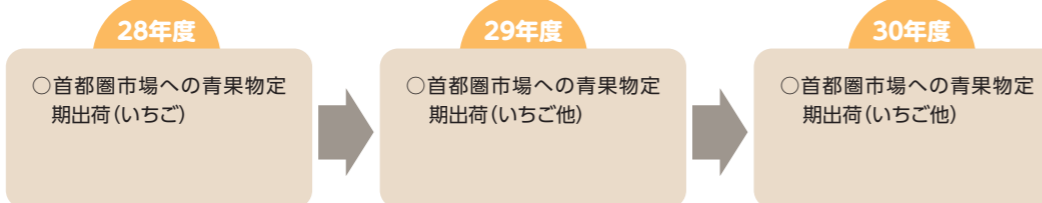


重点実施事項 7 新規販売先の洗い出しや積極的な販売活動

●具体的方策
商物分離販売(契約販売)の強化による販路拡大

数値目標等 (3ヶ年) 通年販売

●各年度の行動計画

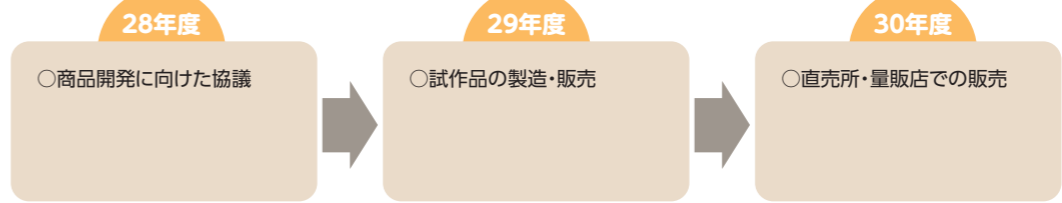


重点実施事項 8 企画商品の開発と販売強化

●具体的方策
西大寺産青果物を利用した西大寺オリジナル商品の開発と販売

数値目標等 (3ヶ年) オリジナル商品開発

●各年度の行動計画

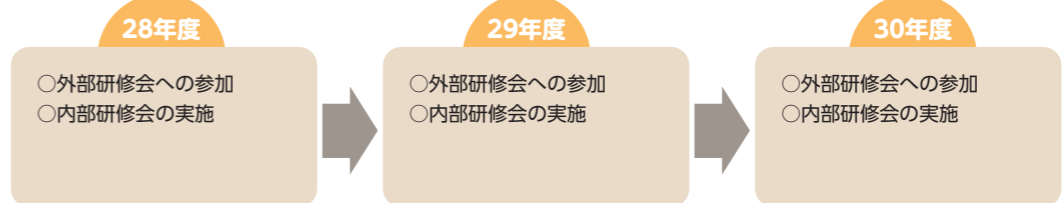


重点実施事項 9 営農指導員の育成

●具体的方策
センター職員の営農指導力向上と指導体制の強化

数値目標等 (3ヶ年) 講習会、研修会 / 年間20回

●各年度の行動計画

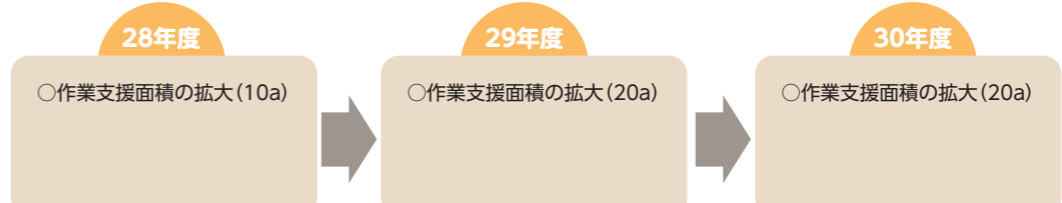


重点実施事項 10 農産物の優良品種の導入と複合経営の推進

●具体的方策
葉菜類の新規品種の試験栽培と作業支援の導入

数値目標等 (3ヶ年) 作業支援面積 / 50a

●各年度の行動計画

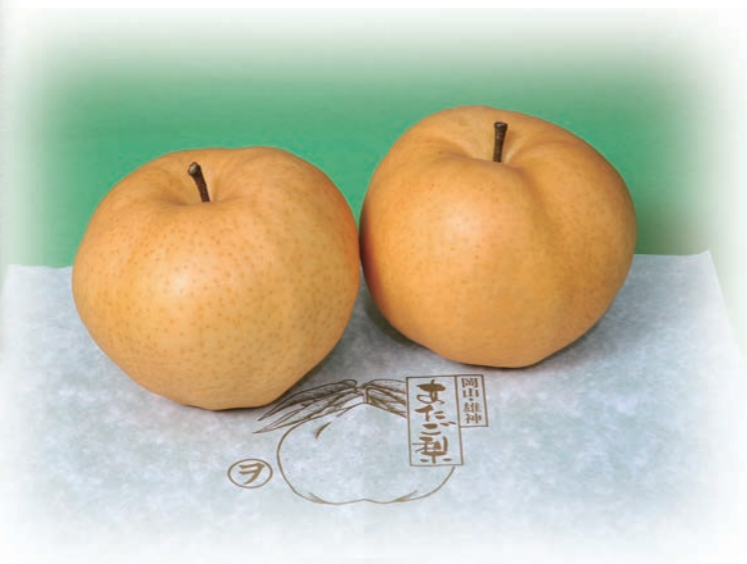
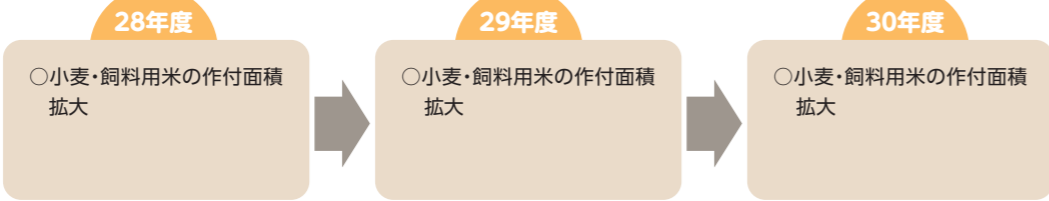


重点実施事項 **11** 水田フル活用への取り組み

●具体的方策
遊休農地の活用

数値目標等 (3ヶ年) 小麦/450ha 飼料用米/100ha

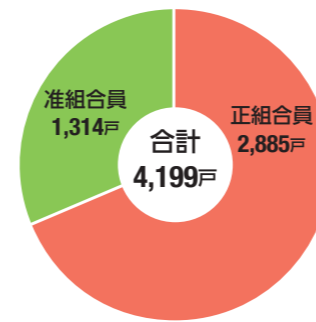
●各年度の行動計画



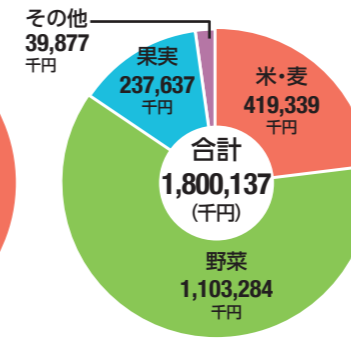
瀬戸内
宮農センター

1. センター管内の概況

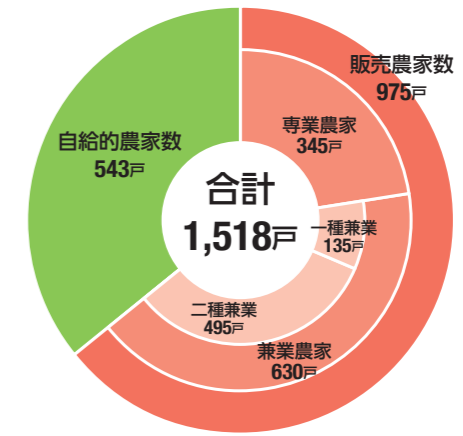
●組合員戸数



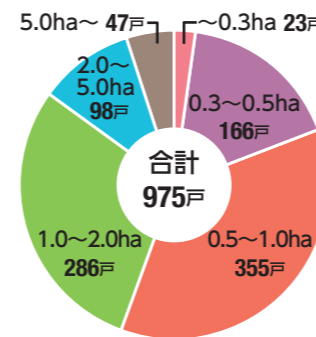
●H27 販売実績 (税抜)



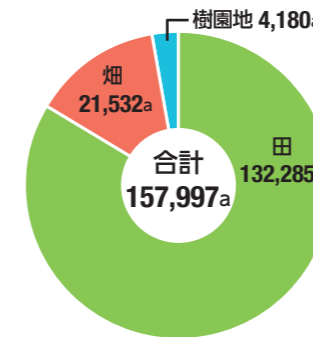
●総農家数



●経営規模別販売農家数



●経営耕地面積



2. 基本テーマ

持続可能な農業の実現をめざして新たな地域農業の創造～4Cの展開 (チェンジ・チャレンジ・コミュニケーション・コーポラティブ)～

3. 現状と課題

当管内は、瀬戸内市及び岡山市東部の一部を範囲とし、平野部の水田地帯と丘陵地や干拓地を中心とした園芸地帯に大別することができ、米・麦・大豆・野菜・果実と地域別に産地化が図られており、多様な農業が展開されています。特に重量野菜（白菜・キャベツ・冬瓜等）では県下を代表する産地形成がなされています。耕種地帯では、安定兼業農家から規模拡大志向農家への農地の流動化は緩やかに推移してきましたが、近年、兼業農家の高齢化と併せて急速に農地の流動化がすすむ可能性が高まっていることから、地域を担う担い手経営体の育成が急務となっています。園芸地帯では、就業人口の減少や高齢化に伴って後継者に継承されない又は担い手に集積されない農地が近年増加傾向にあり、新規就農者や定年帰農者等担い手の受け皿づくりと人的確保に努め、農業所得の増大や農業生産の拡大に向けて提案型の生産振興や販売戦略を強化し、創造・提案をキーワードとして地域農業を活性化する必要があります。

4. 基本方針別 目標と方策

1. 農畜産物の生産振興

- ・マーケットインに基づく生産振興による複合経営および地域複合の推進に取り組みます。
- ・労働力の軽減支援・確保対策の体制強化による生産規模の拡大を図ります。
- ・品目別生産組織の支援による安定生産と生産拡大を図ります。
- ・圃場準備・収穫支援等栽培支援可能な機械類整備と集荷場及び予冷施設の検討を行います。
- ・農産物直売所出荷会員の増大による農業生産の底辺拡大に取り組みます。

2. 意欲ある担い手の確保育成

- ・担い手経営体・中核志向的農家・定年帰農者等、多様な担い手の経営課題に対応した意見交換会を実施します。
- ・関係機関と連携の下、トータルサポート事業対応をはじめ、就農相談・就農研修を実施します。
- ・大規模水田経営体の複合経営（水稲＋露地野菜等）を支援し経営基盤の強化を図ります。

3. 販売戦略の強化

- ・地域（産地）別に青果物市場向け販売と加工・業務用向け販売を明確にし、食生活・ライフスタイル・流通構造変化への対応を図ります。
- ・加工・業務向けの契約取引・市場取引の事前値決め販売等販売流通経路の多元化による収益確保に努めます。
- ・営農指導と販売戦略のマッチングといった生産から販売の一体化に取り組みます。
- ・品目別ブランド力の強化による付加価値の増大と知的財産の活用及び新たな需要開拓に取り組みます。
- ・水田フル活用による野菜生産と予冷・集出荷施設の一元化と低温流通体系導入の検討を進めます。

4. 営農指導体制の充実

- ・本所 担い手専任担当（TAC）・専門営農指導員との連携による研修会の開催と巡回訪問活動の強化を図ります。
- ・現地講習、現地での実証圃場設置、職場内教育（OJT）を通じて担当者のスキルアップと現場力強化を図ります。
- ・営農センター指導班と他の業務班（ふれあい相談班、農産班、園芸班、資材供給班、事務班）との連携による資質向上に取り組みます。

5. 儲かる水田農業の確立

- ・大規模経営体を中心とする生産構造への転換に取り組みます。
- ・農地中間管理機構等と連携して農地の集積・集約化を図ります。
- ・飼料用米等制度米の生産拡大および経営所得安定対策等の活用を推進します。
- ・加工・業務用野菜の需要に対し、水田フル活用による経営の複合化を推進します。
- ・農地利用集積円滑化事業の活用と、行政等と連携し利用権設定支援に取り組みます。



5. 重点実施事項と年次別行動計画

重点実施事項 ① マーケットインに基づく品目の生産振興

● 具体的方策

生産組織（部会）紹介や営農相談の機会創出（部会別・重点提案品目別の説明会開催）
夏秋なす・アスパラガス・レタス・ミニ白菜・キャベツ・カリフラワー・スナップエンドウ

数値目標等
（3ヶ年）

説明会2回／年

重点提案品目作付面積 7.0ha

● 各年度の行動計画

28年度
○水田の利活用・提案活動
○営農指導と販売のマッチング提案
○営農相談会（説明会）2回／年
○重点提案品目作付面積 2.0ha

29年度
○水田の利活用・提案活動
○圃場準備支援・収穫支援
○営農相談会（説明会）2回／年
○重点提案品目作付面積 4.0ha

30年度
○水田の利活用・活動提案
○集出荷・流通の一元化
○営農相談会（説明会）2回／年
○重点提案品目作付面積 7.0ha

重点実施事項 ② 労働支援・負担軽減による産地規模の維持・拡大と新規品目の作業支援

● 具体的方策

- ・収穫支援隊利用による重量野菜の面積拡大
- ・新規品目の支援作業メニューの検討・提案

数値目標等
（3ヶ年）

白菜 6.6ha キャベツ 2.5ha 冬瓜 1.6ha 作業メニュー提案

● 各年度の行動計画

28年度
○労働支援の外部委託6.8ha（白菜・キャベツ・冬瓜）
○新規品目（ミニ白菜等）の育苗・畝立て等圃場準備支援

29年度
○労働支援の外部委託6.8ha（白菜・キャベツ・冬瓜）
○新規品目（ミニ白菜等）の支援作業メニューの検討

30年度
○労働支援の外部委託10.7ha（白菜・キャベツ・冬瓜）
○新規品目（ミニ白菜等）の支援作業メニューの提案・実践

重点実施事項 ③ 担い手経営体・中核志向的農家・定年帰農者等の育成

● 具体的方策

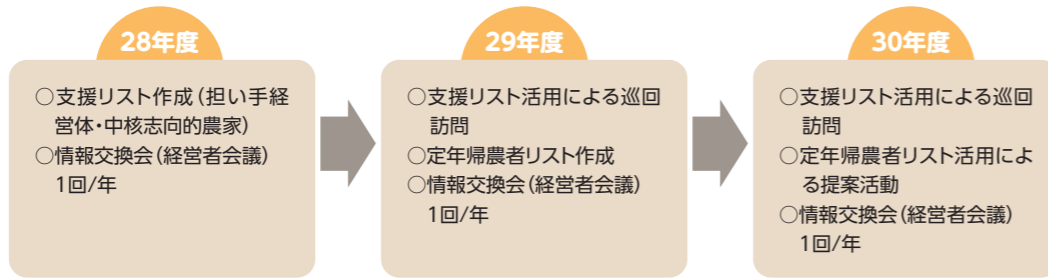
支援リストの策定と意見・情報交換会（経営者会議）の開催

数値目標等
（3ヶ年）

階層別支援リスト作成

情報交換会（経営者会議）開催

●各年度の行動計画



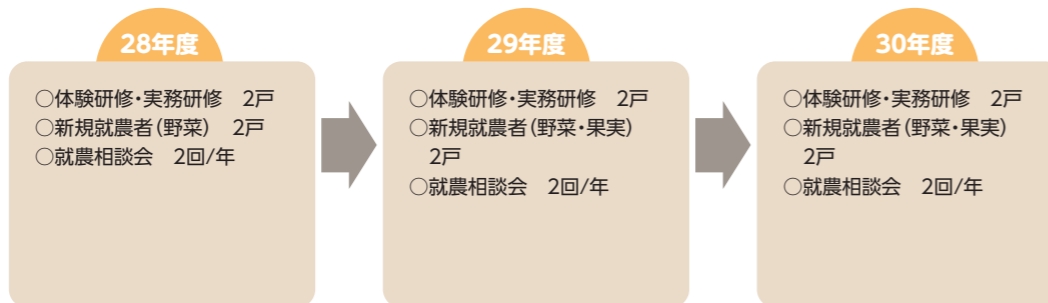
重点実施事項 **4** 新規就農者の確保・育成

●具体的方策

- 行政機関と連携による就農促進トータルサポート事業の対応
- 就農相談・就農研修の実施

数値目標等 (3ヶ年) **新規就農者6戸 就農研修6戸 就農相談会2回/年**

●各年度の行動計画



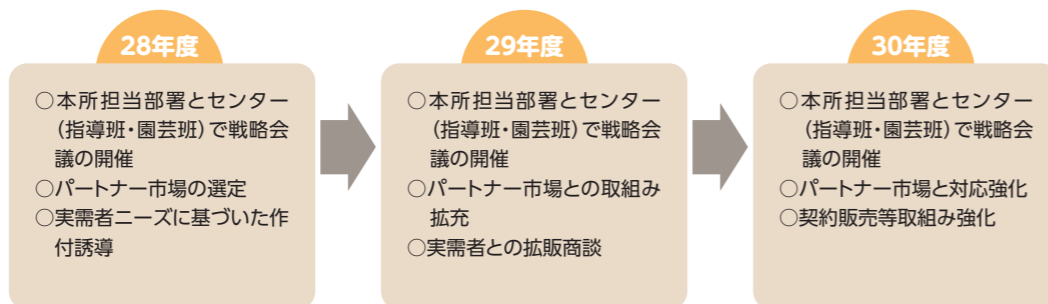
重点実施事項 **5** 生産・販売の一体化と販売流通経路の多元化

●具体的方策

- 提案品目の営農指導と販売戦略のマッチング
- 市場向け販売と加工・業務用販売の明確化

数値目標等 (3ヶ年) **販売戦略会議2回/年**

●各年度の行動計画



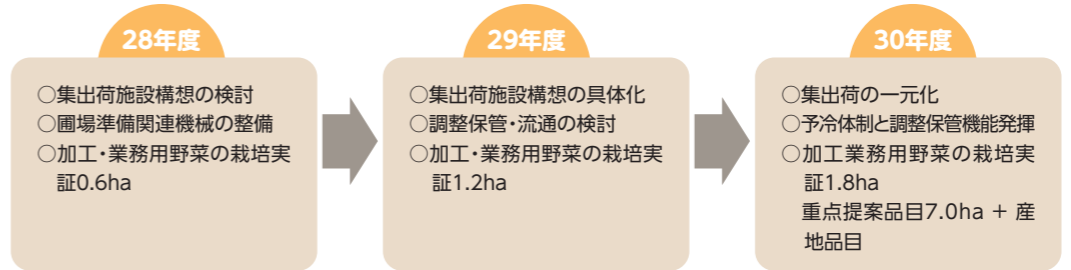
重点実施事項 **6** 水田フル活用と流通構造変化への対応

●具体的方策

- 流通・運送を含めた調整保管機能の発揮
- 集出荷の一元化と低温流通体系の導入検討

数値目標等 (3ヶ年) **集出荷の一元化・予冷施設と低温流通体系の導入 業務用野菜 1.8ha**

●各年度の行動計画



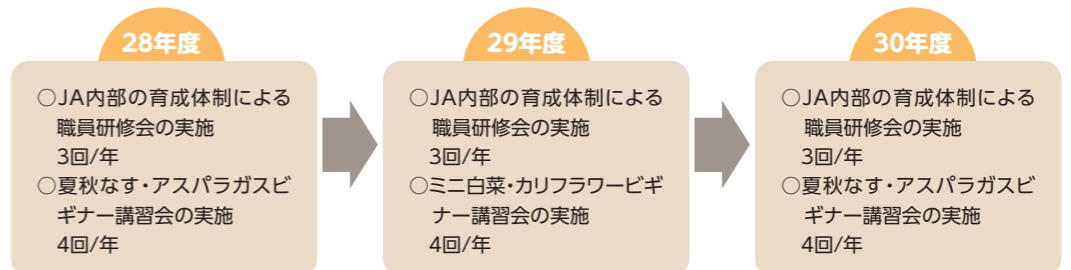
重点実施事項 **7** 指導体制強化とスキルアップ

●具体的方策

- 本所 (TAC・専門営農指導員) と連携による職員研修会・現地ビギナー講習会の開催

数値目標等 (3ヶ年) **職員研修会3回/年 ビギナー講習会4回/年**

●各年度の行動計画



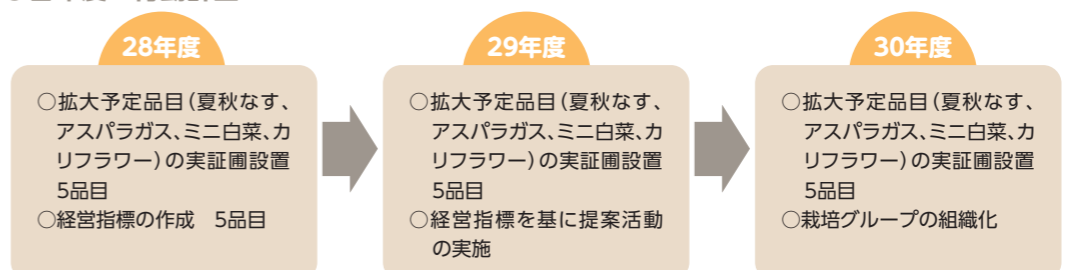
重点実施事項 **8** 現場力強化と提案活動

●具体的方策

- 生産組織や生産者との協同による栽培実証圃の設置
- 生育調査・収支データ・経営指標の作成

数値目標等 (3ヶ年) **実証圃の設置5品目/5か所 指標の作成5品目**

●各年度の行動計画



重点実施事項

9 複合経営化の提案推進

●具体的方策

複合経営化の提案推進と指標作成（水田裏作・水田転作・野菜複合）

数値目標等
（3ヶ年）

複合経営体6経営体1.8ha

●各年度の行動計画

28年度

- 水田での野菜導入提案
- 導入モデル指標作成
- JA育苗施設での苗生産
- 担い手経営体・中核志向的農家 2経営体 / 0.6ha

29年度

- 水田での野菜導入提案
- 実績評価・指標提示
- JA育苗施設での苗生産
- 担い手経営体・中核志向的農家 4経営体 / 1.2ha

30年度

- 水田での野菜導入提案
- 野菜複合経営の標準化
- JA育苗施設での苗生産
- 担い手経営体・中核志向的農家 6経営体 / 1.8ha

重点実施事項

10 飼料用米等の作付拡大

●具体的方策

政策に基づいた飼料米の作付拡大の誘導

数値目標等
（3ヶ年）

飼料用米80ha / 400t(累計)

●各年度の行動計画

28年度

- 担い手経営体を中心に提案推進
- 現行制度の周知
- 次年度に向けた検討
- 60ha / 300t

29年度

- 担い手経営体を中心に提案推進
- 次年度推進に向けた検討
- 新制度・推進方法の検討
- 80ha / 400t

30年度

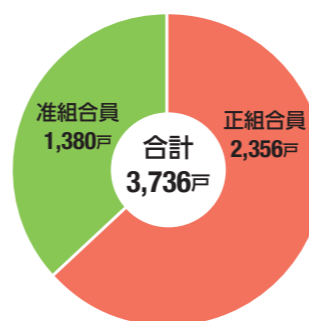
- 生産調整終了年度
- 新制度の周知および推進
- 80ha / 400t



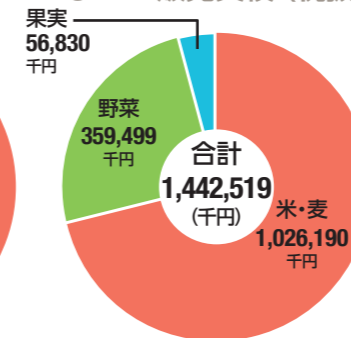
藤田
宮農センター

1. センター管内の概況

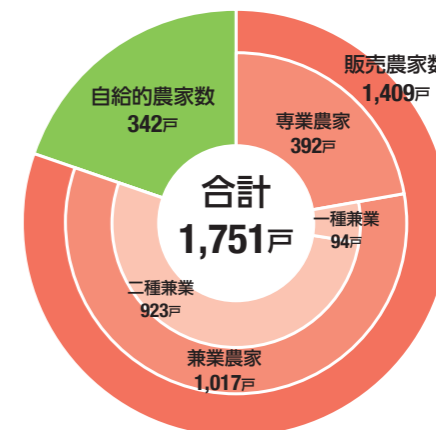
●組合員戸数



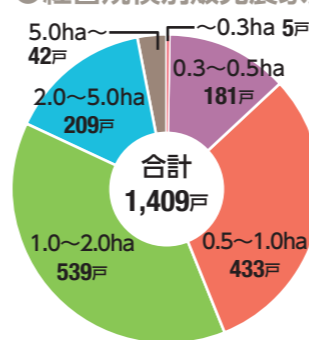
●H27販売実績（税抜）



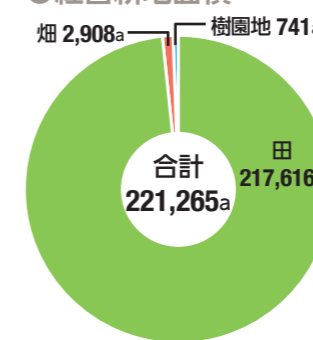
●総農家数



●経営規模別販売農家数



●経営耕地面積



2. 基本テーマ

農業の再生産を確実にし、農業者の意欲を向上!!

3. 現状と課題

当センター管内は、水稻が中心の産地です。昨今の米価低迷や農家の高齢化により、農家数、生産面積ともに減少傾向となっていますが、担い手農家の大規模化や一部で後継者の育成や新規就農への問い合わせ等も増えてきています。生産農家からの多様な要望に答えるためにも宮農センターとしては積極的に情報を発信していく必要がありますが、課題としては①水稻栽培における生産コストの低減②水田における土地利用型農業の振興③園芸品目での多角経営の提案が挙げられます。また、近年続発する異常気象への対応も急務となっており、異常気象に耐えうる品種選定、湿害や過乾燥を軽減するためのシステム構築などにも積極的に取り組んでいく必要があります。この3年間で農業政策も大きく転換期を迎え、農家、関係機関と一体となって「強い農業」の基盤作りに取り組んでまいります。

4. 基本方針別 目標と方策

1. 農畜産物の生産振興

- ・栽培面積拡大を目指し、広報誌・回覧等による新規生産者の募集を行います。
- ・生産者の所得向上を目的に、露地野菜（夏秋なす、抑制かぼちゃ、リーキ、レタス類等）の普及を図ります。
- ・水田における土地利用型農業を活性化させるため、二条大麦、大豆の生産振興に取り組みます。
- ・水稲栽培における生産コストの削減を図るため、省力・低コスト栽培技術の検討に取り組みます。
- ・FOEAS（新地下水水位制御システム）試験導入による異常気象への対応、収量向上の検証に取り組みます。

2. 意欲ある担い手の確保育成

- ・園芸部会を中心に新規生産者募集に向けての広報活動や説明会を開催します。
- ・新規生産者等への巡回指導の強化をすすめ、栽培等に関する問題点の早期発見と対応に努めます。
- ・現地見学会や栽培説明会において新たな園芸品目を提案し、新規栽培者の拡大に取り組みます。
- ・水稲品種構成の検討と裏作である二条大麦栽培の普及により、担い手農家の大規模化促進に努めます。
- ・大型共同乾燥調整施設等の有効活用など、規模拡大を目指す担い手経営体の育成支援に取り組みます。

3. 販売戦略の強化

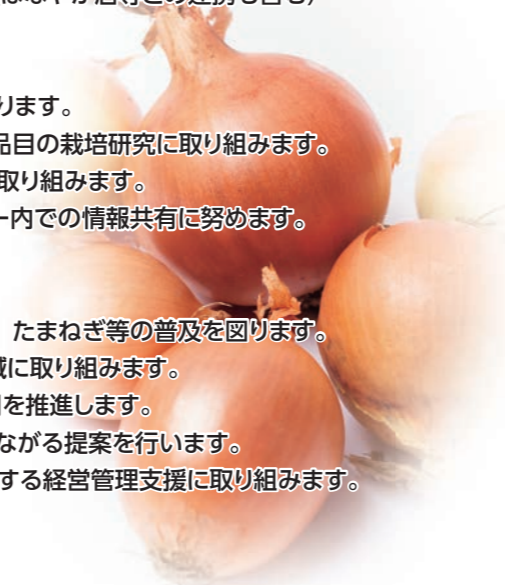
- ・園芸品目を中心に契約取引の拡大をすすめ、農業所得の安定化を図ります。
- ・園芸担当者と市場担当者の連絡を密にし、実需者からの要望など情報収集・提供を積極的に行います。
- ・黒大豆に関しては実需の要望に応じた選果を徹底し、有利販売を目指します。
- ・米の良食味品種や高温耐性品種の研究を行い、単価・収量面で優位性の確保に努めます。
- ・出荷規格や等級によって最適な販売先の検討をすすめます。（はなやか店等との連携も含む）

4. 営農指導体制の充実

- ・関係機関等の研修会に積極的に参加し知識・技能の向上を図ります。
- ・関係機関との情報交換を積極的に行い、実需から求められる品目の栽培研究に取り組みます。
- ・営農指導員や農産物検査員など指導事業に必要な資格取得に取り組みます。
- ・農業生産に関する総合的な提案活動が行えるよう営農センター内での情報共有に努めます。

5. 儲かる水田農業の確立

- ・裏作として大規模経営による機械化可能品目である二条大麦、たまねぎ等の普及を図ります。
- ・たまねぎ部会と協力しながら鉄コンテナなどの出荷労力の低減に取り組みます。
- ・大規模経営の省力化への取組みとしてJA育苗施設の有効活用を推進します。
- ・国や県の補助政策を的確に見極めながら、農業所得増大につながる提案を行います。
- ・補助事業の申請手続き支援や経営相談など担い手経営体に対する経営管理支援に取り組みます。



5. 重点実施事項と年次別行動計画

重点実施事項 ① 露地野菜（夏秋なす、抑制かぼちゃ、リーキ、レタス類等）の普及拡大

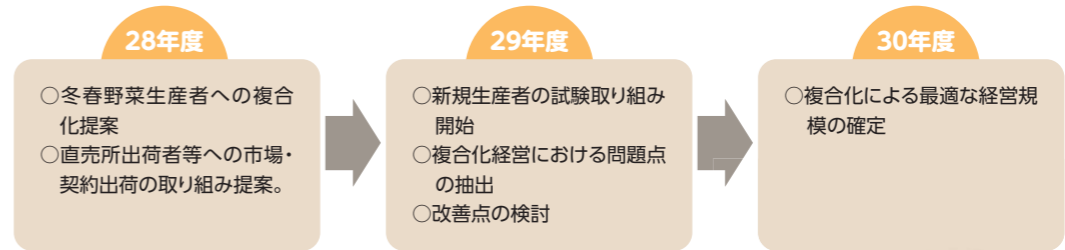
●具体的方策

- ・備南育苗施設の活用や全農おかやま県本部の畝立支援等を活用した生産者支援
- ・出荷方法の簡素化や値決め出荷による栽培開始直後の生産者への栽培技術習得に向けた取組支援

数値目標等
(3ヶ年)

夏秋なす20名 抑制かぼちゃ20名 リーキ5名 契約レタス類15名

●各年度の行動計画



重点実施事項 ② 園芸品目の普及拡大

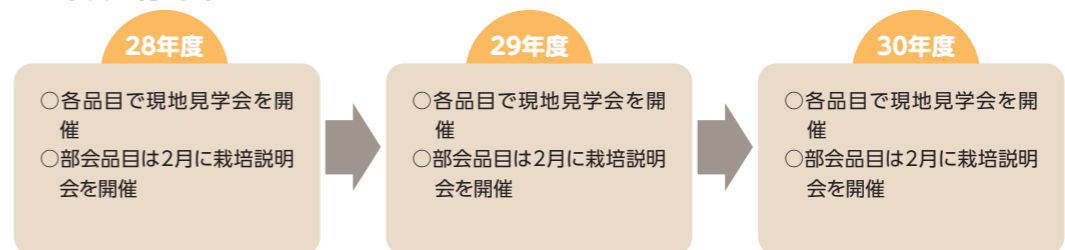
●具体的方策

- ・広報誌などによる新規取組品目の周知徹底
- ・現地見学会（実践研修も含む）の開催

数値目標等
(3ヶ年)

園芸品目新規生産者20名

●各年度の行動計画



重点実施事項 ③ 契約取引の拡大と農家所得の安定

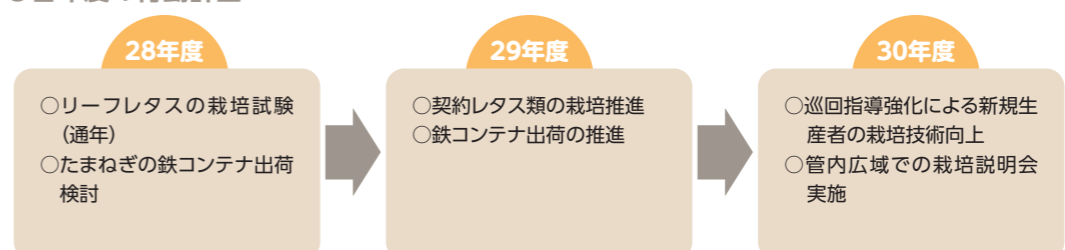
●具体的方策

- ・契約取引（出荷形態、価格決定方法の再検討を行う）を導入による園芸品目の複合化推進
- ・重点品目：夏秋なす、レタス類、たまねぎ

数値目標等
(3ヶ年)

夏秋なす20名 契約レタス類15名 たまねぎ(契約出荷)15名

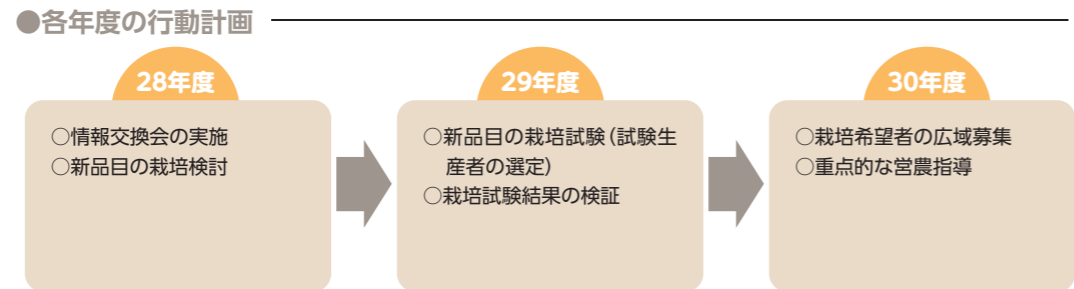
●各年度の行動計画



重点実施事項 4 新品目の栽培研究と営農指導担当者の知識・技術向上

- 具体的方策
 - 市場や実需者との意見交換を行い、求められる新品目の研究
 - 新品目の栽培技術研究を通じた営農指導担当者の知識・技術向上

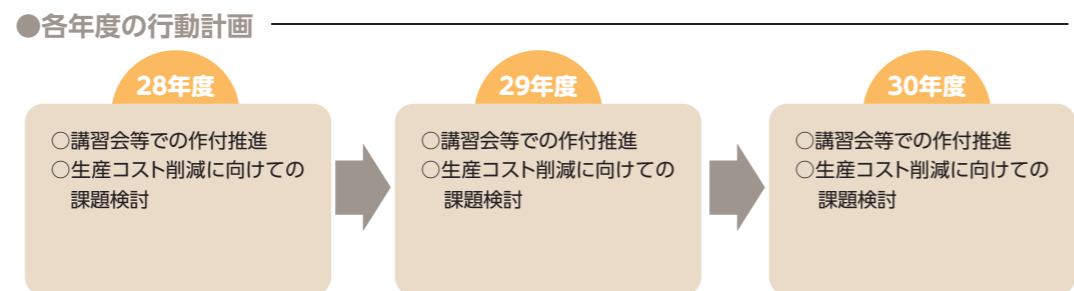
数値目標等 (3ヶ年) **新品目導入3品目**



重点実施事項 5 米政策への的確な対応と所得増加に向けた提案

- 具体的方策
 - 水稻講習会等を通じた飼料用米の作付け推進
 - 生産コスト低減に向けた実証試験の実施

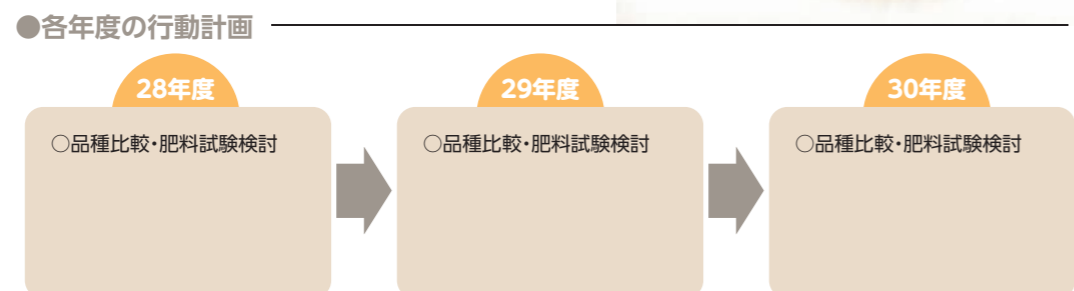
数値目標等 (3ヶ年) **平成27年産飼料用米検査数量(4766俵)対比で110%**



重点実施事項 6 二条大麦・大豆等の作付拡大と品質向上対策

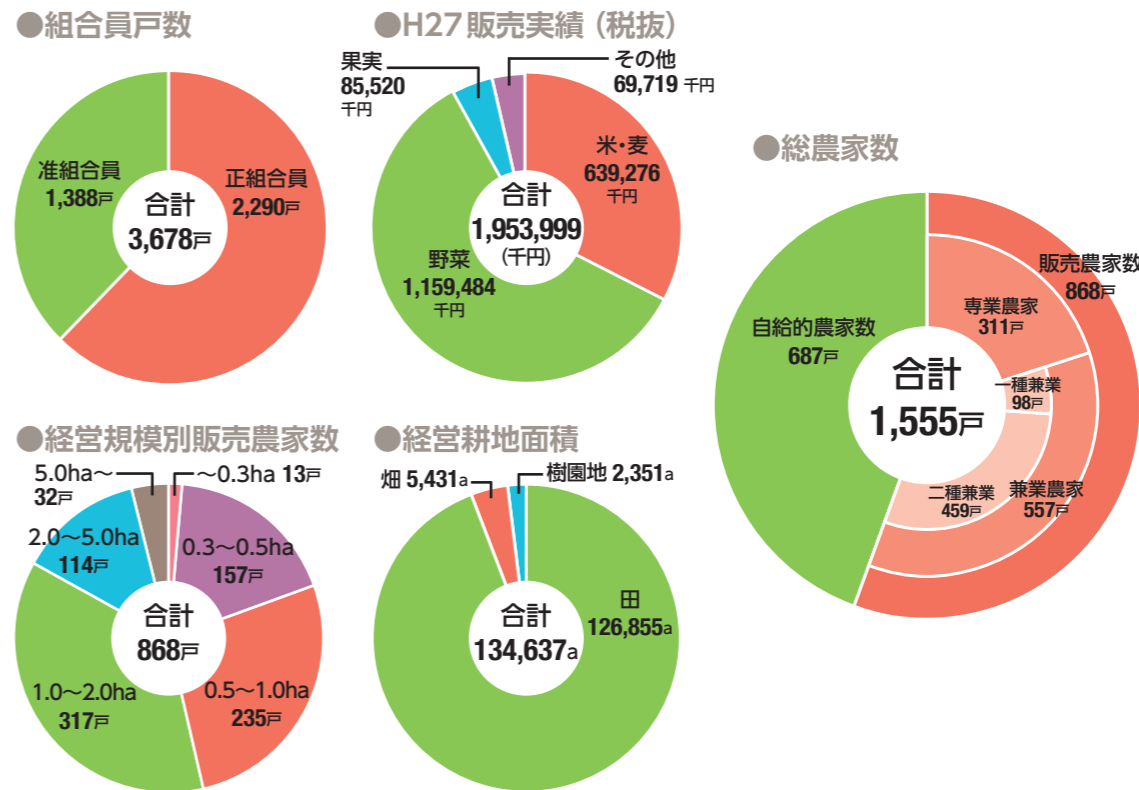
- 具体的方策
 - 二条大麦のタンパク含量向上の取組み
 - 大豆等の安定生産向上の取組み

数値目標等 (3ヶ年) **作付拡大652ha→680ha (105%)**



備南 営農センター

1. センター管内の概況



2. 基本テーマ

儲かる農業を実践して地域の再生を!

3. 現状と課題

当センター管内は、岡山県の最南部に位置し、農地の大部分を占める干拓による水田地帯が農業の中心となり、それに連なる丘陵地帯や都市近郊にも農地が存在している地域になります。米麦の他、干両茄子、蓮根、玉葱等の野菜を中心に、葡萄、梨、レモン等の果樹や花卉など瀬戸内の温暖な気候を活かした農作物産地として位置づけられてきました。しかしながら、当センターのみならず全国的な農家の課題として、所得低迷、高齢化、後継者(担い手)不足による不作付け地の増大などがあります。

4. 基本方針別 目標と方策

1. 農畜産物の生産振興

- ・品目別生産振興に向けた体系的な生産指導を実施します。
- ・施設茄子・蓮根等、管内主要園芸品目の安定生産を図ります。
- ・部会組織との連携によるスイートピーの生産拡大に取り組みます。
- ・次世代フルーツの生産拡大に取り組みます。
- ・労働支援による栽培面積の確保に取り組みます。
- ・炭酸ガス発生装置等の新技術導入による生産の安定化を図ります。

2. 意欲ある担い手の確保育成

- ・新規就農希望者の受入体制の整備並びに新規栽培者の育成を図ります。
- ・担い手農家の育成と関係機関との連携による就農支援体制の整備を図ります。
- ・生産部会との連携による新規栽培希望者の掘起こしに努めます。
- ・ハウス貸借等による農地の集積を推進します。

3. 販売戦略の強化

- ・販売体制の改善並びに販売流通経路の多様化を図ります。
- ・多様な販売方法による価格の安定化に努めます。
- ・販売会議等の開催による情報の共有化を図ります。
- ・品目別販売担当者の育成を図ります。
- ・契約栽培や直売所の有効活用による有利販売の実践に取り組みます。

4. 営農指導体制の充実

- ・計画的研修体系の構築による指導員の早期育成に努めます。
- ・本所指導課等と連携による経営管理支援に取り組みます。

5. 儲かる水田農業の確立

- ・水田活用による経営複合化モデルプランを策定します。
- ・関係機関との連携による農地集積を図り不作付地の解消に努めます。
- ・需要に応じた品種への作付誘導と新規需要米の作付推進に取り組みます。
- ・現地指導等の強化による麦の粗タンパク含量向上に取り組みます。



5. 重点実施事項と年次別行動計画

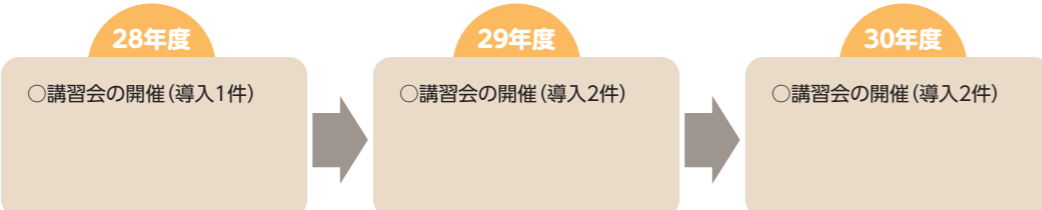
重点実施事項 ① 炭酸ガス発生装置等、新技術の導入による生産安定

● 具体的方策

生産組織を対象とした講習会の実施と新技術導入推進

数値目標等 (3ヶ年) **導入実績5件**

● 各年度の行動計画



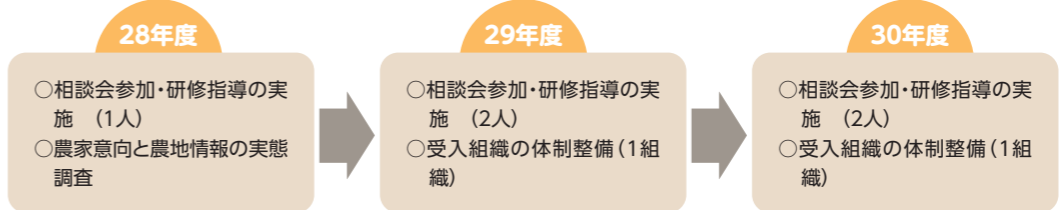
重点実施事項 ② 新規就農者の育成

● 具体的方策

関係機関と連携した就農相談や就農支援体制の整備と就農希望者への円滑な就農支援の実施

数値目標等 (3ヶ年) **新規就農者5人 受入組織整備 2組織**

● 各年度の行動計画



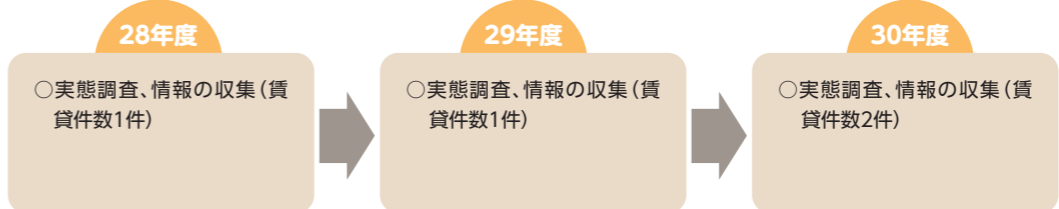
重点実施事項 ③ 農地(ハウス含む) 賃貸による農地集積

● 具体的方策

行政、生産組織と連携した実態調査、情報の収集と円滑な移転支援

数値目標等 (3ヶ年) **賃貸件数4件**

● 各年度の行動計画



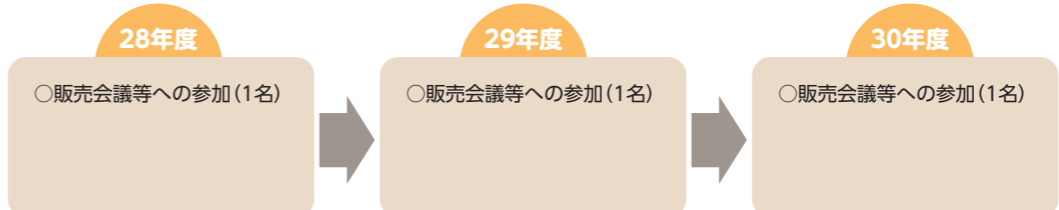
重点実施事項 ④ 販売担当者の育成

● 具体的方策

販売会議、市場等流通関係者との会議等への積極的参加による知識、情報の収集

数値目標等 (3ヶ年) **職員育成3名**

● 各年度の行動計画

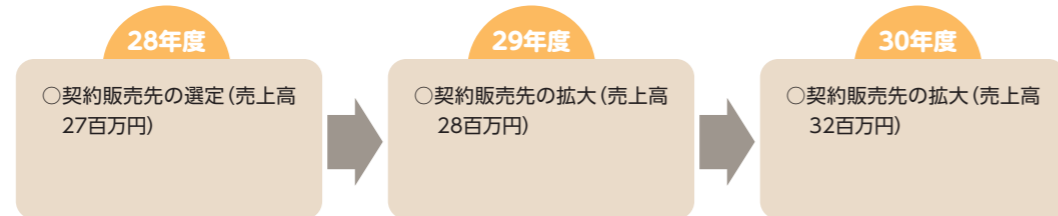


重点実施事項 **5** 白菜、キャベツ、ブロッコリーの多様な販売方法による価格の安定

- 具体的方策
 - 市場を中心とした契約販売
 - JA直売所利用等の販売体制確立と価格安定、売上高の拡大

数値目標等 (3ヶ年) **売上高32百万円/年**

- 各年度の行動計画

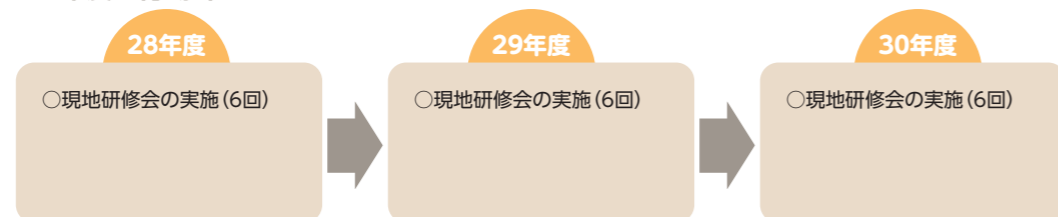


重点実施事項 **6** 現地研修を中心とした研修体制の確立

- 具体的方策
 - 圃場での現地研修による知識の習得

数値目標等 (3ヶ年) **現地研修会実施18回(累計)**

- 各年度の行動計画

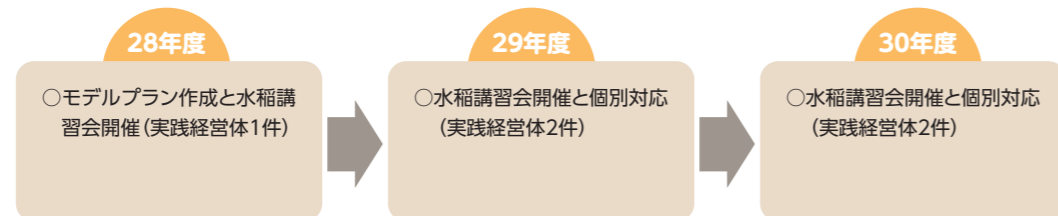


重点実施事項 **7** 水田作物と園芸作物の複合経営の推進

- 具体的方策
 - モデルプラン作成と水稻講習会等での提示
 - 興味を示す農業者への個別対応

数値目標等 (3ヶ年) **実践経営体5件**

- 各年度の行動計画

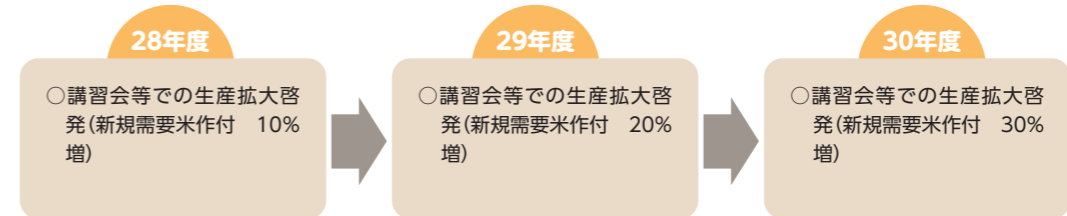


重点実施事項 **8** 新規需要米拡大並びに有望品種への誘導

- 具体的方策
 - 講習会等での品種誘導、新規需要米の生産拡大の啓発

数値目標等 (3ヶ年) **新規需要米作付H27対比30%増**

- 各年度の行動計画

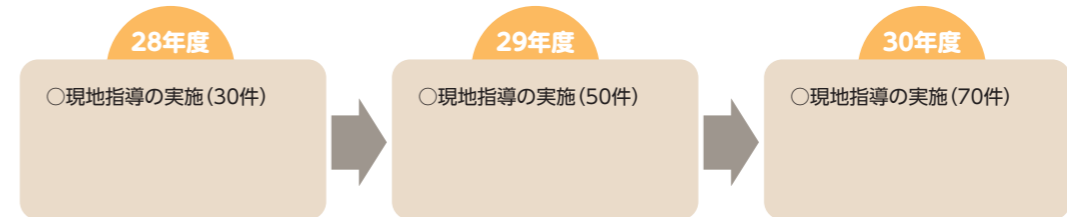


重点実施事項 **9** 麦栽培講習等の取組み強化による品質安定

- 具体的方策
 - 麦の現地指導を中心とした品質向上対策の実践

数値目標等 (3ヶ年) **麦現地指導件数70件**

- 各年度の行動計画

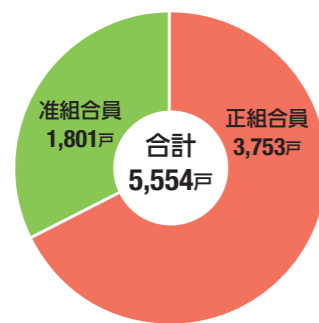




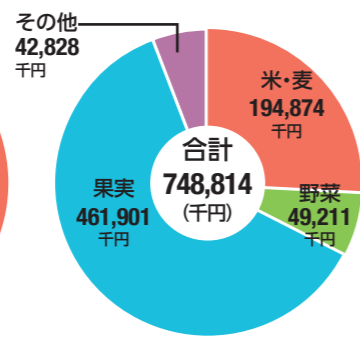
高松 営農センター

1. センター管内の概況

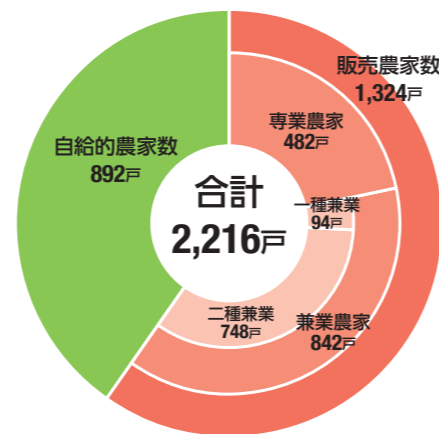
●組合員戸数



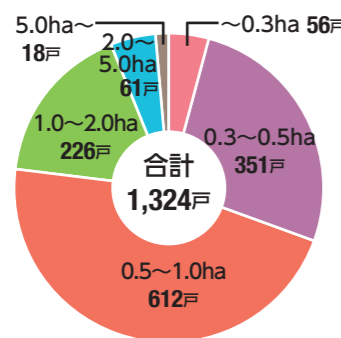
●H27 販売実績 (税抜)



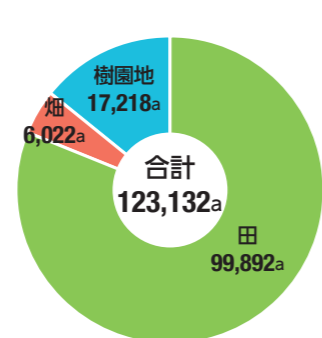
●総農家数



●経営規模別販売農家数



●経営耕地面積



2. 基本テーマ

古代の歴史を感じるこの地。古くから作り続けるおいしい農産物を消費者にもっと届けよう!

3. 現状と課題

北部は丘陵地帯の果樹を中心とした園芸作物から南部の平坦地の稲作りまで多様な作物が栽培されています。中でも桃・温室ぶどうは栽培歴 130 年を越す歴史があり、岡山県の代表的な農産物として全国的にも有名です。また、水田には水稻栽培が中心ですが、いちごや野菜なども栽培されています。その他、足守メロン、しいたけ、花き（ブプレウラム、小菊等）などの栽培も歴史ある地区です。

しかし、農業者の高齢化や市街化に伴い、主要農産物生産量の減少、農地の荒廃などの課題は避けられない状況です。生産意欲のある新規栽培者の育成とその環境づくりが必要です。

4. 基本方針別 目標と方策

1. 農畜産物の生産振興

- ・安全・安心を基に品質の良い米を安定生産し、地域に合った品種構成を推進します。
- ・良食味米生産部会を中心に良食味米の安定増産を図り、おいしい米の生産振興を行います。
- ・桃の生産振興では新規栽培者の確保と面積拡大を主に行います。また、「岡山白桃」のイメージを強調するため新品種の普及を進めます。
- ・温室ぶどうの生産振興に向けて「マスカット・オブ・アレキサンドリア」「シャインマスカット」を柱に高級感あるぶどう生産を続けます。
- ・既存の農産物生産組織との連携をさらに強化し、維持活性化を図ります。
- ・有望な農産物の普及に向け、新規野菜等にチャレンジし産地化を図ります。

2. 意欲ある担い手の確保育成

- ・県・市と連携を取りながら、生産部会と協力して新規就農希望者の受入体制の整備を進めます。
- ・生産部会への新規加入者を募るため、広報誌等を活用し募集広報を行います。
- ・桃やぶどうで行っている農業塾を継続し、意欲ある就農希望者を確保します。
- ・農作業の受託組織を作り、農業作業支援から農業経営維持拡大できる体制を作ります。

3. 販売戦略の強化

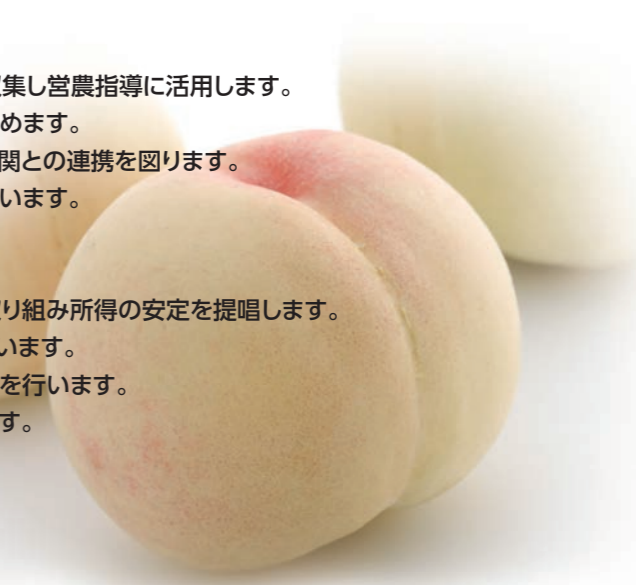
- ・農産物販売高 9億円達成に向けた販売戦略を展開します。
- ・桃の首都圏出荷拡大による〇ブランドの桃販売強化に取りくむとともに、シーズンを通しての安定供給に努めます。
- ・市場および関連機関と連携を強化し、販売戦略を検討して有利販売に努めます。
- ・JA直売所と協力して安全安心な地元の農産物の良さをPRしていきます。

4. 営農指導体制の充実

- ・農業技術者連絡協議会等に参加し技術力を高め、情報等を収集し営農指導に活用します。
- ・各生産部会と密に連携を取り合い、生産販売対策の強化に努めます。
- ・営農相談や提案等の対応で幅広い営農知識を養うよう関連機関との連携を図ります。
- ・センター職員は定期的に管内を巡回し、的確な情報提供を行います。

5. 儲かる水田農業の確立

- ・おいしい米を主体に飼料用米、酒造好適米、加工用米にも取り組み所得の安定を提唱します。
- ・低コスト肥料・農業の推進。ライスセンター利用の推進を行います。
- ・水田裏作として軟弱野菜等の作付け推進と経営モデルの策定を行います。
- ・農作業受委託や労働支援による耕作放棄地対策に取り組みます。



5. 重点実施事項と年次別行動計画

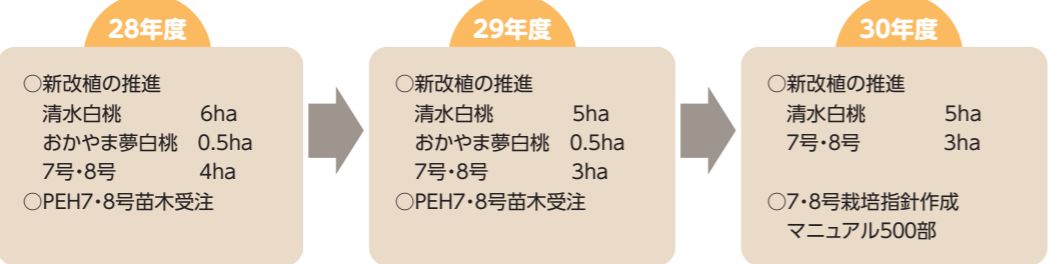
重点実施事項 ① 桃の生産振興による面積拡大と新品種の普及

●具体的方策

- 新改植の推進とPEH7号・8号の普及
- 苗木助成栽培指針作成
- 有望品種の模索及び試作は生産部会と協議継続

数値目標等 (3ヶ年) **新改植27ha (内PEH7・8号 10ha)**

●各年度の行動計画



重点実施事項 **2 既存の農産物生産組織との連携をさらに強化し、維持活性化**

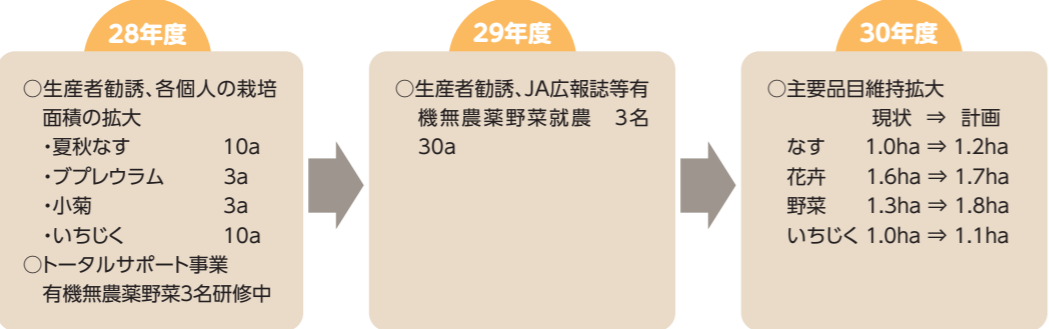
●具体的方策

- 夏秋なすの生産維持拡大
- ブプレウラムを主に花卉の生産維持拡大
- 有機無農薬野菜の生産維持拡大
- いちじく生産維持拡大



数値目標等 (3ヶ年) **栽培面積増加 各部会累計栽培面積(0.9ha)**

●各年度の行動計画



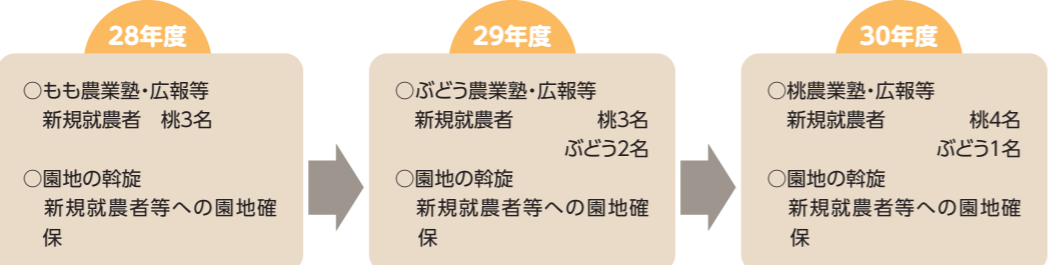
重点実施事項 **3 桃やぶどう農業塾を継続し、意欲ある新規就農者を確保**

●具体的方策

桃やぶどう農業塾・広報等による新規栽培者確保

数値目標等 (3ヶ年) **新規栽培者確保13名**

●各年度の行動計画



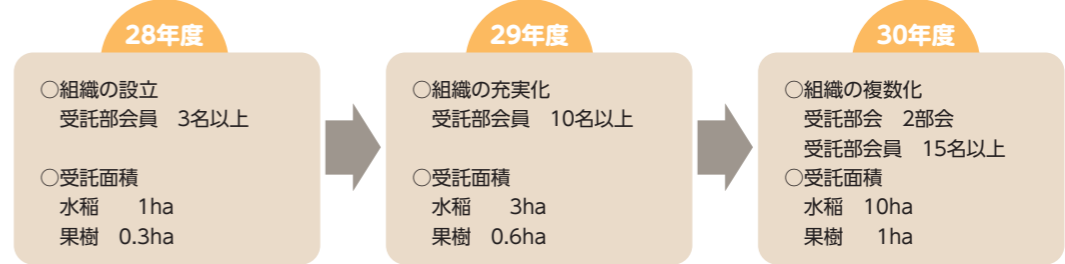
重点実施事項 **4 農作業の受託組織を作り、農業作業支援から農業経営維持拡大できる体制作り**

●具体的方策

- モデルとして津高地区に農作業受託部会設立
- 管内地区で複数組織の設立

数値目標等 (3ヶ年) **作業受託面積(累計) 水稲10ha 果樹1ha**

●各年度の行動計画



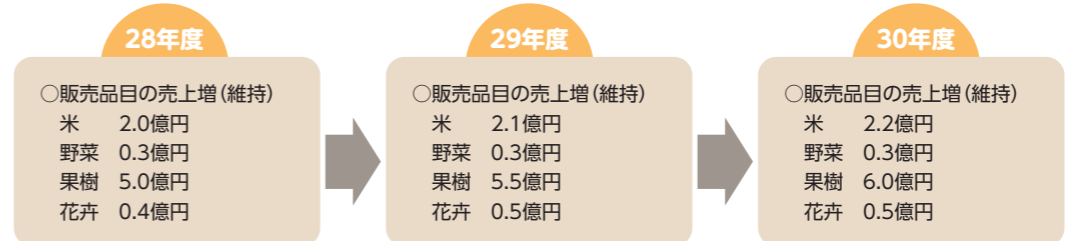
重点実施事項 **5 農産物販売高 9億円の確保**

●具体的方策

管内農産物の安定生産による園芸品目主軸とした販売高の維持伸長

数値目標等 (3ヶ年) **米2.2億円 野菜0.3億円 果樹6.0億円 花き0.5億円**

●各年度の行動計画



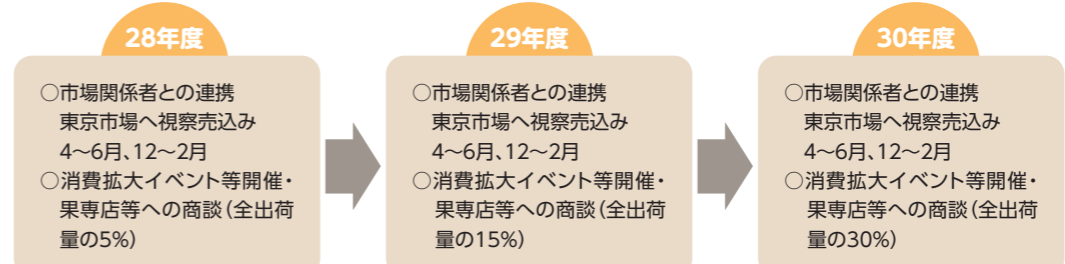
重点実施事項 **6 桃の首都圏出荷拡大を行い、㊦ブランドの桃販売強化**

●具体的方策

桃の東京市場への計画的出荷

数値目標等 (3ヶ年) **東京市場へ全出荷量の30%**

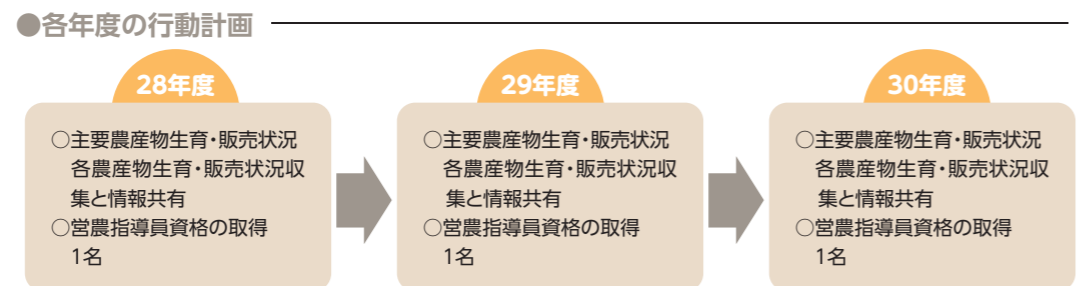
●各年度の行動計画



重点実施事項 7 農業技術者連絡協議会等に参加し技術力を高め、情報等を収集し営農指導に活用

- 具体的方策
生産技術や販売動向等、(営農に関する情報収集と内部共有による営農指導の実践)

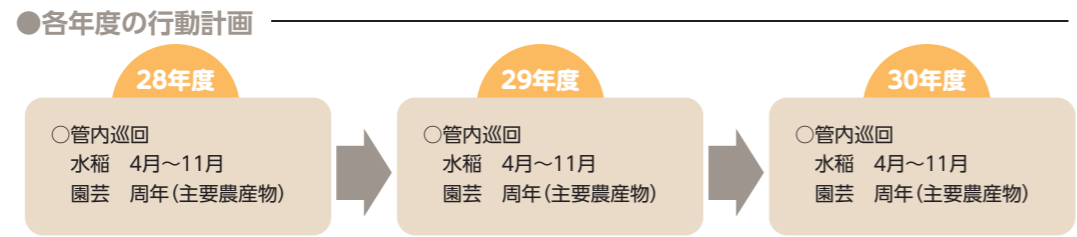
数値目標等 (3ヶ年) 営農関連情報の蓄積 営農指導員育成3名



重点実施事項 8 管内巡回と情報交換会等による管内状況の把握

- 具体的方策
 - 水稲・園芸作物の定期的な管内巡回実施
 - 生産者との情報交換の実施

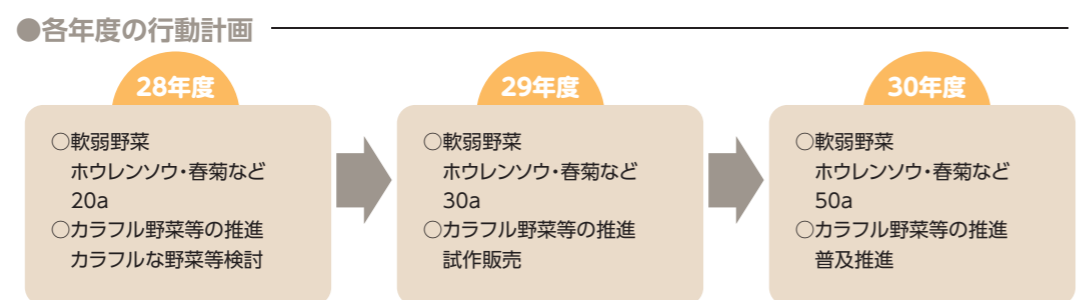
数値目標等 (3ヶ年) 月3回以上



重点実施事項 9 水田裏作への軟弱野菜等の作付け推進

- 具体的方策
水田裏作での野菜作付けの推進と直売所等への出荷誘導

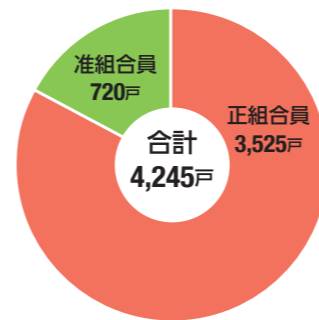
数値目標等 (3ヶ年) 軟弱野菜類50a(累計)



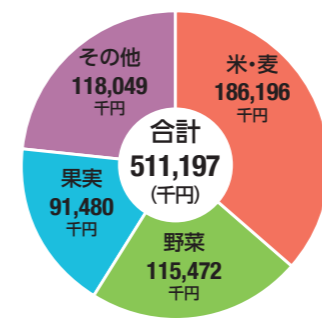
建部 営農センター

1. センター管内の概況

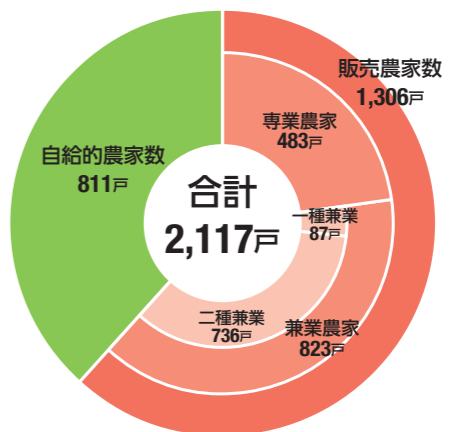
● 組合員戸数



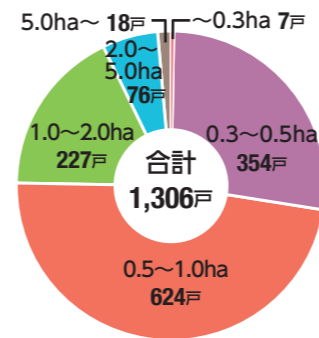
● H27 販売実績 (税抜)



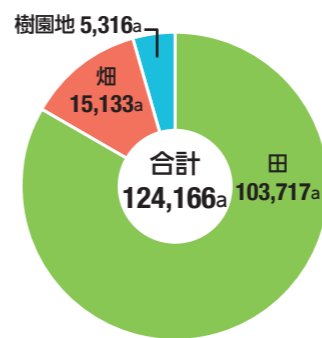
● 総農家数



● 経営規模別販売農家数



● 経営耕地面積



2. 基本テーマ

持続可能な地域農業を目指そう

3. 現状と課題

地域住民の高齢化が進み、山間部はもとより平野部でも耕作放棄地が現れています。園芸関係の農業者は小面積の経営者が多く、また水稲関係は集落営農組織や農作業の受委託などの形態もあり多様化しています。一般的に高齢者の個人経営が大半を占めているのが現状です。

現状のままでは生産者の高齢化と共に地域農業も衰退へと向かっており、持続可能な農業を推進するためにもこれから先の地域農業を任せる担い手確保・育成が喫緊の課題となっています。

4. 基本方針別 目標と方策

1. 農畜産物の生産振興

- 生産部会や関係機関と協力し栽培講習会などを積極的に開催します。
- 農産物直売所出荷者向けに栽培講習会を開催します。
- ピーナー及び次世代フルーツの生産振興に取り組みます。
- 既存品目の生産振興と水田裏作としてたまねぎや夏秋なすの作付けを推進します。

2. 意欲ある担い手の確保育成

- 行政機関と連携し新規就農者の確保に努めます。
- 若手生産者の仲間作りを進めます。
- 農業で生活できる仕組みをつくります。
- 行政機関と連携し集落営農組織への対応を進めます。

3. 販売戦略の強化

- 有利販売に向けて市場担当者や全農、販売先やJA内部での情報交換に取り組みます。
- 取扱品目に対する販売担当者の知識向上に努めます。
- 農産物直売所の有効利用に取り組みます。

4. 営農指導体制の充実

- 営農指導員、部会担当者の指導力向上に取り組みます。
- 関係機関等との情報共有に取り組みます。
- 経営管理支援が行える職員育成を図ります。
- 営農指導員による訪問活動の充実を図ります。

5. 儲かる水田農業の確立

- 経営所得安定対策等の有効活用により農家所得の向上を図ります。
- 低コスト肥料農業の推進と育苗センターやライスセンター等の利用促進に努めます。
- 水田裏作利用による複合化経営の推進に取り組みます。



5. 重点実施事項と年次別行動計画

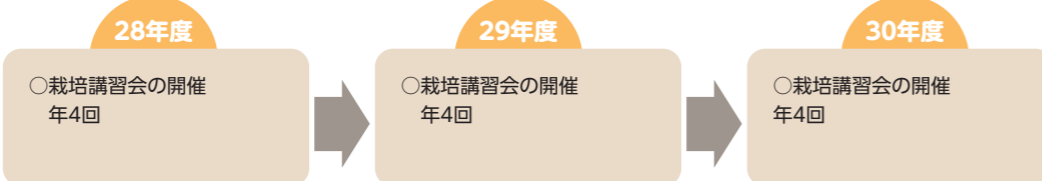
重点実施事項 ① 直売所出荷者向け栽培講習会の開催

● 具体的方策

直売課と連携した栽培講習会の開催（御津・建部・加茂川地区）

数値目標等
(3ヶ年) 年間4回

● 各年度の行動計画



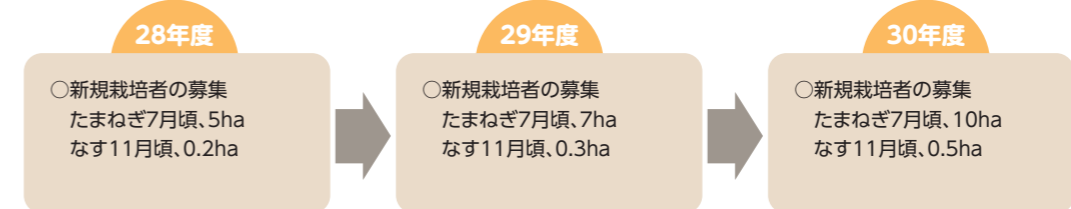
重点実施事項 ② 既存農産物の栽培振興と「たまねぎ」や「夏秋ナス」「契約野菜」などの生産普及推進

● 具体的方策

生産部会や関係機関と協力した水田裏作としてのたまねぎ栽培や夏秋なすの栽培推進

数値目標等
(3ヶ年) たまねぎ10ha なす0.5ha

● 各年度の行動計画



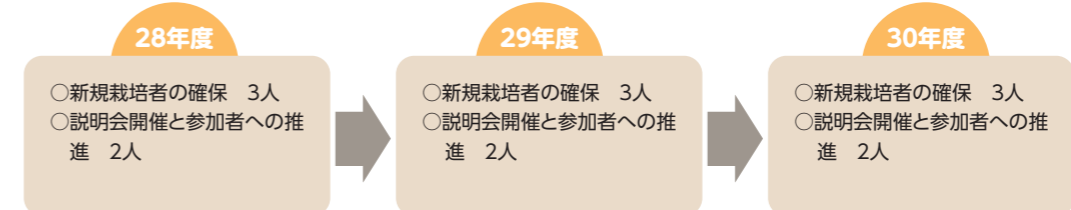
重点実施事項 ③ 新規栽培者の確保と栽培面積・出荷量の増大

● 具体的方策

- 加茂川地区：行政と協力したぶどう新規栽培者の確保
- 御津・建部地区：新規栽培者向けの説明会開催

数値目標等
(3ヶ年) 15人(地区内) 年1回

● 各年度の行動計画



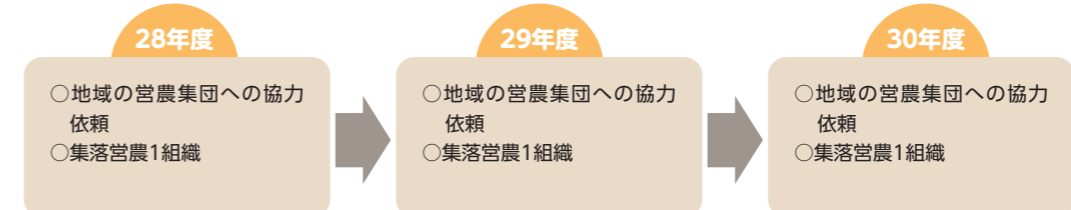
重点実施事項 ④ 集落営農組織への対応

● 具体的方策

行政と連携した地域営農集団等に対する地域の担い手としての協力依頼

数値目標等
(3ヶ年) 集落営農組織 3組織

● 各年度の行動計画

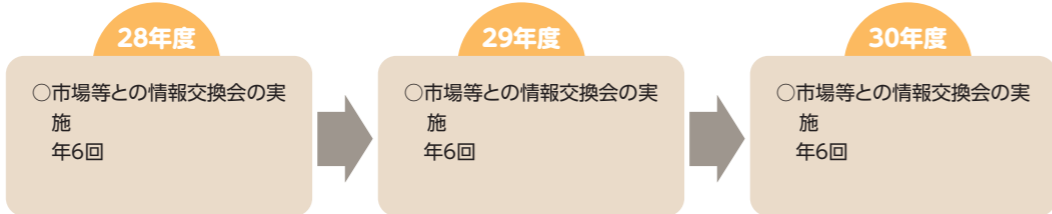


重点実施事項 **5** 部会担当者のレベルアップと、販売先等との情報共有

- 具体的方策
有利販売に向けた部会担当者や市場、全農担当者との情報の共有促進

数値目標等 (3ヶ年) 情報交換会の実施 年6回

- 各年度の行動計画

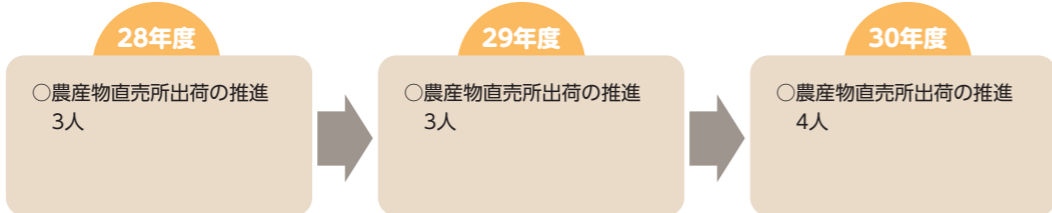


重点実施事項 **6** 直売所の有効活用

- 具体的方策
- 個人出荷の少量商品などの販路として直売所の活用促進
- 新規出荷者の拡大

数値目標等 (3ヶ年) 10名

- 各年度の行動計画

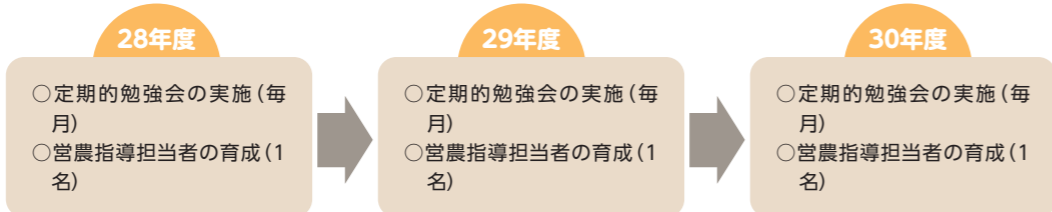


重点実施事項 **7** 営農指導員資格等の取得

- 具体的方策
一般職員向けに営農指導員等による勉強会の開催

数値目標等 (3ヶ年) 営農指導担当者の育成 3名

- 各年度の行動計画

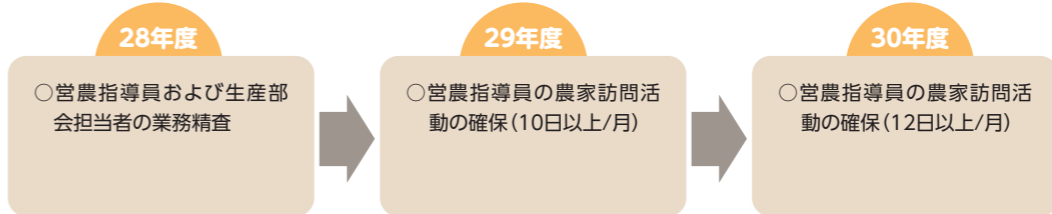


重点実施事項 **8** 営農指導員の農家訪問活動の充実

- 具体的方策
営農指導員の業務見直しと農家訪問時間の確保

数値目標等 (3ヶ年) 農家訪問活動の充実 12日以上/月

- 各年度の行動計画

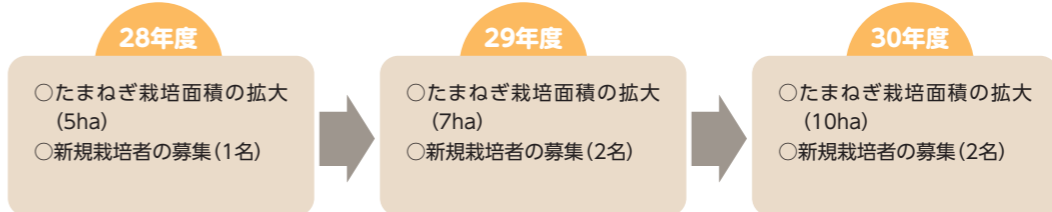


重点実施事項 **9** 行政施策の導入支援・裏作利用による水田の有効活用

- 具体的方策
- 行政施策等に対する職員の知識向上に向けた勉強会の開催
- 玉ねぎ、キャベツ、ホウレンソウ等の水田裏作栽培品目の推進

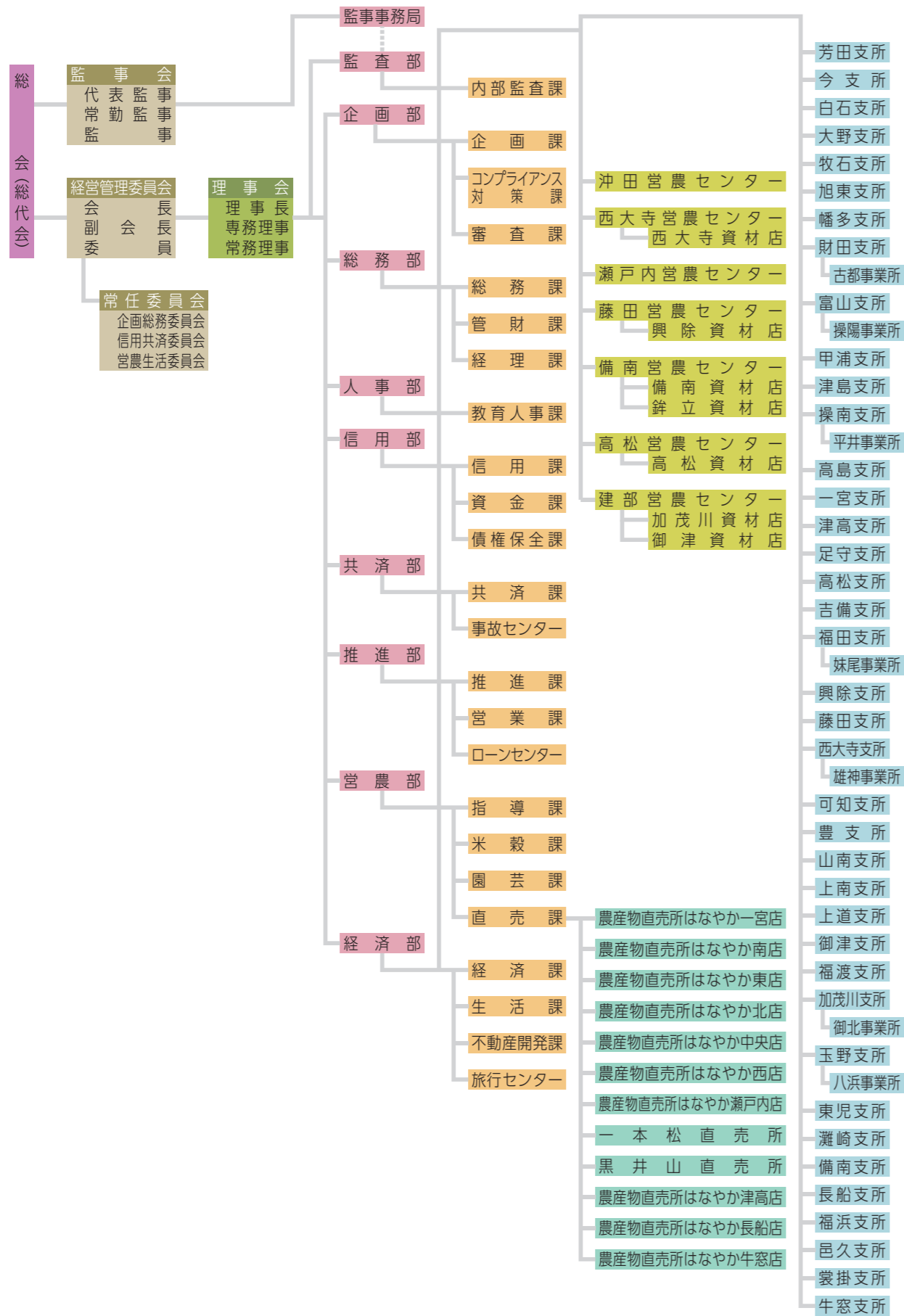
数値目標等 (3ヶ年) たまねぎ10ha キャベツ・ホウレンソウ<5名>

- 各年度の行動計画



1 岡山市農業協同組合機構図

平成 28 年 4 月 1 日現在



2 組合員組織等

●生産者組織／米麦等生産部会等

管轄センター	組織名	構成員数	管轄センター	組織名	構成員数
沖田	JA岡山有機農産物栽培研究会	6 名	藤田	藤田良質麦生産部会	150 名
	高島雄町米振興会	35		水稲種子生産部会	42
	JA岡山中央雄町米生産部会	6		ビール麦種子生産部会	18
西大寺	西大寺新農業経営者クラブ	28		藤田農作業受託部会	8
	東水田作経営者会議	37		興除新農業経営者クラブ	5
瀬戸内	西大寺雄町研究会	2	藤田農業後継者クラブ	7	
	邑久町種子生産組合	38	藤田朝日ブランド米生産部会	15	
	有機栽培研究会	7	玉野市新農業者クラブ	20	
藤田	雄町部会	2	備南	灘崎町新農業者クラブ	20
	せとうち畜産部会	17		備南地区米麦部会	24
	吉備地区農作業受託部会	5		灘崎水田作経営者部会	11
	福田地区黒大豆生産者組合	26	高松	一宮3Mクラブ	10
	興除地区良質麦生産部会	51		津高スリーAクラブ	8
	良質米生産団地育成協議会	324		足守若葉会	13
	興除雄町研究会	4		JA岡山足守・高松良味米生産部会	8
	水田作経営者会議	18		津高農作業受託部会	18
	藤田良質米生産部会	332	建部	JA岡山和牛部会加茂川支部	15
	藤田雄町部会	8		JA岡山御津雄町米生産部会	14

●生産者組織／青果物生産部会等

管轄センター	組織名	構成員数	管轄センター	組織名	構成員数
沖田	岡山市農協青果物生産組合	736 名	西大寺	梨出荷組合	16 名
	レタス部会	30		西大寺野菜部会	94
	施設ナス部会(浦安なす部会)	2		西大寺レタス部会	4
	ブロッコリー部会	4		大宮もも部会	20
	いちじく部会	2		上道ブドウ部会	37
	青ねぎ部会	26	上道花卉部会	3	
	黄ニラ部会	30	長船果樹部会	18	
	根菜部会	7	長船花卉部会	7	
	パクチー部会	12	長船野菜部会	12	
	高島おかざり部会	25	せとうち生産組織運営協議会	1,152	
	果菜部会	6	牛窓白菜部会	107	
	葉菜部会	9	牛窓キャベツ部会	129	
	パセリ部会	8	ぶどう部会(裳掛支部)	32	
	土田青果物出荷組合(ぶどう部会)	8	牛窓冬瓜・そうめん南瓜部会	84	
	沢田生産組合	24	せとうちミニトマト部会	14	
	青果物出荷組合(ぶどう部会)	15	種馬鈴薯部会	55	
	高島セリ部会	4	牛窓南瓜部会	69	
	しろねぎ部会	3	邑久ぶどう部会	30	
	高島ほうれんそう部会	6	牛窓洋菜部会	36	
	桃部会(原分区)	2	せとうちメロン・西瓜部会	42	
牟佐果樹支部(向山出荷組合)	3	せとうち菊菜部会	16		
軟弱野菜部会	8	せとうちアスパラ部会	14		
キャベツ部会	20	みかん部会	28		
小申花卉園芸組合	2	新規果樹部会	10		
タマネギ部会	25	せとうちレモン部会	74		
西大寺ぶどう部会	129	藤田	南ぶどう部会	6	
西大寺いちご部会	22	吉備いちご部会	4		

管轄センター	組織名	構成員数	管轄センター	組織名	構成員数
藤田	福田いちじく部会	12名	高松	高松有機無農薬野菜生産組合 みどり会	19名
	古備葉菜部会	10		足守なす部	14
	藤田施設茄子部会	7		足守ぶどう部	3
	興除施設茄子部会	5		高松いちじく部会	8
	藤田レタス部会	41		高松いちご部会	2
	藤田レンコン部会	2		温室ブドウ高松	25
備南	藤田たまねぎ部会	32	建部	加茂川花卉生産部会	14
	備南施設茄子部会	96		加茂川ぶどう部会	40
	備南レンコン部会	9		加茂川椎茸部会	6
	灘崎ぶどう部会	51		加茂川桃生産部会	18
	灘崎柿部会	11		加茂川施設野菜部会	5
	南梨部会	12		加茂川秋冬野菜部会	11
	備南マッシュルーム部会	2		加茂川なす生産部会	5
	備南蔬菜部会	8		御津建部たまねぎ部会	10
	南レモン部会	11		温室ブドウ円城	4
	備南軟弱野菜部会	4		みつ山の芋部会	23
	玉野ユーカリ生産組合	5		御津ぶどう部会	32
	玉野花卉部会	9		御津しいたけ部	2
高松	一宮選果場果樹部会モモ部	360	御津しきみ部会	9	
	一宮選果場果樹部会ナシ部	12	御津茄子部会	8	
	一宮いちご部会	5	温室ブドウ御津	50	
	温室ブドウ一宮	120	建部きゅうり部会	17	
	温室ブドウ津高	114	建部法連草部会	35	
	足守花卉部	17	建部露地ブドウ部会	15	
	足守メロン部	12	建部ピーマン部会	34	
	高松有機無農薬野菜生産組合 ふるさと会	3	建部つぐね芋部会	3	
	足守椎茸部	14	温室ブドウ建部	6	

●その他の組織

地区	組織名	構成員数	地区	組織名	構成員数
全	JA岡山青壮年部	146名	北	JA岡山北年金友の会	4,202名
全	JA岡山女性部	3,453	南	JA岡山南年金友の会	7,575
全	JA岡山助け合いの会「かがやき」	161	東	JA岡山東年金友の会	6,824
中央	直販部会	26	東	JA岡山瀬戸内年金友の会	4,138
西	「はなやか西店」運営委員会	110	中央	JA岡山中央青色申告会	1,653
西	「はなやか一宮店」運営委員会	231	西	JA岡山西青色申告会	397
北	「はなやか北店」運営委員会	170	南	JA岡山南青色申告会	607
南	「はなやか南店」運営委員会	249	南	JA岡山備南支所農業青色申告会	189
東	「はなやか東店」運営委員会	420	東	JA岡山東青色申告会	685
東	「はなやか長船店」運営委員会	123	東	JA岡山青申会邑久支部	52
東	せとうち産直部会	348	東	JA岡山青申会長浜支部	17
中央	JA岡山中央年金友の会	8,217	東	JA岡山青申会牛窓支部	58
西	JA岡山西年金友の会	5,588			

3 JA岡山 大型共同乾燥調整施設一覧

番号	名称	施設の種類		設置場所	設置年度	設置年月	メーカー		サイロ		対象面積 (ha)				処理能力 (kg)		備考
		カントリーエレベーター	ライスセンター				容量	基数	米	麦	米	麦	米 (60kg)	麦 (50kg)			
1	桑野	DS		岡山市中区桑野	S58	S59.7	サタケ		250	145	20,000	二条	10,150			休止中	
		CE		岡山市中区桑野	H2	H3.3	サタケ		350	7	30,800						
		CE		岡山市中区桑野	H8	H8.3	サタケ		250	6	20,000						
2	高島		RC	岡山市中区湯迫	H4	H5.10	ヤンマー		70		4,900						
3	松新		CE	岡山市東区松新町	S55	S55.4	ヤンマー		250	8	61,600	小麦	28,080	60kg/俵			
		CE		岡山市東区松新町	S63	H1.4	ヤンマー		125	4							
4	水門		DS	岡山市東区水門町	S60	S61.3	ヤンマー		250	4	43,280	小麦	28,080	60kg/俵			
		CE		岡山市東区水門町	H3	H4.5	ヤンマー		250	4							
5	上道		DS	岡山市東区内ヶ原	S59.H7	S59.3	サタケ		308	80	24,640	二条	4,400				
6	高松		RC	岡山市北区三手	S51	S51.10	サタケ		100	2	16,000	二条	4,400				
7	足守		DS	岡山市北区粟井	S52	S52.9	日本車輻		15	3	15,000						
8	津高		RC	岡山市北区富原	S61	S61	ヤンマー				2,000						
9	興除		CE	岡山市南区中畦	H9	H10.3	イセキ		250	8	27,000	二条	26,000				
10	藤田		RC	岡山市南区藤田	H7	H8.3	サタケ		100	200	8,700	二条	18,000				
11	吉備		DS	岡山市北区撫川	S51	S51.10	日本車輻		200	80	15,000	二条	4,800				
12	備南		DS	岡山市南区北七区	S48.S49.S52.S53	S49	サタケ		450	600	36,000	二条	45,000				
13	長船		CE	瀬戸内市長船町福里	S46.47.49.50	S47.3	日本車輻		250	8	13,000	小麦	3,500				
14	御津		CE	岡山市北区御津高津	S56	S57.7	サタケ		100	6	16,000	小麦	6,000	60kg/俵			
15	建部		DS	岡山市北区建部町建部上	S53	S54.5	ヤンマー		160		12,000						
		DS		吉備中央町細田	S59.S60	S59.7	サタケ		190		15,200						
16	加茂川		RC	吉備中央町細田	H4	H5.3	サタケ		120		9,400						
17	邑久		CE	瀬戸内市邑久町豊原	S54	S54	ヤンマー		125	6	22,000	二条	8,800				
18	長浜		RC	瀬戸内市牛窓町長浜	S61	S61.10	サタケ		50		2,500						
19	袋掛		RC	瀬戸内市邑久町虫明	S57	S57.10	サタケ		60		3,000						
合計																418,020	187,210

種子センター
・藤田種子センター
・邑久種子センター

岡山南区藤田
瀬戸内市本庄2374

※CE:カントリーエレベーター
大規模な共同乾燥施設。乾燥、調整、ばら貯蔵を行う。
※RC:ライスセンター
中・小規模な共同乾燥施設。かつては貯蔵施設がなかったが、近年では貯蔵施設が併設されるものも出てきた。
※DS:ドラフトエア方式のライスセンター
貯留用の容器(ビン)に通風装置を取り付け、半乾燥状態の穀物を貯蔵中に送風してゆっくり乾燥し、乾燥終了後はそのまま貯蔵する施設。
※資料:県穀物改良協会「大型乾燥調整施設調査」及びJA岡山調査による。

4 JA岡山 農産物加工施設一覧

平成28年4月1日現在

管轄センター	施設名	住所	主な加工品名
沖田	今 菜果村A	岡山市北区今4丁目3-8	味噌、うどん、惣菜、菓子、寿司、赤飯
	今 菜果村B	岡山市北区今4丁目3-8	大豆テンペ
	福浜農産加工施設	岡山市南区福富東1丁目7-51	豆腐
西大寺	高島加工場	岡山市中区国府市場32-3	味噌
	西大寺手作り農産加工施設	岡山市東区西大寺中野377-1	味噌、もち、豆腐、ひしお、赤飯、寿司、菓子
	西大寺調理室	岡山市東区西大寺中野377-1	味噌
	上道加工場	岡山市東区南古都110	味噌
	長船支所加工室	瀬戸内市長船町福里142	味噌、豆腐、赤飯、寿司、もち、おこわ、おからドーナツ、菓子、どごめせ
瀬戸内	長船料理教室	瀬戸内市長船町土師1202-1	
	むつみ加工施設	瀬戸内市邑久町豊原101-1	豆腐、味噌、寿司、赤飯、甘酒、塩麴、おこわ、ひしお
藤田	福田農産加工施設	岡山市南区古新田1069-1	味噌、ジャム、菓子、赤飯
	吉備農産加工施設	岡山市北区平野904-4	味噌、寿司
	藤田農産加工施設	岡山市南区藤田441	味噌、豆腐、おこわ
	藤田手づくり加工料理教室	岡山市南区藤田441	寿司
	興除農産加工施設	岡山市南区中畦548	味噌、たれ
備南	瀬崎農産加工施設	岡山市南区片岡821	味噌、焼き肉のタレ、おこわ
	彦崎農産加工施設	岡山市南区彦崎2798-5	テンペコロック
	玉野農産加工施設	玉野市用吉1680-1	味噌
	備南農産物加工施設	岡山市南区北七区61-1	味噌
	一宮果樹有館加工場	岡山市北区芳賀1288-43	桃の加工品
高松	一宮料理教室	岡山市北区榎津766-1	
	津高農産加工施設	岡山市北区柏谷1057	味噌
	JA岡山パン工房	岡山市北区下足守3-1	お米パン
	足守手作り農産加工料理教室	岡山市北区大井2386-1	味噌
	足守料理教室	岡山市北区大井2386-1	
建部	西農産物加工施設	岡山市北区三手61-1	味噌、うどん、甘酒、おこわ、たれ、寿司、なら漬
	にここ教室（加茂川）	加賀郡吉備中央町下加茂22-1	味噌
	建部町JA農産物加工施設（建部上）	岡山市北区建部町建部上碩堂331-4	味噌

5 JA岡山 店舗等一覧表

平成28年4月1日現在

事業所名	所在地	電話
本 所	岡山市北区大供表町1-1	代 086-225-3251
事故センター	岡山市北区青江5-1-15	086-225-1166
不動産開発課	岡山市北区大供表町4-36	086-225-9882
旅行センター	岡山市北区大供表町1-1	086-225-9866
ローンセンター	岡山市北区大供表町4-36	086-225-9911
支所・事業所		
本 所（営業課）	岡山市北区大供表町1-1	086-225-9960
芳 田 支 所	岡山市南区新保801-1	086-241-9705
今 支 所	岡山市北区今4-1-5	086-241-5146
白 石 支 所	岡山市北区久米350-1	086-241-0344
大 野 支 所	岡山市北区大安寺南町2-5-2	086-252-3165
牧 石 支 所	岡山市北区玉柏1349-1	086-228-0211
旭 東 支 所	岡山市中区東川原153	086-272-5245
幡 多 支 所	岡山市中区高屋174	086-272-0801
財 田 支 所	岡山市中区長岡473-4	086-279-0518
古 都 事 業 所	岡山市東区古都宿253-3	086-279-0017
富 山 支 所	岡山市中区福泊342-1	086-277-7324
操 陽 事 業 所	岡山市中区倉富22	086-277-7070
甲 浦 支 所	岡山市南区北浦991-1	086-267-2341
操 南 支 所	岡山市中区江崎712-2	086-277-7330
平 井 事 業 所	岡山市中区平井7-9-23	086-277-1355
津 島 支 所	岡山市北区伊島北町4-10	086-254-8705
高 島 支 所	岡山市中区国府市場32-3	086-275-0181
一 宮 支 所	岡山市北区榎津766-1	086-284-0511
津 高 支 所	岡山市北区栢谷1057	086-294-2657
足 守 支 所	岡山市北区大井2386-1	086-295-0111
高 松 支 所	岡山市北区高松141-1	086-287-2501
吉 備 支 所	岡山市北区平野908-1	086-293-0606
福 田 支 所	岡山市南区古新田1066-1	086-282-1151
妹 尾 事 業 所	岡山市南区妹尾873-4	086-282-1195
興 除 支 所	岡山市南区中畦548	086-298-2161
藤 田 支 所	岡山市南区藤田441	086-296-2211
西 大 寺 支 所	岡山市東区西大寺中野377-1	086-943-2972
雄 神 事 業 所	岡山市東区富崎694-1	086-943-2260
可 知 支 所	岡山市東区可知3-1-8	086-943-2444
豊 支 所	岡山市東区西大寺浜620-2	086-943-2218
山 南 支 所	岡山市東区水門町30-3	086-946-8511
上 南 支 所	岡山市東区君津1370-3	086-948-2030
上 道 支 所	岡山市東区南古都21	086-297-3711
御 津 支 所	岡山市北区御津金川346-5	086-724-0511
福 渡 支 所	岡山市北区建部町福渡804-6	086-722-0529
加 茂 川 支 所	加賀郡吉備中央町下加茂22-1	0867-34-1121
御 北 事 業 所	加賀郡吉備中央町富永1423-1	0867-35-1101
玉 野 支 所	玉野市用吉1680-1	0863-71-1571
八 浜 事 業 所	玉野市八浜町八浜596-3	0863-51-1501
東 兎 支 所	玉野市東田井地1445-1	0863-41-1577
灘 崎 支 所	岡山市南区片岡821	086-362-4881
備 南 支 所	岡山市南区北七区61-1	086-362-1521
長 船 支 所	瀬戸内市長船町土師1202-1	0869-26-2003
福 浜 支 所	岡山市南区福富東1-7-47	086-262-1165
邑 久 支 所	瀬戸内市邑久町豊原101-1	0869-22-0002
裳 掛 支 所	瀬戸内市邑久町虫明545	0869-25-0101
牛 窓 支 所	瀬戸内市牛窓町牛窓5045-1	0869-34-5801
営農センター		
沖田営農センター	岡山市中区桑野291-6	086-200-0150
沖田営農センター 牧石駐在	岡山市北区玉柏1349-1（牧石支所）	086-228-0225

事業所名	所在地	電話
営農センター		
西大寺営農センター	岡山市東区西大寺中野377-1	086-944-6155
西大寺営農センター 上道駐在	岡山市東区南古都21(上道支所)	086-297-9118
瀬戸内営農センター	瀬戸内市邑久町豊原101-1	0869-22-1212
瀬戸内営農センター 長船駐在	瀬戸内市長船町土師1198-1(旧農業資材長船店)	0869-26-4064
瀬戸内営農センター 裳掛駐在	瀬戸内市邑久町虫明545(裳掛支所)	0869-25-0103
瀬戸内営農センター 牛窓駐在	瀬戸内市牛窓町牛窓5045-1(牛窓支所)	0869-34-2922
藤田 営農センター	岡山市南区藤田441	086-296-0037
藤田 営農センター 吉備駐在	岡山市北区平野904-1(旧吉備資材店)	086-903-3010
備南 営農センター	岡山市南区北七区61-1	086-363-5122
備南 営農センター 玉野駐在	玉野市用吉1680-1(玉野支所)	0863-71-1573
備南 営農センター 灘崎駐在	岡山市南区片岡821(灘崎支所)	086-362-4856
高松 営農センター	岡山市北区高松210-3	086-905-0710
高松 営農センター 一宮駐在	岡山市北区楳津766-1(一宮支所)	086-284-0511
高松 営農センター 津高駐在	岡山市北区栢谷1057(津高支所)	086-294-6004
高松 営農センター 足守駐在	岡山市北区大井2386-1(足守支所)	086-295-0111
建部 営農センター	岡山市北区建部町宮地86	086-722-9050
農業資材店		
高松 資材店	岡山市北区高松210-3	086-287-8926
西大寺 資材店	岡山市東区西大寺中野377-3	086-944-2888
備南 資材店	岡山市南区北七区61-1	086-362-2245
御津 資材店	岡山市北区御津金川345-1	086-724-5688
加茂川 資材店	加賀郡吉備中央町下加茂22-1	0867-34-1012
銚立 資材店	玉野市北方529-1	0863-66-5211
興除 資材店	岡山市南区中畦548	086-298-9525
農産物直売所		
はなやか中央店	岡山市北区大供表町4-5	086-226-1077
はなやか南店	岡山市南区藤田566-126	086-296-0507
はなやか東店	岡山市東区西大寺松崎159-3	086-944-8788
はなやか北店	岡山市北区御津野々口1509-1	086-724-1979
はなやか西店	岡山市北区下足守3-1	086-295-0235
はなやか津高店	岡山市北区横井上793-1	086-294-2096
はなやか一宮店	岡山市北区芳賀1288-5	086-286-0040
はなやか瀬戸内店	瀬戸内市邑久町豊原101-1	0869-22-0714
一本松直売所	瀬戸内市邑久町尻海3539	0869-25-1900
黒井山直売所	瀬戸内市邑久町虫明5165	0869-25-0895
はなやか長船店	瀬戸内市長船町土師1198-1	0869-26-6211
はなやか牛窓店	瀬戸内市牛窓町牛窓3911-44	0869-34-4500



JA岡山が目指す姿は…

- 生産組織とJAの深い連携のもと、産地の規模が維持され、農業を主要産業として地域が活性化している。
- 長い歴史と卓越した技術をベースに、新品種や省力・低コスト技術の導入が進み、安心できる高品質な農畜産物が長期に安定して生産されている。
- JA岡山管内の農畜産物が市場ニーズに適応し、首都圏をはじめ全国の主要市場に安定的かつ計画的に出荷され、全国屈指の高い評価を受けている。
- 農産物直売所が、地元農畜産物の供給の場として地域に密着し、消費者に大盛況で、小規模農業者の営農意欲の向上にもつながり、地域が活性化している。
- 営農センター、支所、資材店ならびに農産物直売所が地域の中核的な交流の場になっている。
- 営農指導員が営農センターに適正に配置され、計画的かつ効果的な活動を展開し、農家のニーズに的確に対応している。
- 関係機関と連携のもと、農業の担い手が地域内外から押し寄せ、生産部会員数の確保はもちろん、農業者の若返りが進んでいる。
- JA岡山管内の農地が有効活用され、耕作放棄地が減少に向かっている。

※概ね10年後を想定しています

平成28年7月発行

企画・編集／岡山市農業協同組合 営農部

〒700-8535 岡山市北区大供表町1-1

TEL086-225-3224

印刷製本 ノーイン株式会社